

おおくらばくふしゅうへんいせきぐん  
大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

雪ノ下天神前 562 番 30 地点

## 例 言

1. 本報は、「大倉幕府周辺遺跡群」(No.49)内、雪ノ下天神前562番30地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 調査期間 平成19(2007)年11月7日～平成19(2007)年12月14日
3. 調査面積 26.25㎡
4. 略 称 OSYT562
5. 調査体制
  - 担 当 者 馬淵和雄
  - 調 査 員 鍛冶屋勝二・松原康子・岩崎卓治(資料整理)・沖元道(同前)
  - 調査補助員 佐藤あおい・佐藤千尋(資料整理)・田中聡(同前)
  - 作 業 員 小口照男・金丸義一・伴一明・渡辺輝彦(以上(社)鎌倉市シルバー人材センター)
6. 本報作成分担
  - 遺構図整理 沖元
  - 遺物実測 岩崎・沖元・松原・佐藤(千)・田中
  - 同墨入れ 岩崎・沖元・佐藤(千)
  - 同観察表 沖元
  - 同計量表 沖元・佐藤(千)
  - 同写真撮影 沖元
  - 図版作成 沖元
  - 原稿執筆 沖元・馬淵
  - 編 集 沖元
7. 整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。
  - 土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社
  - 瓦 瓦：原 廣志2002「第4章 出土瓦について」『永福寺跡－遺物・考察編－』鎌倉市教育委員会
  - 瀬 戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
  - 尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
  - 常 滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県
  - 渥 美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県
  - 貿易陶磁：太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
8. 本報告掲載の現地写真は馬淵・鍛冶屋が撮影した。
9. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
10. 本報告では世界測地系(第IX系)の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して謝意を示したい。

押木弘己・汐見一夫・原廣志・福田誠

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡と調査地点の概観 .....	99
1. 位置と地勢	
2. 歴史的環境	
第二章 調査の概要 .....	104
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査方法	
第三章 調査結果 .....	106
第1節 概要	
1. 層序と面の概要	
第2節 各説	
1. 1面遺構群	
2. 2面遺構群	
3. 3面	
4. 最終トレンチ	
5. 表採・攪乱坑出土遺物	
第四章 まとめと考察 .....	139
1. 遺構の変遷と年代	
2. 本調査地点と周辺の調査成果より	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 .....	100	図12 2面遺構群全図、同出土遺物 .....	117
図2 明治15年頃の調査地点周辺 .....	103	図13 2面遺構群炭層直上・炭層内・	
図3 調査区設定図 .....	105	構築土出土遺物 .....	118
図4 調査区土層断面図 .....	106	図14 溝1上層・下層、同出土遺物 .....	119
図5 1面遺構群遺構全図、		図15 土坑7・8・10・13・	
同出土遺物・攪乱B出土遺物 .....	109	P.11・87・88、同出土遺物 .....	121
図6 1面遺構群上層・1面遺構群直上・		図16 土坑13炭層内・炭層下出土遺物、	
1面遺構群構築土出土遺物 .....	110	土坑14・15・16、同出土遺物 .....	123
図7 土坑1・3・4・5・6、同出土遺物 .....	111	図17 P.40・41・2面遺構群ピット出土遺物 .....	124
図8 土坑2、同出土遺物 .....	112	図18 3面遺構全図・溝2、同出土遺物 .....	125
図9 土坑9・11・P.13・29・30・		図19 最終トレンチ、同出土遺物 .....	126
60・66・106・107、同出土遺物 .....	113	図20 表採・攪乱坑出土遺物 .....	127
図10 P.44、同出土遺物・		図21 北壁土層概念図 .....	139
1面遺構群ピット出土遺物(1) .....	114	図22 本調査地点と周辺の調査成果 .....	141
図11 1面遺構群ピット出土遺物(2) .....	115		

## 表 目 次

表 1 出土遺物観察表 (1).....	128	表 7 出土遺物観察表 (7).....	134
表 2 出土遺物観察表 (2).....	129	表 8 出土遺物観察表 (8).....	135
表 3 出土遺物観察表 (3).....	130	表 9 出土遺物観察表 (9).....	136
表 4 出土遺物観察表 (4).....	131	表 10 出土遺物観察表 (10).....	137
表 5 出土遺物観察表 (5).....	132	表 11 出土遺物計量表.....	138
表 6 出土遺物観察表 (6).....	133		

## 図 版 目 次

図版 1 .....	144	3 - 5 2面遺構群土坑13上層炭層 (東から、遺物は図15-5)	
1 - 1 県道204号線(六浦路)調査地点入口 より西を臨む		3 - 6 2面遺構群土坑13完掘状況(北から)	
1 - 2 近景、県道204号線(六浦路)(東から)		3 - 7 2面遺構群土坑13完掘状況(北東から)	
1 - 3 手前・県道204号線(六浦路)、 奥・調査区(南から)		図版 4 .....	147
1 - 4 1面遺構群全景(東から)		4 - 1 北壁際最終トレンチ内集石 (3面)出土状況(南から)	
1 - 5 1面遺構群全景(北から)		4 - 2 北壁際最終トレンチ(東から)	
1 - 6 1面遺構群土坑2(西から)		4 - 3 北壁際最終トレンチ大溝内 木製品出土状況(南から)	
1 - 7 1面遺構群土坑2・3(西から)		4 - 4 北壁際最終トレンチ大溝内 木製品出土状況(南から・拡大)	
1 - 8 1面遺構群土坑3南北ベルト(西から)		4 - 5 北壁土層断面	
図版 2 .....	145	図版 5 .....	148
2 - 1 1面遺構群土坑1遺物出土状況 (北から)		5 - 1 北壁土層断面(中央)	
2 - 2 1面遺構群土坑1東西土層断面 (北から)		5 - 2 北壁土層断面(東側)	
2 - 3 1面遺構群土坑1完掘状況(南から)		図版 6 .....	149
2 - 4 1面遺構群P.44(北から)		6 - 1 北壁土層断面(土塁状遺構と大溝)①	
2 - 5 1面遺構群P.13内遺物出土状況 (南から)		6 - 2 北壁土層断面(土塁状遺構と大溝)②	
2 - 6 2面遺構群全景(東から)		図版 7 出土遺物 1 .....	150
2 - 7 2面遺構群全景(北から)		図版 8 出土遺物 2 .....	151
図版 3 .....	146	図版 9 出土遺物 3 .....	152
3 - 1 2面遺構群全景(南から)		図版 10 出土遺物 4 .....	153
3 - 2 2面遺構群溝1上層(北から)		図版 11 出土遺物 5 .....	154
3 - 3 2面遺構群溝1上層(南から)		図版 12 出土遺物 6 .....	155
3 - 4 2面遺構群焼土内青磁(図13-14) 出土状況(北から)		図版 13 出土遺物 7 .....	156

# 第一章 遺跡と調査地点の概観

## 1. 位置と地勢

### 地勢

大倉幕府周辺遺跡群は、大倉幕府跡比定地の東・南・西側に隣接する一帯の遺跡名称である。本地点は、遺跡地のなかでも東側に位置し、幕府比定地の南東角に面した場所にあたる。鶴岡八幡宮東側から東京湾側の六浦に向かう旧街道が、大倉幕府前の約400 m続く直線が尽きていくらか南に曲がり始めたあたりの北側になる。ちょうどこの地点から、二階堂川の右岸を北東方向に路地が通じており、これが鎌倉時代には二階堂大路と称された道と推定される。

調査地点の現地表面は海拔12.00 mほどで、調査地点南の旧街道にあたる県道204号金沢鎌倉線の海拔は、10.30 mほどである。

(馬淵・沖元)

## 2. 歴史的環境

### 縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式(赤星1959)、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利E式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器(地点12・馬淵2014)、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式(赤星1959)の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである(上本2000)。

旧市街で人の生活痕跡が確認できるのは弥生時代中期後半からである。地点14・16において、大規模な集落が確認されている(馬淵1998・1999、齋木ほか2007)。また、地点14においては、方形周溝墓とおぼしき周溝が検出されている(齋木ほか2007)。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近、御成小学校近辺の平坦な微高地で発見されている。調査地点付近では地点5において、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落址が確認されている(馬淵1993)。この他、宇津宮辻子幕府跡において、古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある(鈴木1996)。

### 奈良・平安期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郷鎌倉里 軽マ□寸稻 天平五年九月」とあるものである(國平・長谷川1990)。文献史料上では、天平七年(735年)の裏書を持つ『相摸国封戸租交易帳』(『正倉院文書』正集十八『神奈川県史 資料編』1-58)に「従四位下高田王食封 鎌倉郡鎌倉郷参捨戸 田壹伯参拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相摸国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉郡内とされる。承平年間(931年-938年)に編纂された『和名類聚抄』(高山寺本『神奈川県史 資料編』1-490)には、鎌倉郡内の郷名として沼濱、鎌倉、埼玉、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年(749年)の『調庸布墨書』(東大寺正倉院御物『神奈川県史 資料編』1-102)に「相模國鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、『新編相模国風土記稿』(荏柄天神社)の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を





図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 (1/5000)



大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 本調査地点 雪ノ下字天神前 562-30 1.二階堂字荏柄58-4外(2000調査)原2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会 2.二階堂字荏柄76-8(2006調査)伊丹ほか2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会 3.二階堂字荏柄76-4(2007調査) 4.二階堂字荏柄27-3の一部(2002調査)原2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 5.二階堂字荏柄38-1(1991調査)馬淵1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-2」鎌倉市教育委員会 6.二階堂字荏柄3-6外(2006調査) 7.二階堂字荏柄3-6外(2008調査) 8.雪ノ下大倉耕地565-4(1989調査)菊川英1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 9.雪ノ下天神前562-29(1994調査)福田1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 10.雪ノ下字大倉耕地562-16(2000調査)菊川泉2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会 11.雪ノ下四丁目567-7(2002調査)馬淵2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会 12.雪ノ下四丁目570番1(2006調査)馬淵2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会 13.雪ノ下四丁目581-2(1981-82松尾) 14.雪ノ下四丁目581-5(2003調査)齋木2007「大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書」(尙鎌倉遺跡調査会) 15.雪ノ下四丁目580-10外(2000原)原2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会 16.雪ノ下四丁目620-5(1996調査)馬淵1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会・馬淵1999「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 17.雪ノ下四丁目620-18(1980調査) 18.雪ノ下四丁目620-2(1980調査) 19.雪ノ下四丁目610-2(1983-84調査) 20.雪ノ下四丁目600(1980調査) 21.雪ノ下三丁目606-1(1991調査)菊川英1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 22.雪ノ下三丁目607外(1992調査)菊川英1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会 23.雪ノ下三丁目607-1(2001調査)降矢2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会  
西御門遺跡 (No.325) 24.西御門一丁目11-4(2006調査) 25.西御門一丁目681-1(2006調査)  
大倉幕府跡 (No.253) 26.雪ノ下三丁目707-1(1990調査) 27.雪ノ下三丁目637-4(2006調査)熊谷2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会 28.雪ノ下三丁目637-6外(2008調査) 29.雪ノ下三丁目635-2外(2008齋木・熊谷) 30.雪ノ下字大倉耕地569-1(1989調査)馬淵1990「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 31.雪ノ下三丁目693-8(2009調査)押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 32.雪ノ下三丁目693-1(2010調査)滝澤・宮田「大倉幕府跡」(No.253)発掘調査報告書(尙博通) 33.雪ノ下三丁目694-18(2009調査)「大倉幕府跡」(No.253)発掘調査報告書(尙博通) 34.雪ノ下三丁目701-14・701-3・701-1(2002-2003調査)馬淵・滝澤2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会 35.雪ノ下三丁目704-3外(2005調査)福田2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会 36.雪ノ下三丁目648-3(2009原・山口) 37.雪ノ下三丁目648-8(2010齋木・降矢) 38.雪ノ下三丁目651-8(1997調査)汐見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 39.雪ノ下三丁目629-1(2007調査)宮田他2011「大倉幕府跡」(No.253)発掘調査報告書(尙博通) 40.雪ノ下三丁目618-4(2000調査)汐見2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会  
大倉幕府北遺跡(No.193) 41.西御門二丁目756-10・756-6(2004調査)滝澤2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 42.西御門二丁目796-1外2筆(2001調査)森・宮田2002「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」大倉幕府北遺跡発掘調査団 43.西御門二丁目803-17(1997調査)熊谷1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 97.西御門二丁目816ほか1筆(1999調査)宮田2000「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」

報恩寺遺跡 (No.251) 44.西御門一丁目91-3他(1974・75・76調査)松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1」鎌倉市教育委員会  
保寿院跡 (No.250) 45.西御門一丁目922-4(2004宮田)宮田・滝澤2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会  
政所跡 (No.247) 46.雪ノ下三丁目965(1990手塚)瀬田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 47.雪ノ下三丁目966-1(1990手塚)瀬田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 48.雪ノ下三丁目971-6(1997手塚・野本) 49.雪ノ下三丁目970-2外(1997手塚)野本1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 50.雪ノ下三丁目989-4(1999調査)宗臺秀ほか2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会 51.雪ノ下三丁目988(1991調査)手塚・田畑1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 52.雪ノ下三丁目987-1・2(1990調査)手塚・宮田1991「政所跡」政所跡発掘調査団  
北条高時邸跡 (No.281) 53.小町三丁目426-3(1994原)原他1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 54.小町三丁目451-1(2004菊川)菊川・森2004「北条高時邸跡」(尙齊藤建設)  
北条小町邸跡 (No.282) 55.雪ノ下一丁目377-6・7(1994調査)馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 56.雪ノ下一丁目374-2(1985調査)玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 57.雪ノ下一丁目407-3の一部(2002調査)原ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会 58.雪ノ下一丁目395(1988菊川)菊川1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 59.雪ノ下一丁目403-14(2013調査) 60.雪ノ下一丁目427番2外(2007調査)沖元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 61.雪ノ下一丁目401-5他(2001調査)馬淵ほか2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 62.雪ノ下一丁目400-1(2000調査)馬淵ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2」鎌倉市教育委員会  
若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 63.小町三丁目425-1の一部(2005調査)原・宇都2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 64.小町三丁目425-3(2004調査)原・宇都2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会 65.小町三丁目422-2外(2005調査)伊丹ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会  
横小路周辺遺跡 (No.259) 66.二階堂字四ツ石115-3の一部(2003調査)福田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会 67.二階堂字横小路110-3(1994調査)宗臺他1996「横小路周辺遺跡」横小路周辺遺跡発掘調査団 68.二階堂字横小路93-11(1998調査)野本1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 69.二階堂字稲葉越856-5(2009調査) 70.二階堂字向荏柄880・874(1982調査)馬淵1985「向荏柄遺跡発掘調査報告書」 71.二階堂字向荏柄875-4(2008調査) 72.二階堂字荏柄10-1(2001調査)原2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 73.二階堂字荏柄10-6(1998調査)福田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 74.二階堂字荏柄9-1(1988調査)菊川1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 75.雪ノ下五丁目557-1(1996調査)野本1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会  
杉本寺周辺遺跡 (No.158) 76.二階堂字杉本903(1974調査)松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1」鎌倉市教育委員会 77.二階堂字杉本912(1984調査)馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会 78.二階堂字杉本912-1ほか(1990・1999調査)馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会 79.二階堂字杉本932-1他8筆(2005調査)2007「杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書」(尙博通)

田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 80. 浄明寺字宅間562-33 (1990調査) 大上1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 81. 浄明寺字釈迦堂658 (1989調査) 手塚・田畑1990「釈迦堂田楽辻子遺跡」釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査 82. 浄明寺一丁目661 (1998調査) 森2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会 83. 浄明寺一丁目676-1 (2008調査) 齋木2012「田楽辻子周辺遺跡」(有)鎌倉遺跡調査会 84. 雪ノ下五丁目555-1 (2000調査) 福田2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 85. 浄明寺一丁目556-6外 (2009調査) 押木2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2」鎌倉市教育委員会 覚園寺旧境内遺跡 (No.435) 86. 二階堂字会下351-3外 (2004調査) 伊丹2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 87. 二階堂字会下351-1 (2005調査) 馬淵2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 88. 二階堂字会下351-2外 (2005調査) 原2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 89. 二階堂字会下331-3外 (2004調査) 齋木ほか2005「覚園寺旧境内遺跡発掘調査報告書」(有)鎌倉遺跡調査会 90. 二階堂字会下323 (2000調査) 福田2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会 103. 二階堂字中村363-5内 (1994調査) 田代ほか「中世石窟遺構の調査」東国歴史考古学研究所 浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 91. 浄明寺三丁目3-2 (2003調査) 福田ほか2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1」鎌倉市教育委員会 鶴岡八幡宮旧境内遺跡 (No.56) 92. 雪ノ下二丁目1・16-2 (1986調査) 齋木1987「鶴岡八幡宮境内遺跡発掘調査報告Ⅱ」鎌倉市鶴岡八幡宮 93. 雪ノ下二丁目75-16 (1995調査) 菊川1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 94. 雪ノ下二丁目73-1 (1980-81調査) 服部1984「裏八幡西谷遺跡」神奈川県立埋蔵文化財センター 西御門東やぐら群 (No.449) 95. 西御門一丁目31 (2003調査) 鈴木2005「西御門東やぐら群Ⅱ かながわ考古学財団調査報告187」(財)かながわ考古学財団 96. 西御門一丁目22-1・23・25-1・2 (2001・2002・2003調査) 鈴木他2005「西御門東やぐら群 かながわ考古学財団調査報告181」(財)かながわ考古学財団 大倉幕府北やぐら群 (No.460) 98. 西御門二丁目792-2 (調査)

鈴木2004「大倉幕府北やぐら群 かながわ考古学財団調査報告162」(財)かながわ考古学財団 会下山西やぐら群 (No.331) 99. 二階堂306 (2004調査) 井関ほか2006「会下山西やぐら群 かながわ考古学財団調査報告196」(財)かながわ考古学財団 100. 二階堂309・310・311 (2005調査) 井関ほか2006「会下山西やぐら群Ⅱ かながわ考古学財団調査報告204」(財)かながわ考古学財団 101. 二階堂309・310・311 (2006調査) 井関2008「会下山西やぐら群Ⅲ かながわ考古学財団調査報告219」(財)かながわ考古学財団 102. 二階堂字会下312 (1986調査) 田代1987「会下山西やぐら発掘調査報告書」会下山西やぐら発掘調査団 杉本城跡内やぐら (No.386) 104. 二階堂字稲葉越851 (1989調査) 田代・継1991「平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」杉本城跡内やぐら・宅間ヶ谷やぐら発掘調査団 105. 二階堂字稲葉越851内(1990調査) 神奈川県立埋蔵文化財センター 1990「神奈川県立埋蔵文化財センター年報9」神奈川県立埋蔵文化財センター 杉本寺南やぐら群 (No.318) 106. 二階堂字杉本896 (1995調査) 1996「中世石窟遺構の調査」東国歴史考古学研究所 107. 二階堂字杉本930外 (1997調査) 宗臺1999「中世石窟遺構の調査Ⅲ」東国歴史考古学研究所 108. 二階堂字杉本903 (1987調査) 田代1988「報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書」報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団 国指定史跡・法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓) 109. 西御門二丁目686他 (2005福田) 福田他2005「北条義時法華堂跡」鎌倉市教育委員会 国指定史跡・永福寺跡 110. 福田・菊川泉2001「永福寺跡一遺構編一」鎌倉市教育委員会、福田ほか2002「永福寺跡一遺物編・考察編一」鎌倉市教育委員会、福田・永田2011「永福寺跡」鎌倉市教育委員会 国指定史跡・鶴岡八幡宮境内 111. 雪ノ下二丁目1051-3内 (1979調査) 齋木ほか1983「研修道場用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮 112. 雪ノ下二丁目1051-1内(1982松尾) 松尾他1985「鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 113. 雪ノ下二丁目1051-1内 (1979調査) 齋木ほか1983「直会殿用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮

失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古訓あれば、えがらはえがやの轉訛なるを後文字をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたるとされ(鈴木・鈴木1984)、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

今小路西遺跡では古代郡家の政庁域と付屬舎域、平安期に下る基壇倉庫群などが検出されており、古代Ⅰ期は「糶五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から8世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土遺物から10世紀初頭頃に比定している(河野ほか1990)。

また、奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれていることが指摘されている(野口1993・馬淵1994)。

この他に、平安後期以降の事例として、地点46において鶴岡八幡宮境内の国宝館収蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板製五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

(沖元)

## 鎌倉時代

二階堂大路は六浦道から永福寺惣(総)門にいたる600mほどの直線道路で、その基点となる本地点南の交差点は、鎌倉幕府が建長三年(1251)と文永二年(1265)に設置した商業地区7地点のうちのみら



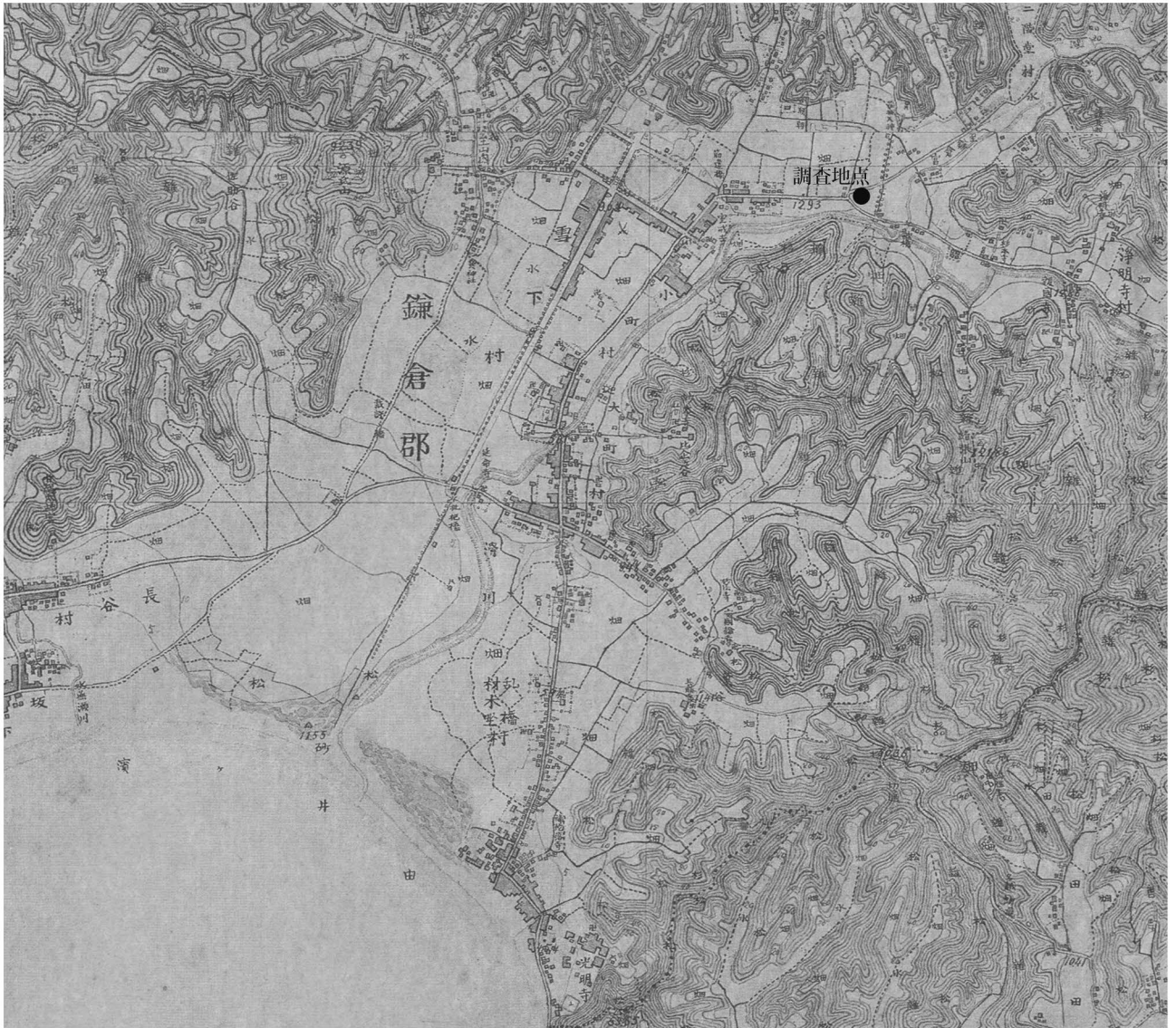


図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)(1/20000)

れる「大倉辻」に相当するのであろう。ここは六浦往還の要衝でもあり、時代を下った天文十七年(1548)、この地にある橋の西詰めに、小田原城主北条氏康により荏柄社造営料徴収のための関取場が置かれた(「荏柄天神社造営関定書案」『神奈川県史 資料編』3 - 3863)。以来、橋には「関取橋」の名がついた。先年この橋の西詰めにあたる場所で発掘調査がおこなわれ、関取場とみられる近世初期の礎石建物が発見された(馬淵1990)。

『吾妻鏡』には調査地点付近の記事が頻出する。とりわけ、二階堂大路を挟んだ調査地点の対面位置一帯は荏柄社の前に当たり、建暦三年(1213)の和田の乱に関して『吾妻鏡』にしばしば消息の伝わる場所である。このとき、和田義盛の甥、平太胤長の屋地の収公をめぐって、乱の一因ともなる争論が義盛と北条義時らの間に起きる。胤長の屋地の場所は、「在荏柄前。依為御所東隣」だという(三月二十五日条)。さらに5月4日、乱のとき、「尼御台所御第」として「東御所」と見え(同日条)、貫達人はそれを「幕府の郭外で、東方の近くにあった」と推定する(貫1971)。

かつて調査地点の大路向かい側でおこなわれた発掘調査で、大型掘立柱建物群とともに、大路の北側側溝、および側溝に平行した塀もしくは柵とおぼしい鎌倉時代初期の長大な柱穴列が見つかった。発見

された掘立柱建物は、鎌倉でも過去に例がないほど大きく、文献史料からの位置検討とあわせ、筆者はその場所を「東御所」に比定したことがある（馬淵1993）。

『吾妻鏡』には北条義時の「大倉亭」についての記事もしばしばみられる。貫はその場所を、寛喜三年（1231）正月十四日条などから、「杉本観音の西方で、二階堂大路の辺」と推定したうえで、関取橋の近所、と書き加えている（貫1971）。そうだとすれば調査地点は至近の場所ということになるが、「関取橋の近所」とするには根拠がいささか薄く、しかも「杉本寺の西方で、二階堂大路の辺」に該当する場所は広大に過ぎるので、調査地点と義時大倉亭の関係については、まだ保留しておきたい。

いずれにしても、調査地点が鎌倉時代前期には幕府要人の往来する場所であったことは確かであろう。  
(馬淵)

## 第二章 調査の概要

### 1. 調査にいたる経緯

雪ノ下天神前562番30地点において個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は大倉幕府周辺遺跡群（No.49）として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であるため、確認調査が行われた。その結果地表面下40cmほどで遺構面が確認された。

建築計画では表層地盤の改良が行われるため、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19（2007）年11月7日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年11月8日から開始された。

### 2. 調査の経過

#### 日誌抄

11月7日（水）	重機による表土掘削	のため、トレンチによる土層堆積の確認のみ。
11月9日（金）	1面調査開始	12月11日（火） 北壁際に土層確認トレンチ、掘削開始
11月27日（火）	1面全景写真撮影	
12月10日（月）	2面全景写真撮影	12月14日（金） 土層断面写真撮影・機材撤収

以下は地盤改良による遺構が損壊される深度以下

### 3. 調査方法

#### 掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。

#### 測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を5mおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

[エリア9] X - 75 014.24 ~ X - 75 021.75  
Y - 24 580.45 ~ Y - 24 588.77

(沖元)

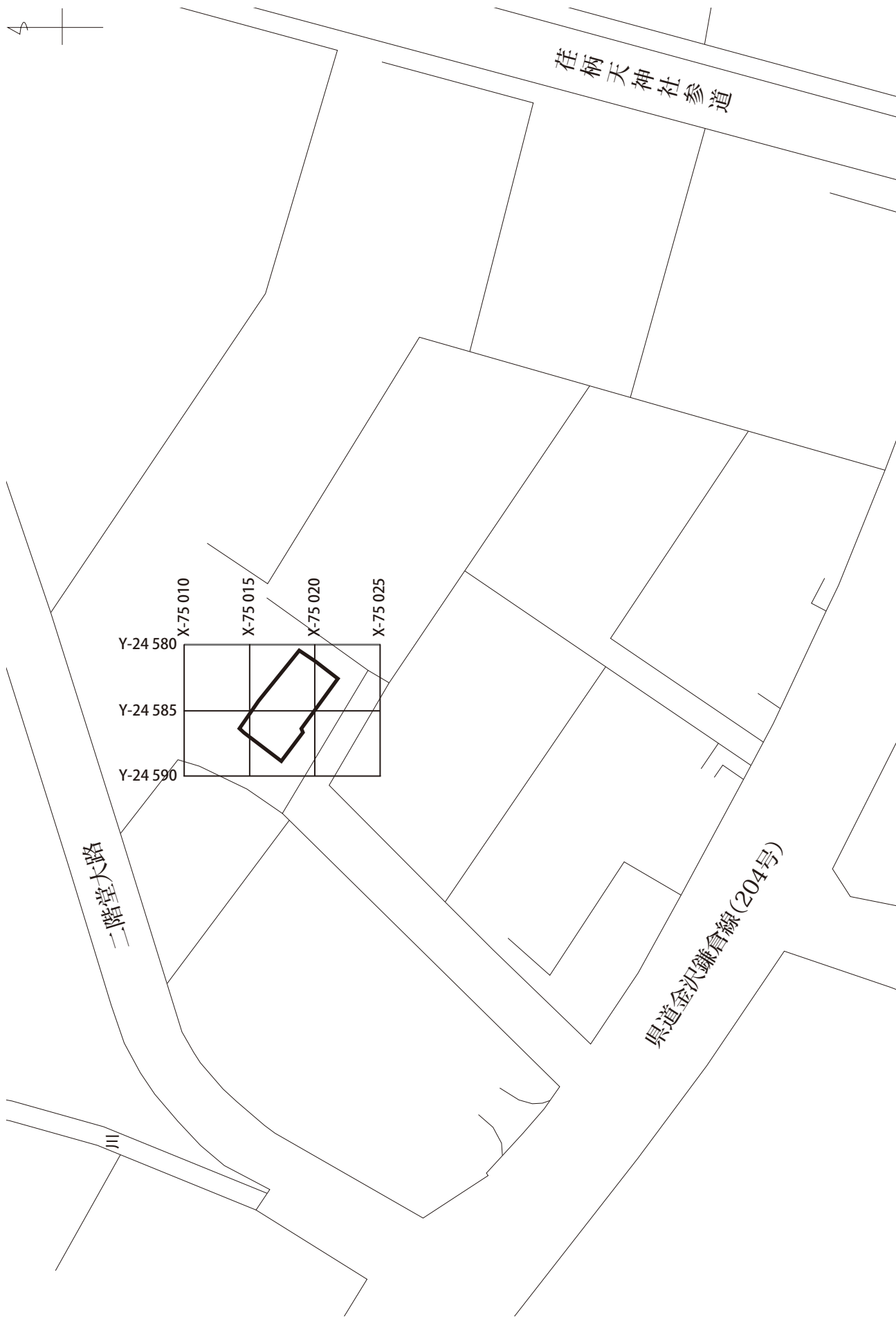


図3 調査区設定図 (1/300)



# 第三章 調査結果

## 第1節 概要

### 1. 層序と面の概要

#### 地表面と表土

地表面の海拔は12.00 m～11.85 mほどで、南東から北西に若干傾斜するほぼ平坦な面になっている。

表土層は25～65cmほどあり、一部深くなっているものの、おおむね地表面と同様の傾斜で堆積している。この表土層を除くと後世の攪乱により削平され、部分的に残る地行層が確認できる。この最上層の地行層を5cm～15cm掘り下げるとさらに地行層が検出でき、この2枚の地行層を1面遺構群とした。

迅速測図では本地点周辺は畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で1面遺構群より上層は削平を受けている。

#### 1面遺構群

表土層直下に現われる海拔11.54 m～11.67 mに残存する最初の地行層と、この地行層下5～15cmほど、海拔11.38 m～11.67 mに堆積する地行層を1面遺構群として、遺構検出を行った。遺構の掘り込み面が削平されている箇所が多いため、遺構出土遺物から考えられる年代には幅がある。

#### 2面遺構群

海拔11.37 m～11.63 mに堆積する17層と11.17 m～11.24 mに堆積する地行層の29層・29'層とを2面遺構群として遺構検出を行った。17層は暗褐色弱粘質土で地行層とは違うが、遺構が掘り込まれているため、1時期の遺構検出面として評価できる。29'層は土塁状遺構の外側を大型泥岩で地行し、29層は土塁状遺構の構築土中の地行であるが、土塁状遺構脇の地行層である29'層とあわせてほぼ平坦になるように削平されている。

(沖元)

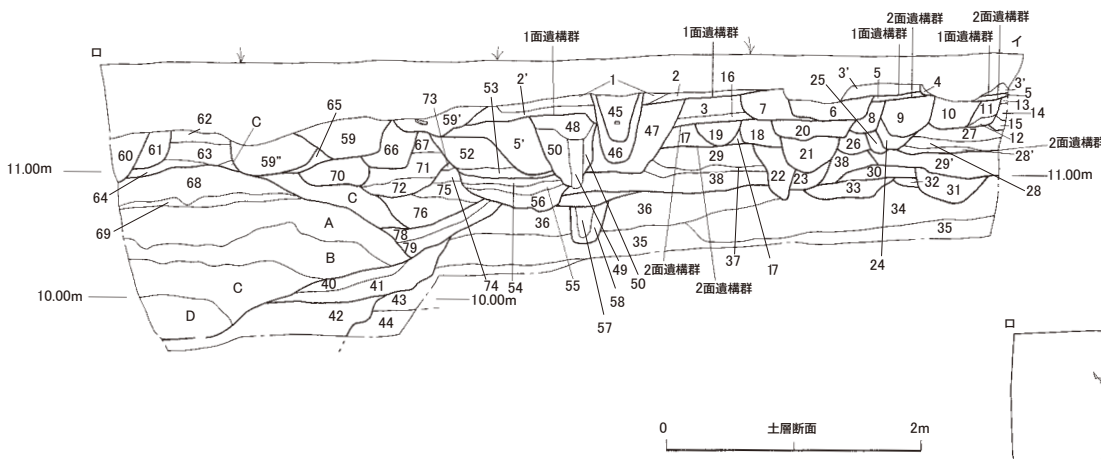


図4 調査区土層断面図

1. 泥岩地行層 拳大～半人頭大の泥岩つまる 茶褐色土・泥岩粒・土器細片含む
2. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物(少)・土器細片(少)・山砂含む
- 2'. 茶褐色弱粘質土 2より含有物やや多い、焼土(多)含む
3. 半泥岩地行層 上部、破碎泥岩密 下部、茶褐色土(多)・泥岩(粒～小石)・礫・炭化物・山砂含む
4. 黒褐色弱粘質土(P.1)
5. 破碎泥岩地行 炭化物含む
6. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(多)・炭化物・土器細片・山砂含む(遺構)
7. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～半人頭大)(多)・炭化物(多)含む(P.4)
8. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)(微)・炭化物(多)含む
9. 褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)・炭化物・土器細片・山砂(少)含む
10. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～拳大)・炭化物(多)・土器細片(少)含む
11. 褐色弱粘質土 茶色粘土(鉄分か?) (やや多)・泥岩粒・炭化物(少)・山砂含む
12. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)・炭化物(少)含む
13. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大)・山砂(多)
14. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大)(多)
15. 黒褐色弱粘質土 炭化物・鉄分含む
16. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分(やや多)含む
17. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～拳大)・炭化物・鉄分・土器細片・山砂(多)含む
18. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～拳大)密につまる 炭化物・山砂含む
19. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物(少)・礫・土器細片・遺物片・山砂(少)含む
20. 暗褐色弱粘質土 19と似る 炭化物(多)含む
21. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大～拳大)密につまる 炭化物・鉄分含む
22. 茶褐色弱粘質土 灰色粘土・泥岩(粒～拳大)(多)
23. 灰褐色粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分・山砂含む
24. 暗褐色弱粘質土 8と同質
25. 暗褐色弱粘質土 8と同質
26. 茶褐色弱粘質土 21と同質
27. 大型泥岩版築
28. 灰褐色粘質土 泥岩(粒～半人頭大)(多)・炭化物・鉄分含む 半地行土
- 28'. 灰褐色粘質土 泥岩(粒)(少)・炭層含む
29. 大型泥岩層
30. 暗灰褐色粘質土 粘性強、泥岩(粒～小石大)(微)・炭化物(微)・鉄分(微)・土器細片(微)含む
31. 灰褐色粘質土 泥岩(半人頭大)・炭化物(やや多)・鉄分(やや多)含む
32. 灰褐色粘質土 粘性強、泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分含む
33. 灰褐色粘質土 32と同質
34. 茶灰色粘質土 泥岩(粒)(微)・炭化物(微)・鉄分(やや多)含む
35. 茶灰色弱砂質土 砂・炭化物(微)・鉄分含む
36. 茶灰色弱砂質土 褐色粘土混ざる、泥岩(粒)・炭化物・土器細片(ごく微)含む
37. 明灰褐色粘質土 破碎泥岩・小礫(多)・炭化物含む
38. 大型・破碎泥岩版築層
39. 大型泥岩層 灰褐色粘土と破碎泥岩を合わせて突き固める(土壘状)、炭化物含む
- A. 大型泥岩層
- B. 灰褐色粘土 泥岩(小石～大型)雑につまる
- C. 半人頭大泥岩層 均一につまる
- D. 大型泥岩層
40. 茶灰色粘質土 軟質、砂・炭化物・鉄分含む
41. 茶灰色粘質土 40より軟質で粘性強
42. 暗茶色腐植土 炭化物(多)・木片(多)・木製遺物(多)
43. 茶灰色弱砂質土 35より鉄分多く砂を含む、炭化物(微)含む
44. 青灰色砂質土 地山に似た土、炭化物(微)含む
45. 暗褐色弱砂質土 泥岩(粒～小石大)・炭化物(多)・土器細片・山砂(少)含む(P.5)
46. 茶褐色弱砂質土 泥岩(粒～小石大)(やや多)・炭化物・遺物片・山砂(やや多)含む(P.5)
47. 茶褐色弱砂質土 46と同質 炭化物(やや多)
48. 茶褐色弱砂質土 46と同質 泥岩(粒～拳大)(多)(遺構)
49. 茶褐色弱砂質土 48と同質 泥岩(少)・炭化物(やや多)含む(遺構)
50. 茶褐色弱砂質土 48と同質 泥岩(やや多)・炭化物(微)含む(遺構)
51. 茶褐色弱砂質土 泥岩(粒～拳大)(多)・炭化物(少)・山砂(少)・焼土(微)含む
52. 茶褐色弱砂質土 51と同質 灰色粘土(多)・泥岩(少)・炭化物(多)含む(溝1上層)
53. 灰褐色粘質土 粘性強、泥岩(粒～小石大)・炭化物・鉄分(微)含む(溝1上層)
54. 茶灰色粘質土 粘性強、炭化物(微)・鉄分か(多)含む(溝1下層)
55. 灰褐色粘質土 粘性強、53と同質 泥岩なく炭化物や多く含む(溝1下層)
56. 灰褐色粘質土 泥岩(小石大～半人頭大)密につまる、炭化物(微)含む(溝1下層)
57. 暗灰色粘質土 粘性強、軟質、炭化物(微)含む
58. 暗灰色粘質土 粘性強、泥岩・炭化物・鉄分・土器細片(微)含む
59. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(多)・炭化物・土器細片・山砂(少)含む(P.38)
- 59'. 茶褐色弱粘質土 礫・常滑破片含む(P.37)
60. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)・炭化物(少)・土器細片(少)含む(遺構)
61. 茶褐色弱粘質土 59と同質 礫(微)・焼土(微)含む(遺構)
62. 泥岩層 半人頭大泥岩つまる
63. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・焼土・山砂(少)含む
64. 茶褐色弱粘質土 灰層・焼土を含む
65. 茶褐色弱粘質土
66. 茶褐色弱粘質土 泥岩(拳大)(やや多)・泥岩(粒)・炭化物(少)・山砂含む(遺構)
67. 茶褐色弱粘質土 破碎泥岩密につまる 半地行土
68. 大型泥岩版築層
69. 明灰褐色粘質土
70. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～半人頭大)つまる
71. 大型泥岩層 泥岩(粒～半人頭大)つまる
72. 破碎泥岩層 鉄分・土器細片含む 地行土に近い
73. 茶褐色弱粘質土
74. 泥岩層
75. 泥岩層 破碎泥岩つまる、38と同質
76. 泥岩層 破碎泥岩つまる、炭化物・鉄分含む
78. 暗灰色粘質土 粘性強、軟質、泥岩(粒)(微)・炭化物・鉄分含む
79. 暗灰色粘質土 78と同質 破碎泥岩(少)・炭化物(やや多)・鉄分含む

## 第2節 各説

### 1.1 面遺構群

#### 面の概要(図5)

検出高：11.29 m～11.63 m 面構成土：泥岩地行層・茶褐色弱粘質土 検出遺構：土坑6基・ピット125穴 1面出土遺物：土師器皿T種小型(4・5)・土師器皿T種大型(6)・土師器皿R種小型(7・8) 特記事項：土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種は13世紀中葉までか。

#### 攪乱B(図5)

出土遺物：瓦器質火鉢脚(1)・常滑甕(2)・青白磁梅瓶(3)

#### 1面遺構群上層出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3)・土師器皿R種大型(4)・渥美甕(5)・白磁Ⅷ類碗(6) 特記事項：出土遺物は13世紀前葉までのものを主とする。

#### 1面遺構群直上出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種大型(7)・土師器皿R種小型(8・9)・常滑片口鉢I類(10)・常滑甕(11～13)・竜泉窯青磁I類碗(14・15)・青白磁碗(16) 特記事項：10の常滑鉢は中野編年5～6a型式。11の常滑甕は中野編年5型式、12・13の常滑甕は中野編年6a～6b型式。

#### 1面構築土出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種小型(17)・土師器皿T種大型(18～22)・土師器皿R種小型(23・24)・白色系土師器皿T種小型(25)・常滑片口鉢I類(26)・渥美甕(27～29)・同安窯系青磁碗(30)・竜泉窯青磁I類碗(31)・黒曜石火打石(32) 特記事項：26の常滑鉢は中野編年5～6a型式。他の出土遺物も12世紀後葉から13世紀中頃までのもの。

#### 土坑1(図7)

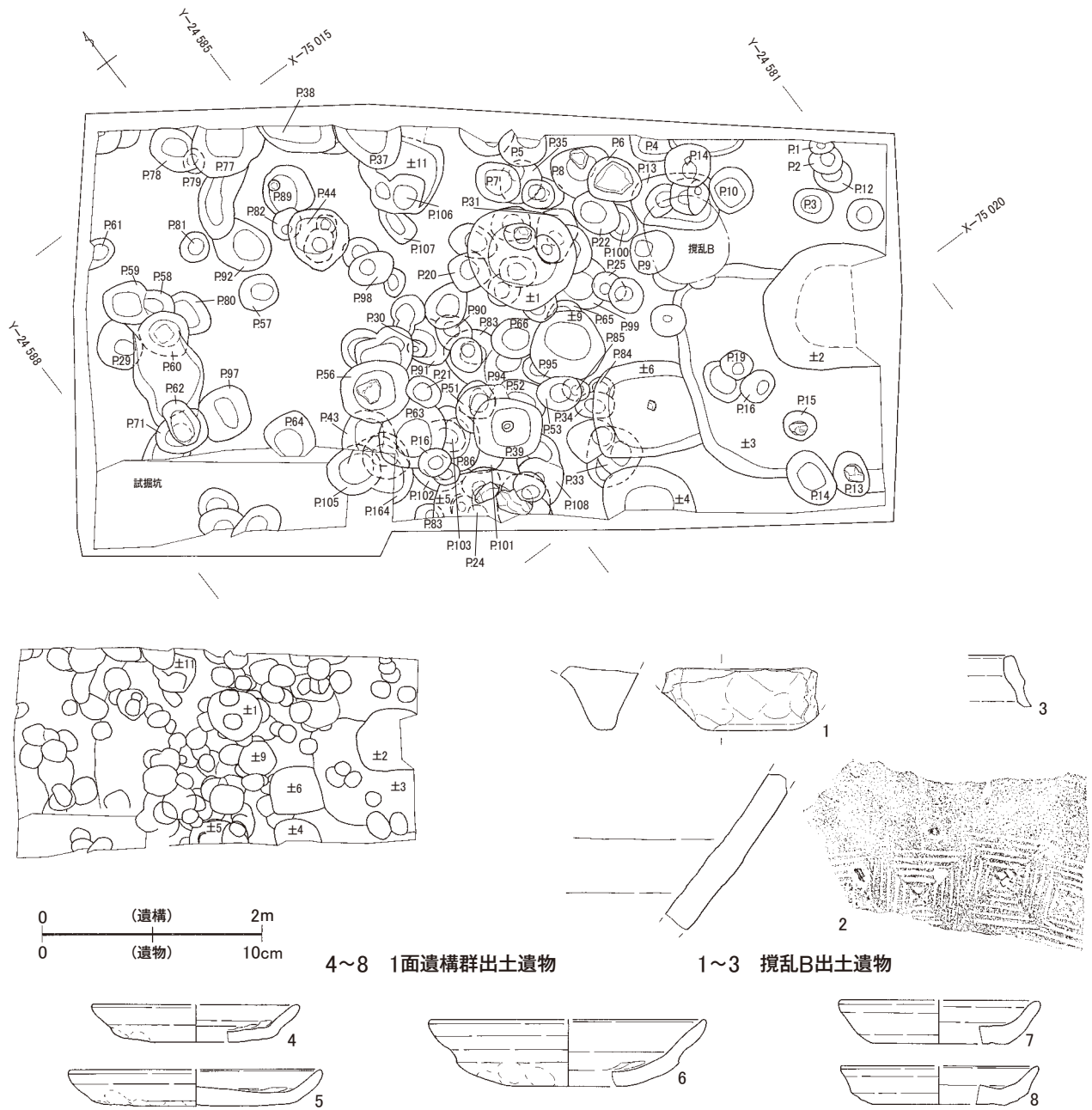
位置：X-75 017.20～(-75 018.20) Y-24 583.37～-24 584.32 平面形：不整楕円形 断面形：浅鉢形 規模：長径1.02 m×短径0.92 m×深さ0.36 m 主軸方位：N-33°-W 重複関係：P.20・P.31・P.99他ピット6穴を切る 出土遺物：土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種小型(2～10)・土師器皿R種大型(11～18)・常滑片口鉢I類(19・20)・常滑甕(21)・平瓦(22) 特記事項：1の土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種小型は13世紀前葉までのものを含みつつ13世紀中葉のものが多い。土師器皿R種大型は13世紀中葉のものと後葉以降のものがある。19・20の常滑鉢は中野編年5～6a型式のもの、21の常滑甕は中野編年5型式のもの。22の平瓦は永福寺I期のもの。

#### 土坑2(図8)

位置：X-75 019.23～(-75 020.52) Y(-24 581.20)～-24 582.54 平面形：隅丸方形 断面形：円筒形 規模：長径(1.09 m)×短径1.16 m×深さ1.69 m 主軸方位：N-54°-W 重複関係：土坑3を切る 出土遺物：土師器甕(7)・土師器皿T種大型(8)・土師器皿R種小型(9～13)・土師器皿R種大型(14～18)・土師器皿R種大型打ち欠き(19)・伊勢系鋳鍋(20・21)・常滑甕(22)・常滑甕転用摩耗陶片(23)・瀬戸平碗か(24)・青白磁蓋(25)・青白磁梅瓶(26)・砥石中砥(27)玄武岩質凝灰岩(28)

特記事項：土坑2と上層の攪乱Aとした炭層との関連は不明。深い形状から井戸になるか。7の土師器甕は古墳時代のもの。土師器皿は14世紀後半から15世紀のもの。20・21の伊勢系鋳鍋も鋳の角度から15世紀に近い年代か。





4~8 1面遺構群出土遺物

1~3 攪乱B出土遺物

図5 1面遺構群遺構全図、同出土遺物・攪乱B出土遺物

### 攪乱A出土遺物 (図8)

出土遺物：土師器皿R種小型(1~3)・土師器皿R種大型(4・5)・常滑甕(6) 特記事項：炭層を攪乱Aとしたが、下層の土坑2との関連は不明。現地取り上げ遺物に近世・近代は含まれない。1~3の土師器皿は13世紀中頃までのもの。4・5の土師器皿は15世紀のもの。

### 土坑3 (図7)

位置：X(-75 018.84 ~ -75 021.47) Y(-24 581.89) ~ -24 583.57 平面形：不整隅丸方形 断面形：浅皿形 規模：長径(1.89 m) × 短径1.94 m × 深さ0.21 m 主軸方位：N - 56° - W 重複関係：土坑2他ピット6穴に切られる 出土遺物：土師器皿T種小型(23・24)・土師器皿R種小型(25~28) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃までのもの。

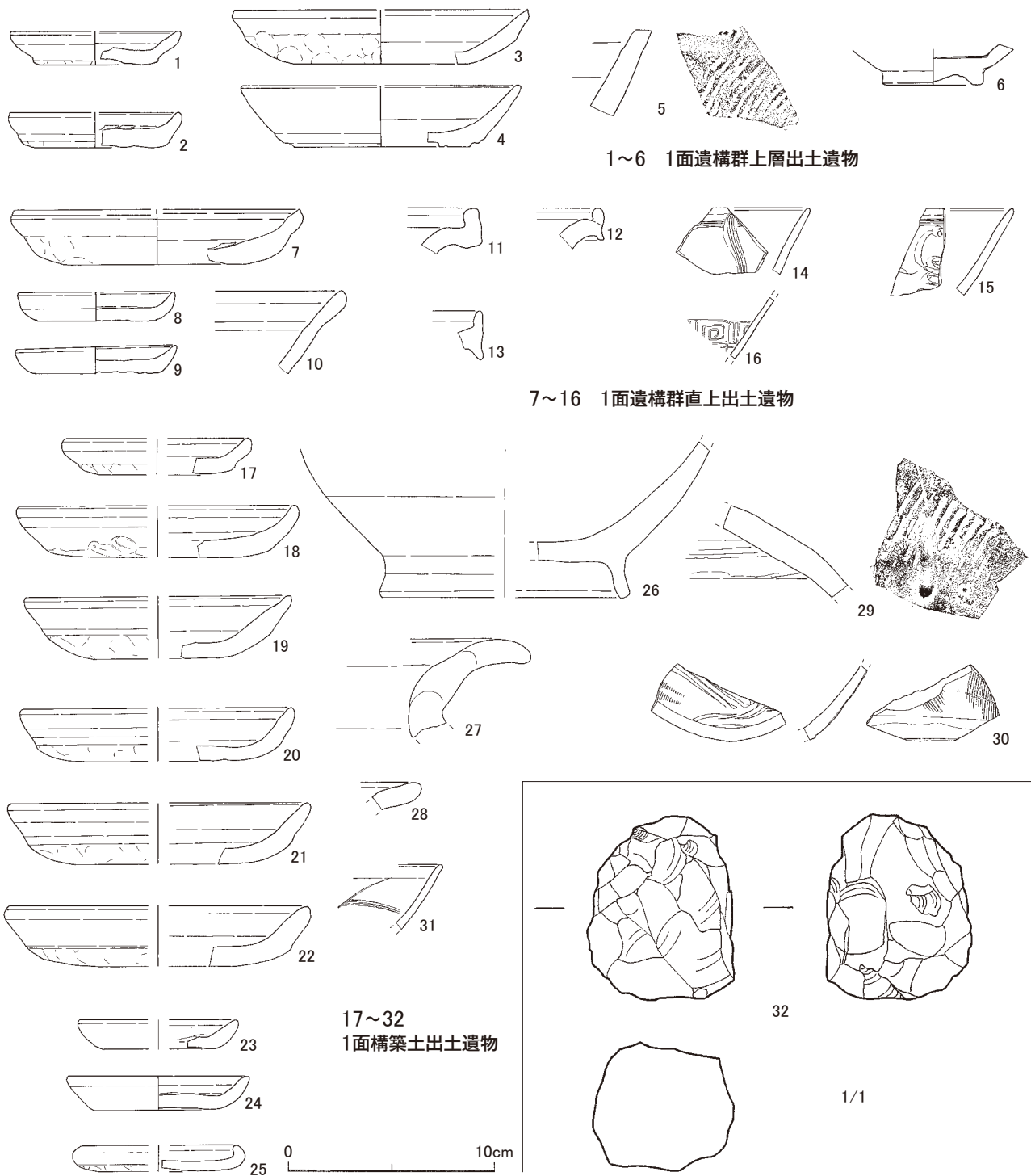


図6 1面遺構群上層・1面遺構群直上・1面遺構群構築土出土遺物

土坑4 (図7)

位置：X - 75 019.83 ~ (- 75 020.59) Y - 24 583.92 ~ (- 24 584.70) 平面形：不整円形 断面形：浅皿形 規模：長径0.86 m × 短径(0.51 m) × 深さ0.16 m 主軸方位：N - 54° - W 重複関係：P.33を切る。

出土遺物：凶化可能遺物なし

土坑5 (図7)

位置：X - 75 018.95 ~ (- 75 019.80) Y - 24 585.05 ~ (- 24 585.98) 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径1.11 m × 短径0.42 m × 深さ0.25 m 主軸方位：N - 55° - W 重複関係：P.25・P.83・

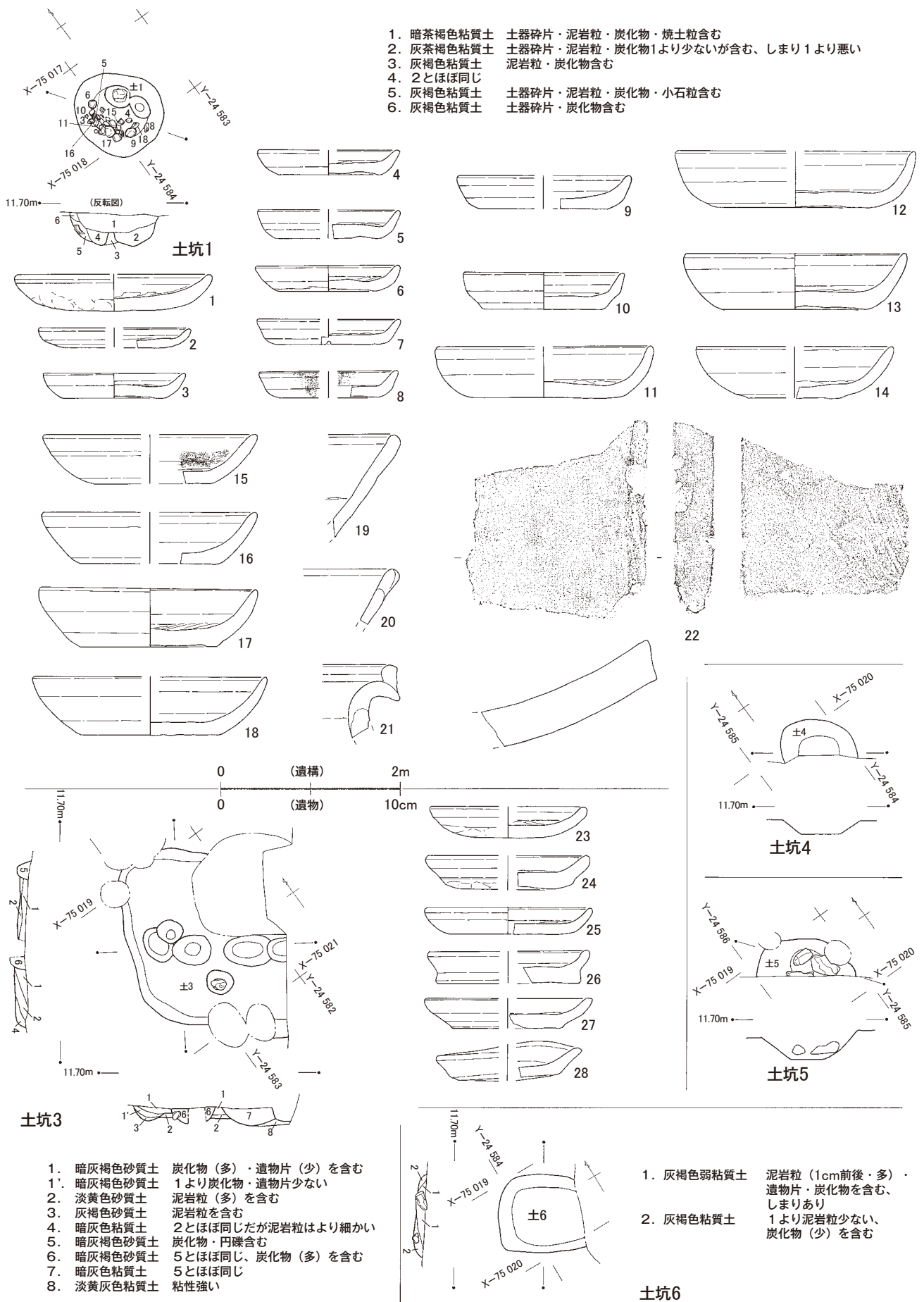
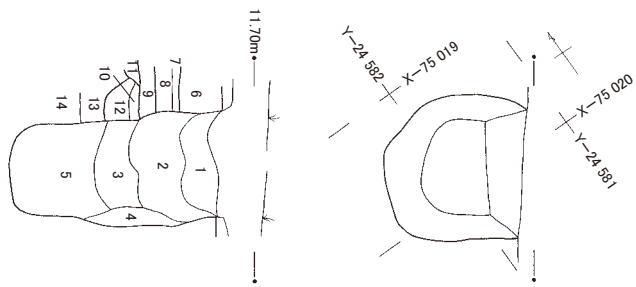
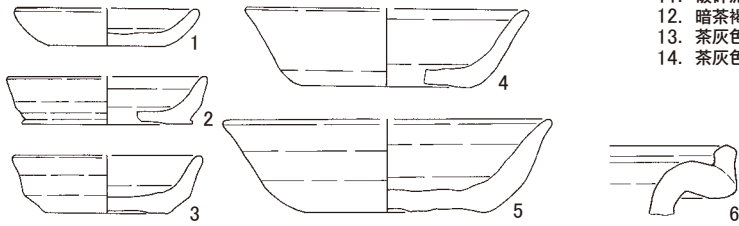


図7 土坑1・3・4・5・6、同出土遺物

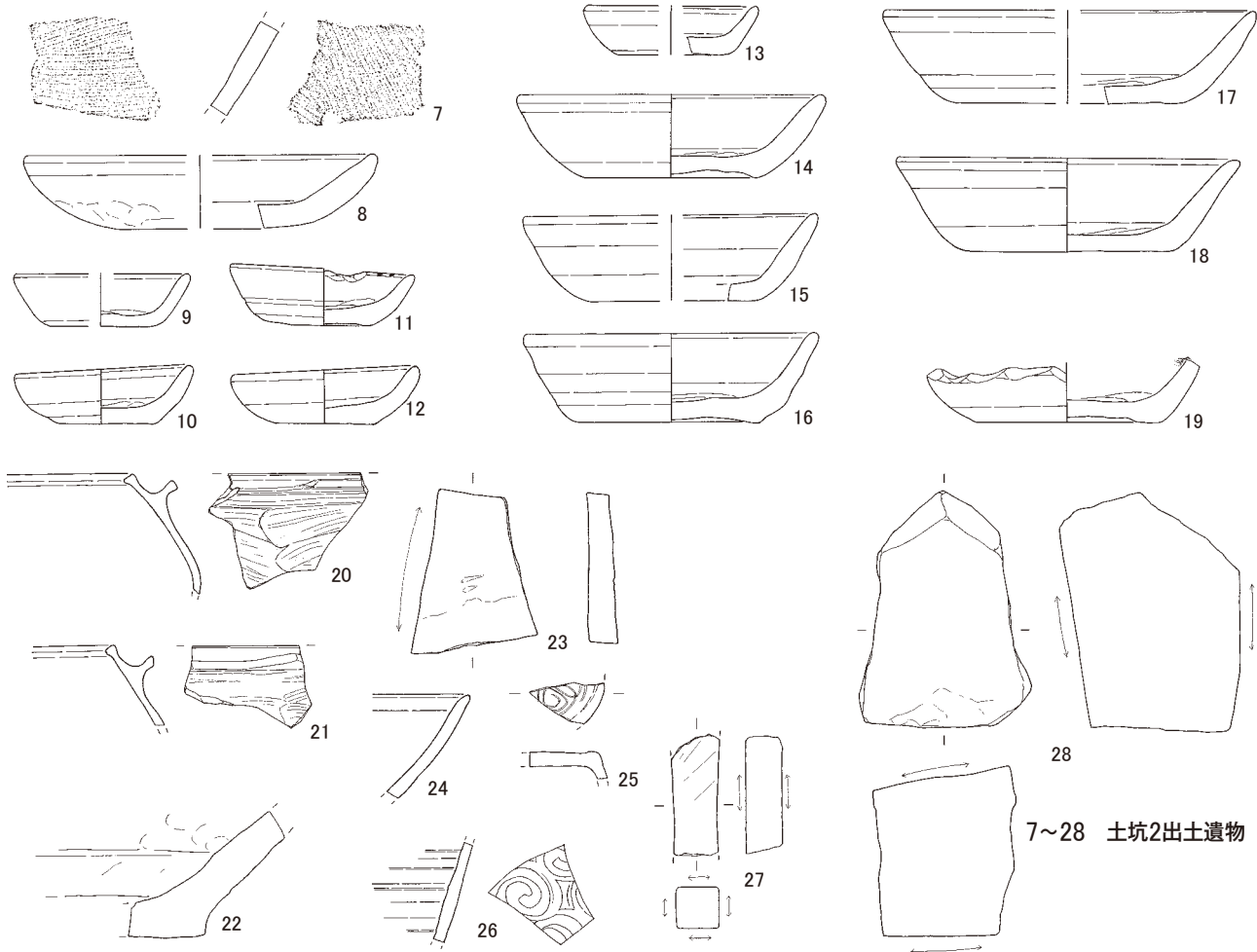
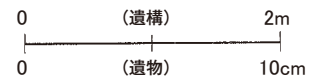




1. 攪乱A 炭化物多量に含む  
土器碎片・泥岩(砂粒大~拳大)・炭化物・  
山砂(少量)を含む(土2)
  2. 灰茶褐色弱粘質土 炭化物(やや多)・土器碎片・泥岩(小石大)・  
焼土を含む(土2)
  3. 灰褐色粘質土 泥岩(半人頭大・多)を含む(土2)
  4. 灰褐色粘質土 土器碎片(多)・炭化物(多)・木片(多)・  
泥岩(粒~人頭大)を含む(土2)
  5. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大・多)・遺物片・炭化物・  
山砂を含む(2面構成土)
  6. 茶褐色弱粘質土 炭化物含む、粘性あり
  7. 破碎泥岩地行 泥岩(小石大~人頭大)つまる
  8. 破碎泥岩地行 大型泥岩つまる
  9. 破碎泥岩地行 泥岩粒(微)・炭化物(微)を含む、粘性強
  10. 明灰色粘質土
  11. 破碎泥岩地行
  12. 暗茶褐色粘質土
  13. 茶灰色粘質土
  14. 茶灰色粘質土
- 鉄分含む  
13より硬い粘土



1~6 攪乱A出土遺物



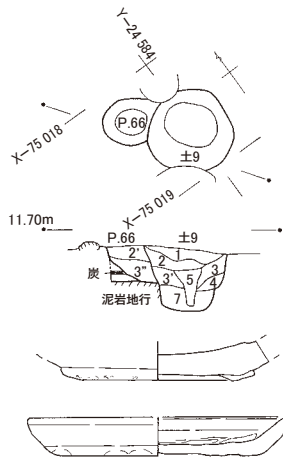
7~28 土坑2出土遺物

図8 土坑2、同出土遺物

P.101・P.108他ピット2穴を切る。ピット1穴に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし 特記事項：  
土坑の底に泥岩あり。

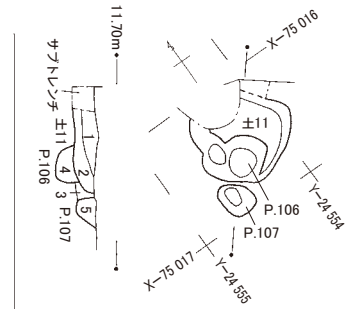
### 土坑6 (図7)

位置:X - 75 019.03 ~ (- 75 020.11) Y - 24 583.64 ~ (- 24 584.70) 平面形:不整隅丸方形 断面形:



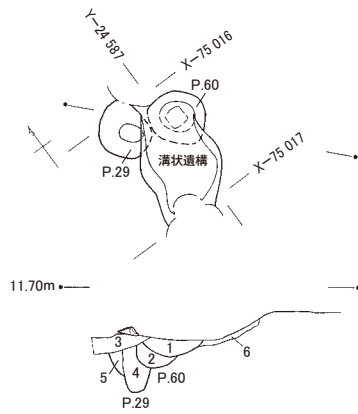
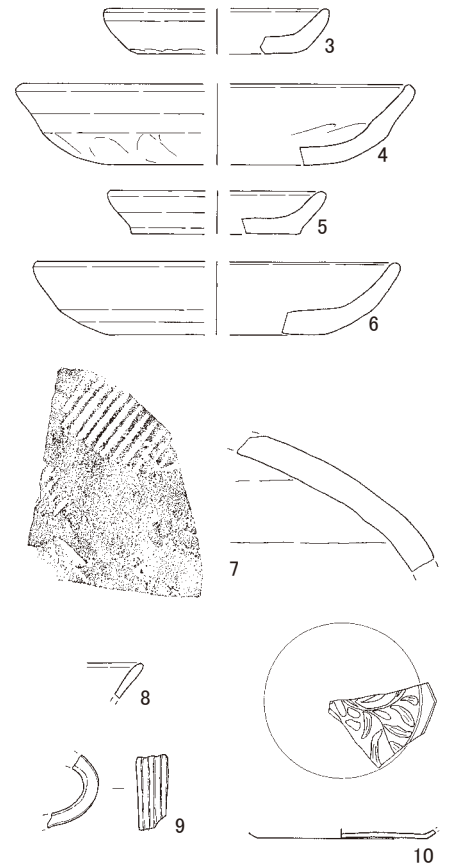
1. 灰褐色粘質土  
炭化物(多)・焼土(多)・山砂・泥岩(粒~小石大・少)を含む
2. 灰褐色粘質土  
泥岩(粒~小石大・多)・土器碎片・炭化物・焼土を含む
3. 灰褐色粘質土  
炭化物・灰黒色粘土を含む、粘性強
4. 黄灰褐色土  
3の土に破砕泥岩(小石大)つまる
5. 灰褐色粘質土  
炭化物(微)・鉄分(微)を含む、粘性強
6. 灰褐色粘質土  
3と同質、破砕泥岩(小石大)多量につまる
7. 暗灰褐色粘質土  
炭化物(微)・泥岩粒(微)・鉄分(微)を含む、粘性強い

土坑9・P.66



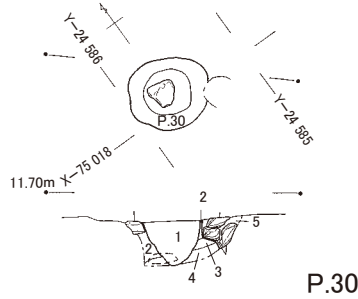
1. 灰黒色砂質土  
遺物含む(土11)
2. 淡黄褐色砂質土  
泥岩(半拳大)を含む(土11)
3. 淡黄褐色砂質土  
泥岩(1・2cm大・多)を含む
4. 暗灰褐色砂質土  
泥岩(1・2cm大)を含む(P.106)
5. 灰褐色砂質土  
焼土粒(多)を含む(P.107)

土坑11・P.106



1. 灰褐色弱粘質土  
土器碎片・泥岩(数cm大)・炭化物を含む
2. 灰黄褐色弱粘質土  
泥岩(数cm大)を含む
3. 灰褐色弱粘質土  
1とほぼ同じ
4. 暗灰褐色弱砂質土  
泥岩(拳大)を含む
5. 暗茶褐色砂質土  
混入物少ない
6. 黒褐色粘質土  
泥岩版築上へへばりついた黒土

溝状遺構・P.29・P.60



1. 黒褐色弱粘質土  
土器碎片・泥岩(半拳大)を含む
2. 灰褐色砂質土  
泥岩粒含む
3. 灰黒色粘質土  
炭化物(多)を含む
4. 炭化層  
炭層と灰色の灰層が互層をなす
5. 暗黒褐色粘質土

P.30

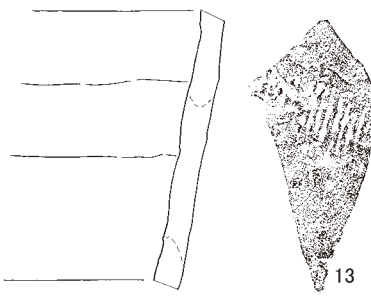
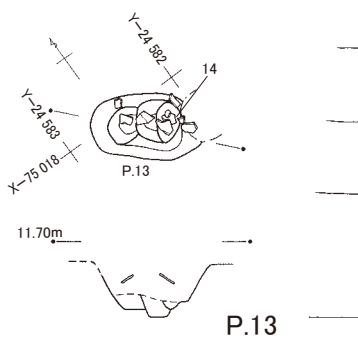


図9 土坑9・11・P.13・29・30・60・66・106・107、同出土遺物

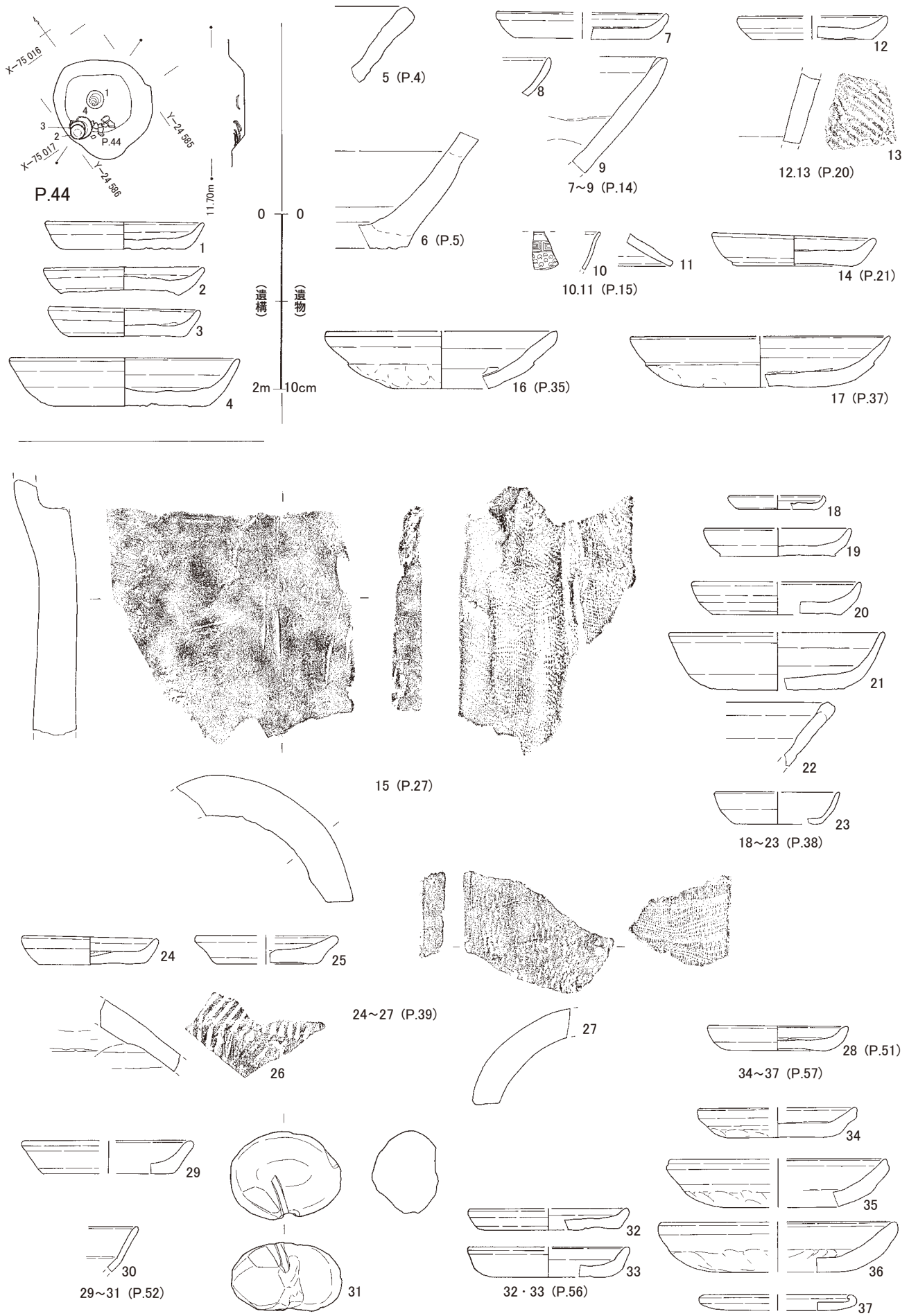


図10 P.44、同出土遺物・1面遺構群ピット出土遺物(1)

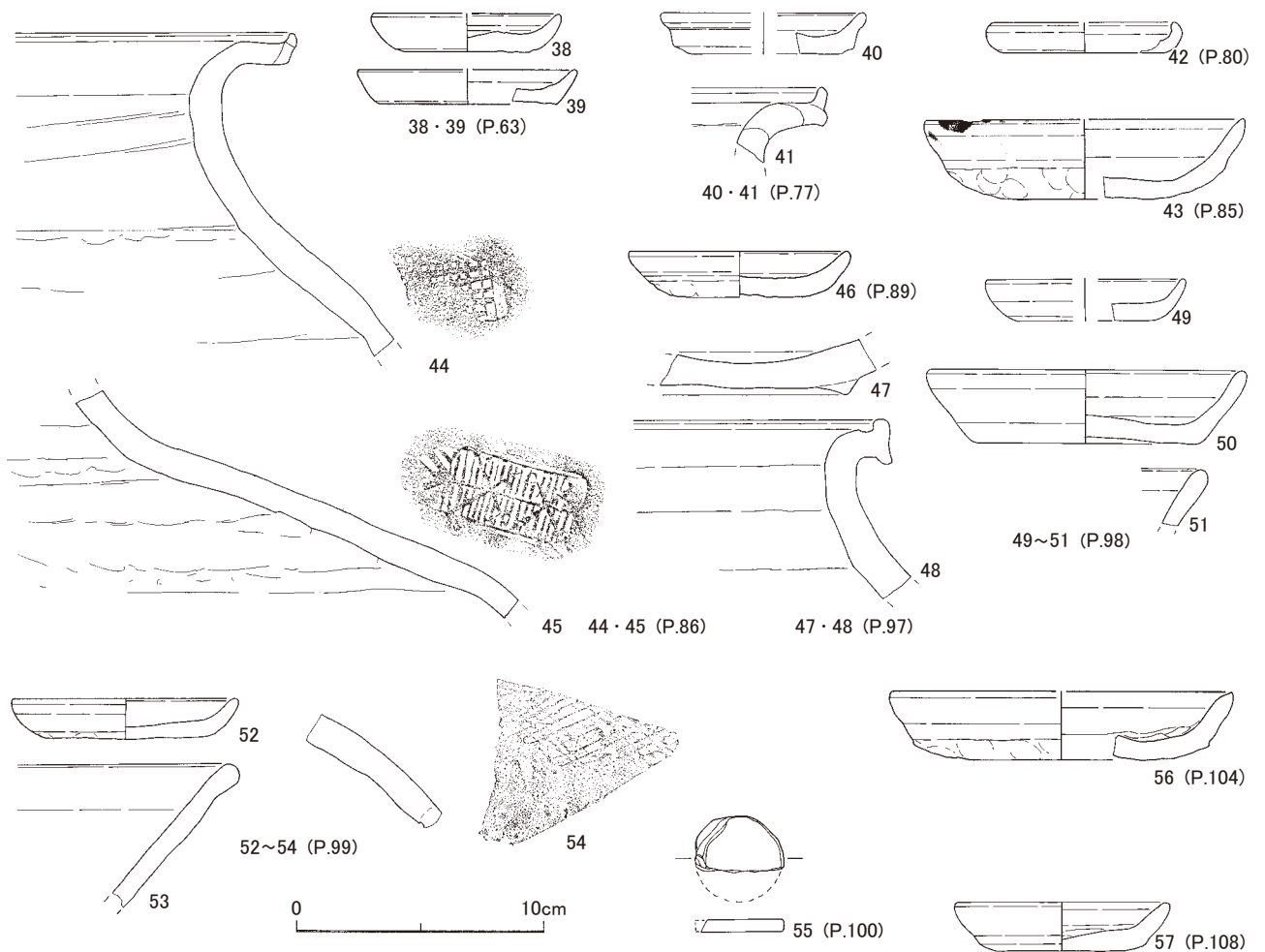


図11 1面遺構群ピット出土遺物(2)

浅皿形 規模：長径0.98 m × 短径0.89 m × 深さ0.13 m 主軸方位：N - 60° - W 重複関係：土坑3に切られる。P.33・P.34・P.84他ピット1穴を切る。 出土遺物：図化可能遺物なし

#### 土坑9 (図9)

位置：X - 75 018.31 ~ - 75 018.97 Y - 24 583.62 ~ - 24 584.29 平面形：円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.67 m × 短径0.64 m × 深さ0.49 m 主軸方位：N - 34° - W 重複関係：P.65・P.66・P.95を切る。P.53・P.85他ピット1穴に切られる。 出土遺物：渥美・湖西型山茶碗(1) 特記事項：山茶碗は安井編年2b ~ 3aのものか。

#### 土坑11 (図9)

位置：X - 75 016.15 ~ - 75 016.84 Y - 24 553.16 ~ - 24 554.65 平面形：不整形 断面形：浅鉢形 規模：長径0.78 m × 短径(0.57 m) × 深さ0.19 m 主軸方位：N - 38° - W 重複関係：P.106を切る。P.37に切られる。 出土遺物：土師器皿T種小型(3)・土師器皿T種大型(4)・土師器皿R種小型(5)・土師器皿R種大型(6)・渥美甕(7)・竜泉窯青磁Ⅱ類碗(8)・青白磁水注把手(9)・白磁皿(10) 特記事項：土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種は13世紀中葉までのもの。8の青磁は13世紀中葉~後半のもの。

#### P.13 (図9)

位置：X - 75 017.16 ~ - 75 018.57 Y - 24 582.96 ~ - 24 583.80 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.88 m × 短径0.54 m × 深さ0.42 m 主軸方位：N - 49° - W 重複関係：P.6・P.10・P.14に切られ



る。 出土遺物：土師器皿 T 種大型 (12)・常滑甕 (13・14)・竜泉窯青磁 I 類碗 (15・16) 特記事項：12の土師器皿は13世紀前葉までのもの。14の常滑甕は中野編年5型式。15・16の青磁碗は12世紀末～13世紀前葉までのもの。

#### P.29 (図9)

位置：X - 75 015.90 ~ - 75 016.37 Y - 24 587.17 ~ - 24 587.52 平面形：円形 断面形：円筒形 規模：長径0.44 m × 短径(0.42 m) × 深さ0.45 m 主軸方位：N - 38° - W 重複関係：P.60・溝状遺構に切られる。

出土遺物：図化可能遺物なし

#### P.30 (図9)

位置：X - 75 017.60 ~ - 75 018.20 Y - 24 586.67 ~ - 24 587.13 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.65 m × 短径0.58 m × 深さ0.36 m 主軸方位：N - 58° - W 重複関係：P.43・P.63他ピット2穴を切る。

P.21に切られる。 出土遺物：土師器皿 R 種小型 (11) 特記事項：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### P.44 (図10)

位置：X - 75 016.27 ~ - 75 017.45 Y - 24 584.92 ~ - 24 586.00 平面形：不整円形 断面形：浅鉢形 規模：長径1.14 m × 短径1.13 m × 深さ0.13 m 主軸方位：N - 49° - W 重複関係：P.82他ピット3穴を切る。

出土遺物：土師器皿 R 種小型 (1 ~ 3)・土師器皿 R 種大型 (4) 特記事項：土師器皿は13世紀中葉までのもの。

#### P.60 (図9)

位置：X - 75 016.08 ~ - 75 016.56 Y - 24 586.67 ~ - 24 587.13 平面形：不整円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.47 m × 短径0.41 m × 深さ0.29 m 主軸方位：N - 46° - W 重複関係：P.29を切る。

溝状遺構に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

#### P.66 (図9)

位置：X - 75 018.10 ~ - 75 018.49 Y - 24 583.42 ~ (- 24 583.92) 平面形：楕円形 断面形：浅鉢形 規模：長径(0.44 m) × 短径0.38 m × 深さ0.29 m 主軸方位：N - 43° - W 重複関係：土9に切られる。

出土遺物：土師器皿 T 種小型 (2) 特記事項：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### P.106 (図9)

位置：X - 75 016.43 ~ - 75 017.83 Y - 24 554.15 ~ - 24 554.65 平面形：不整形 断面形：深鉢形 規模：長径0.38 m × 短径0.33 m × 深さ(0.15 m) 主軸方位：N - 35° - W 重複関係：土11に切られる。

出土遺物：図化可能遺物なし

#### 1面遺構群ピット出土遺物 (図10・11)

出土遺物：(P.4) 常滑片口鉢 I 類 (5)・(P.5) 常滑甕 (6)・(P.14) 土師器皿 R 種小型 (7)・白色系土師器皿 R 種大型 (8)・常滑片口鉢 II 類 (9)・(P.15) 白磁皿 (10)・須恵器蓋か (11)・(P.20) 土師器皿 R 種小型 (12)・渥美甕 (13)・(P.21) 土師器皿 R 種小型 (14)・(P.27) 丸瓦 (15)・(P.35) 土師器皿 T 種大型 (16)・(P.37) 土師器皿 T 種大型 (17)・(P.38) 土師器皿 R 種極小型 (18)・土師器皿 R 種小型 (19 ~ 20)・土師器皿 R 種大型 (21)・常滑片口鉢 I 類 (22)・瀬戸入子 (23)・(P.39) 土師器皿 R 種小型 (24・25)・渥美甕 (26)・丸瓦 (27)・(P.51) 土師器皿 R 種小型 (28)・(P.52) 土師器皿 R 種小型 (29)・同安窯系青磁碗 (30)・軽石 (31)・(P.56) 土師器皿 R 種小型 (32・33)・(P.57) 土師器皿 T 種小型 (34)・土師器皿 T 種大型 (35・36)・白色系土師器皿 T 種小型 (37)・(P.63) 土師器皿 R 種小型 (38・39)・(P.77) 土師器皿 R 種小型 (40)・常滑甕 (41)・(P.80) 白色系土師器皿 T 種小型 (42)・(P.85) 土師器皿 T 種大型 (43)・(P.86) 常滑甕 (44・45)・(P.89) 土師器皿 T 種小型 (46)・(P.97) 渥美・湖西片口鉢 (47)・常滑甕 (48)・(P.98) 土師器皿 R 種小型

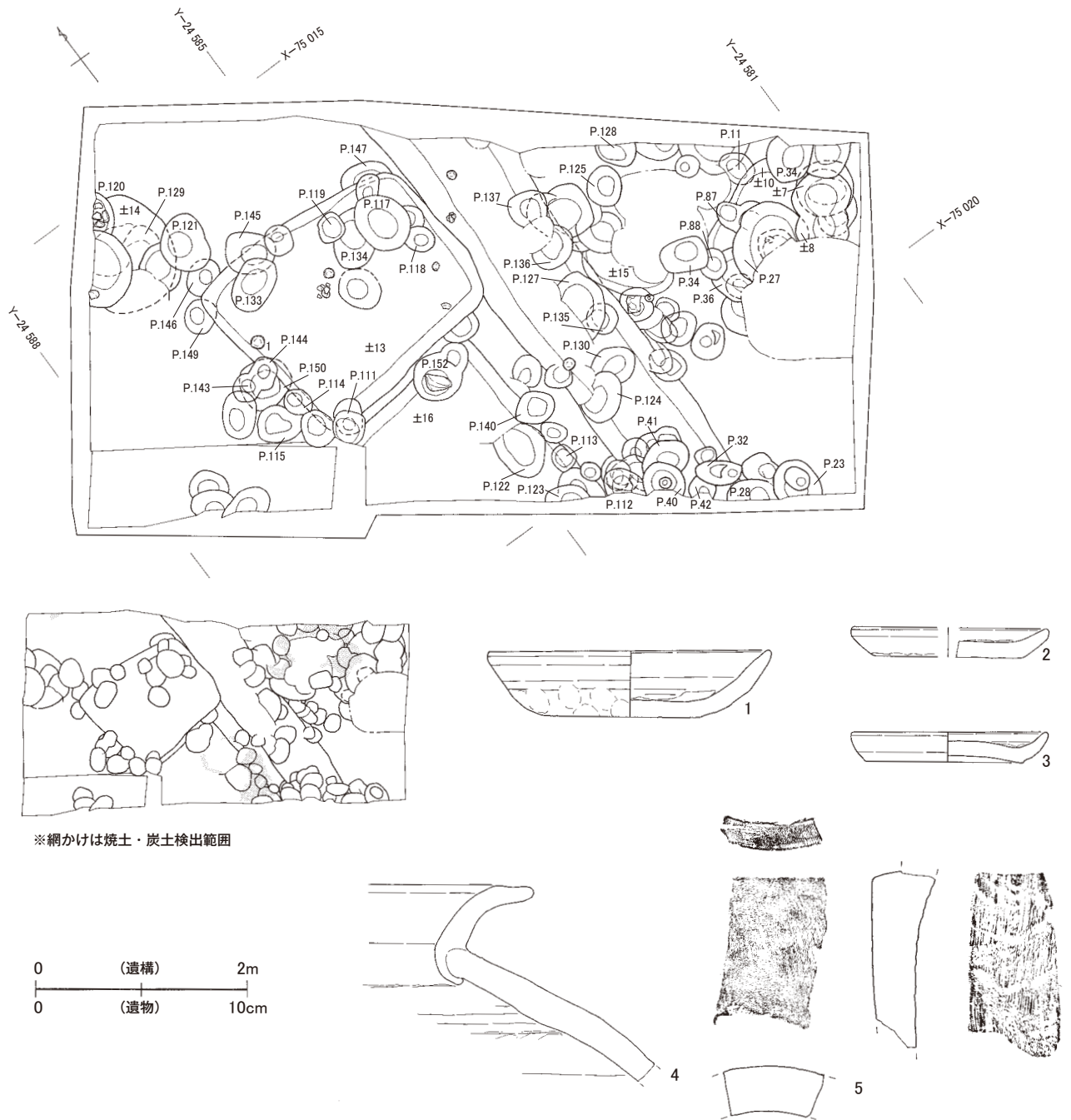


図12 2面遺構群全図、同出土遺物

(49)・土師器皿R種大型 (50)・常滑片口鉢I類 (51)・(P.99)土師器皿T種小型 (52)・常滑片口鉢I類 (53)・常滑甕 (54)・(P.100)土製円盤 (55)・(P.104)土師器皿T種大型 (56)・(P.108)土師器皿T種小型 (57) 特記事項：5の常滑は中野編年5型式から6a型式。7の土師器皿は13世紀後葉以降、9の常滑は中野編年6b～7型式。11は須恵器であるが蓋か坏か判断しきれなかった。また生焼けであるため須恵器ではない可能性もある。12の土師器皿は13世紀中葉～後半。14の土師器皿は13世紀中葉～後半。15の丸瓦は永福寺I期。16・17の土師器皿は13世紀前葉までのもの。19～21の土師器皿は13世紀後葉以降。22の常滑は中野編年5～6a型式。24・25の土師器皿は13世紀中葉まで、27の丸瓦は永福寺I期。28の土師器皿は13世紀中葉までのもの。29の土師器皿は13世紀中葉まで、30の青磁碗は大宰府分類では12世紀後半～13世紀前葉のもの。32・33の土師器皿は13世紀前葉～中葉のもの。34～36の土師器

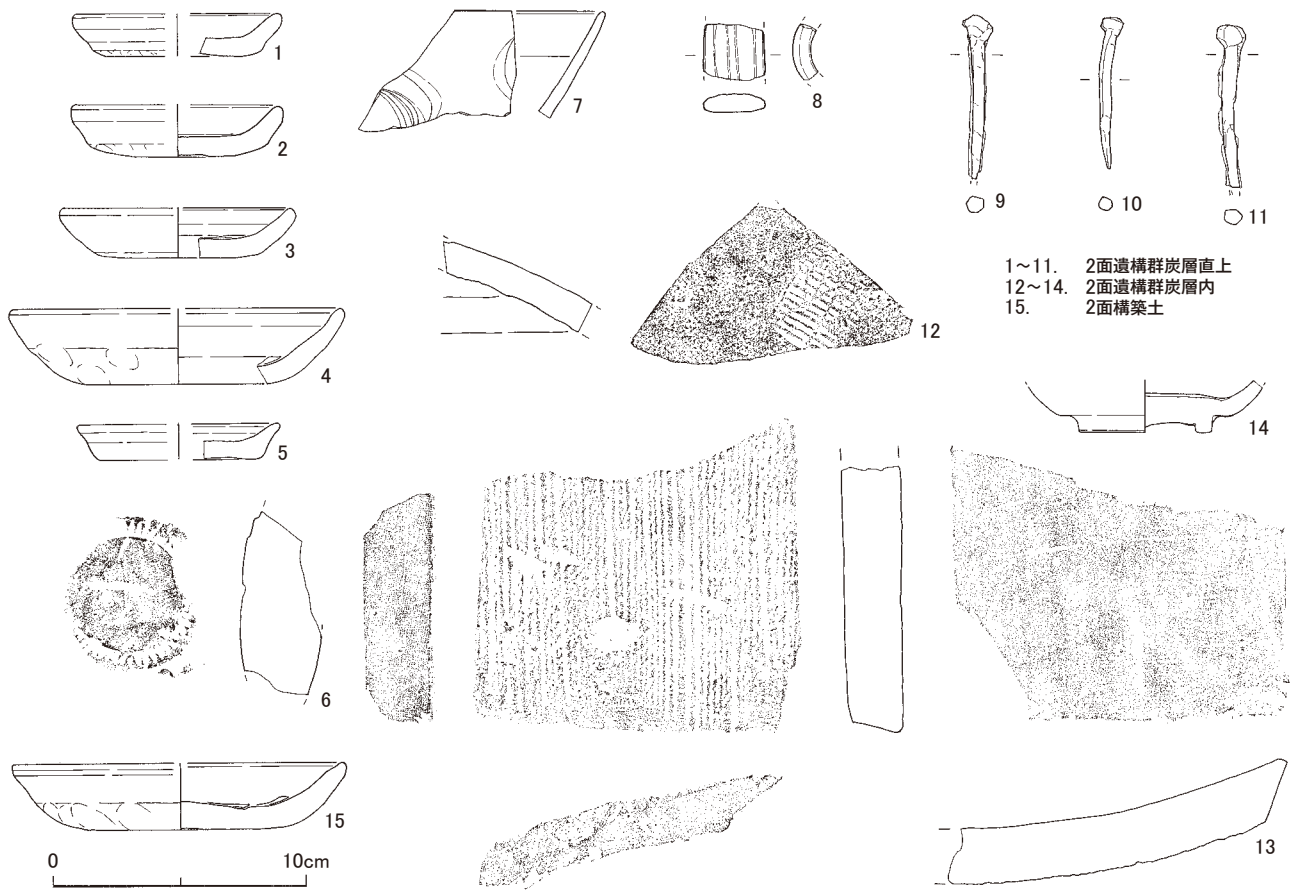


図13 2面遺構群炭層直上・炭層内・構築土出土遺物

皿は13世紀前葉から中葉のもの。38・39の土師器皿は13世紀中葉。40の土師器皿は13世紀前葉まで、41の常滑は中野編年5型式。43の土師器皿は13世紀前葉までのもの。44の常滑甕は5型式。48の常滑甕は中野編年6a～6b型式。49・50の土師器皿は13世紀中頃～後半、51の常滑は5～6a型式。52の土師器皿は前葉～中葉、53の常滑は中野編年5～6a型式のもの。56の土師器皿は13世紀前葉のもの。57の土師器皿は13世紀中葉まで。

## 2. 2面遺構群

### 面の概要 (図12)

検出高:11.25 m～11.33 m 面構成土:暗褐色弱粘質土・大型泥岩版築・大型泥岩層 検出遺構:溝1条・土坑7基・ピット90穴 出土遺物:土師器皿T種大型(1)・土師器皿T種小型(2)・土師器皿R種小型(3)・渥美甕(4)・丸瓦(5) 特記事項:土師器皿は13世紀前葉まで、渥美甕は安井編年2bか。

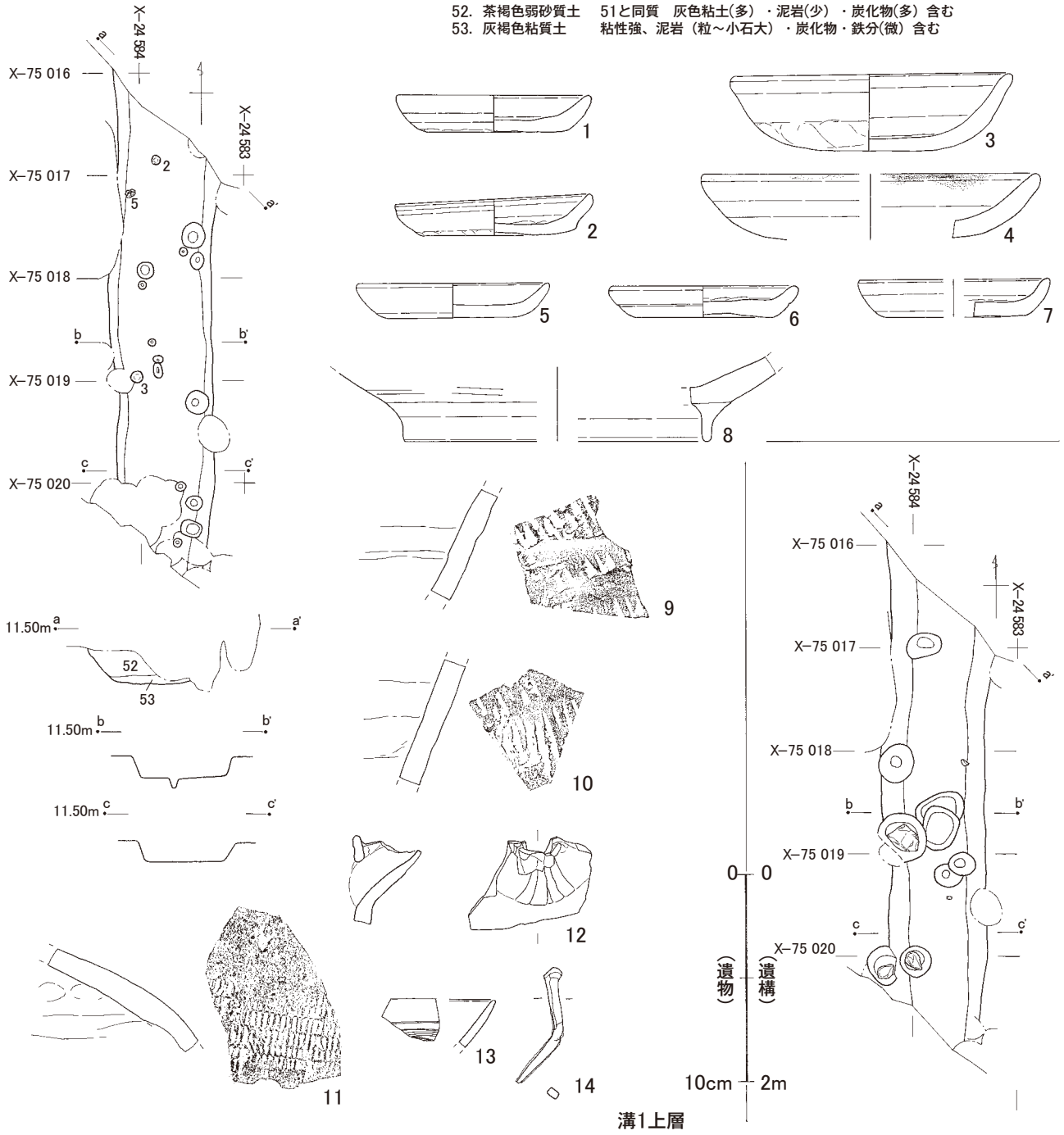
### 2面遺構群炭層直上 (図13)

出土遺物:土師器皿T種小型(1～3)・土師器皿T種大型(4)・土師器皿R種小型(5)・軒丸瓦(6)・竜泉窯青磁I類碗(7)・白磁把手(8)・鉄釘(9～11) 特記事項:6の軒丸瓦は永福寺I期。土師器皿は13世紀前半のもの。

### 2面遺構群炭層内 (図13)

出土遺物:常滑甕(12)・平瓦(13)・竜泉窯青磁I類碗(14) 特記事項:13の平瓦は永福寺I期。

52. 茶褐色弱砂質土 51と同質 灰色粘土(多)・泥岩(少)・炭化物(多) 含む  
 53. 灰褐色粘質土 粘性強、泥岩(粒~小石大)・炭化物・鉄分(微) 含む



54. 茶灰色粘質土 粘性強、炭化物(微)・鉄分(多) 含む  
 55. 灰褐色粘質土 粘性強、53と同質 泥岩なく炭化物やや多く含む  
 56. 灰褐色粘質土 泥岩(小石大~半人頭大) 密につまる、炭化物(微) 含む

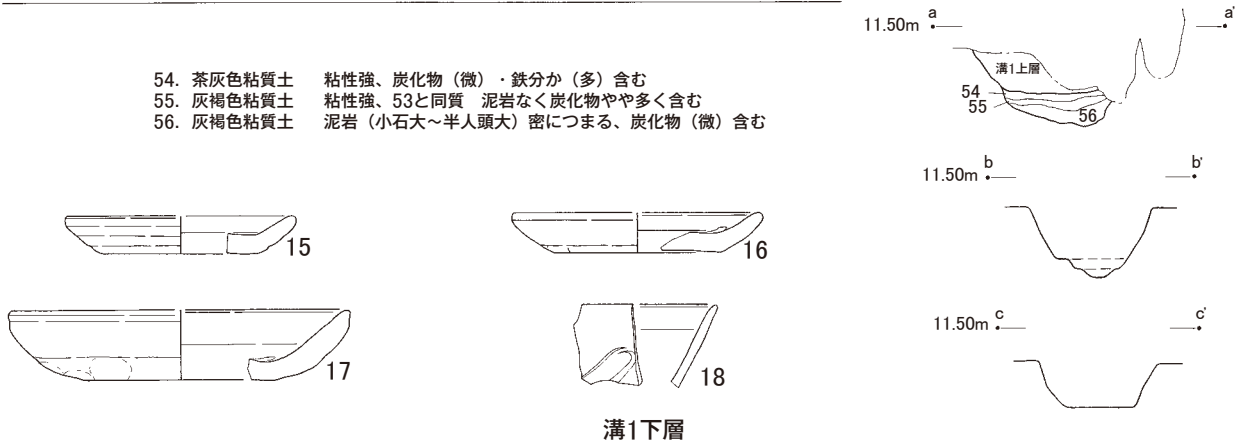


図14 溝1上層・下層、同出土遺物



## 2面遺構群構築土(図13)

出土遺物：土師器皿T種大型(15) 特記事項：土師器皿は13世紀前半のもの。

### 溝1上層(図14)

位置：X(-75 015.95 ~ -75 020.83) Y(-24 583.27 ~ -24 584.31) 断面形：逆台形 規模：最大幅0.97 m × 長さ(5.04 m) × 深さ0.37 m 主軸方位：N-0° -W 重複関係：ピット1穴を切る、土坑15・P.28・P.32・P.40・P.41・P.42・P.112・P.124・P.127・P.130・P.135・P.136・P.137他ピット11穴に切られる。

出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3・4)・土師器皿R種小型(5~7)・常滑片口鉢I類(8)・渥美甕(9・10)・常滑甕(11)・瀬戸柄付片口(12)・竜泉窯青磁I類碗(13)・鉄釘(14)

特記事項：土師器皿は13世紀前半のもの。8の常滑鉢は中野編年5~6a型式。12の瀬戸は藤澤編年中期様式。

### 溝1下層(図14)

位置：X(-75 015.95 ~ -75 020.83) Y(-24 583.27 ~ -24 584.31) 断面形：逆台形 規模：最大幅0.97 m × 長さ(5.04 m) × 深さ0.63 m 主軸方位：N-0° -E 重複関係：溝1上層と同様 出土遺物：土師器皿T種小型(15・16)・土師器皿T種大型(17)・竜泉窯青磁I類碗(18) 特記事項：土師器皿は13世紀前葉のもの。

### 土坑7(図15)

位置：X-75 019.87 ~ (-75 020.36) Y-24 580.88 ~ -24 581.45 平面形：不整円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.58 m × 短径(0.43 m) × 深さ0.28 m 主軸方位：N-36° -E 重複関係：土坑10・P.27他ピット2穴を切る、ピット1穴に切られる

### 土坑8(図15)

位置：X(-75 020.16 ~ -75 020.58) Y-24 581.06 ~ -24 581.58 平面形：不整円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.51 m × 短径(0.23 m) × 深さ0.24 m 主軸方位：N-35° -E 重複関係：土坑10・P.27他ピット2穴を切る、ピット1穴に切られる

### 土坑7・8出土遺物(図15)

出土遺物：常滑甕(1)・滑石製石鍋(2)

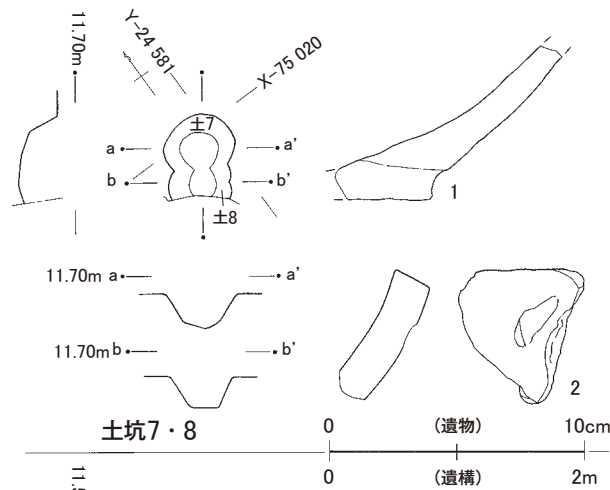
### 土坑10(図15)

位置：X(-75 018.48 ~ -75 020.58) Y(-24 581.26 ~ -25 582.33) 平面形：楕円形か 断面形：深皿形 規模：長径(1.17 m) × 短径(0.65 m) × 深さ0.30 m 主軸方位：N-25° -E 重複関係：土坑7・8・P.27・34・36・87・88に切られる。 出土遺物：白磁Ⅷ類碗(3)

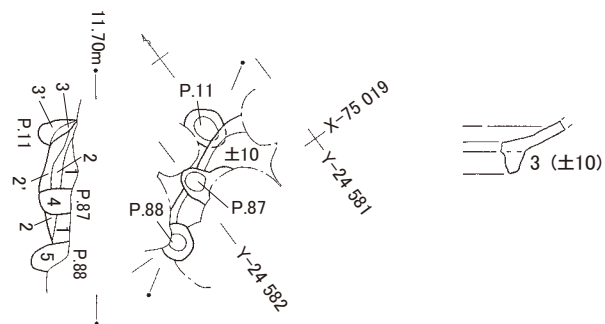
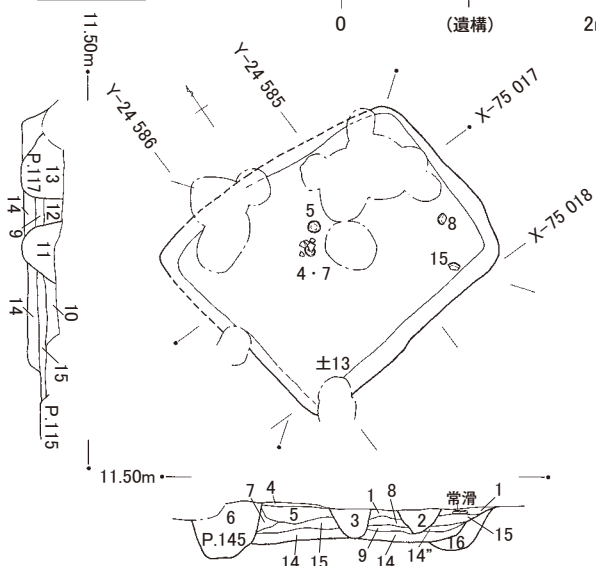
### 土坑13(図15)

位置：X-75 016.26 ~ -75 018.16 Y-24 584.16 ~ -24 586.49 平面形：隅丸方形 断面形：逆台形 規模：長軸2.17 m × 短軸1.87 m × 深さ0.32 m 主軸方位：N-87° -E 重複関係：P.146・147他ピット1穴を切る。P.111・114・117・118・119・133・134・143・144・145・150に切られる。 出土遺物：土師器皿T種小型(4~12)・土師器皿T種大型(13~17)・土師器皿R種小型(18)・渥美・湖西型山皿(19)・渥美甕(20)・常滑甕(21)・渥美甕(22)・竜泉窯青磁I類浅形碗(23)・竜泉窯青磁I類碗(24)・安山岩(25)

特記事項：土師器皿は13世紀前半までのもの。20の渥美甕は安井編年2bか。21の常滑甕は中野編年3型式。

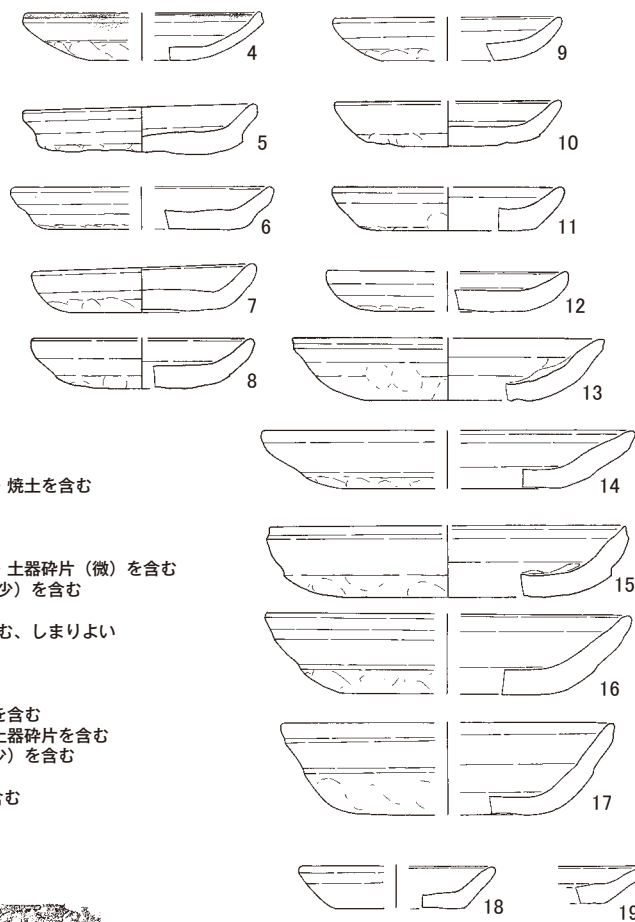


土坑7・8

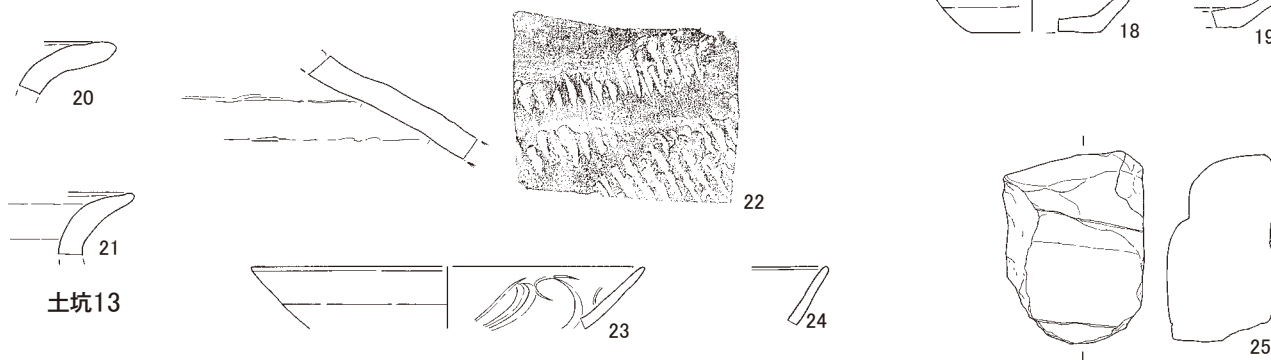


1. 淡黄褐色砂質土 泥岩粒(多)を含む
2. 灰褐色砂質土 1よりも泥岩少ない
- 2'. 灰褐色砂質土 遺物片・炭化物が2よりも多い
3. 灰褐色砂質土 混入物少ない
- 3'. 灰褐色砂質土 若干の炭化物含む
4. 灰黄褐色砂質土 泥岩(数cm大・多)を含む
5. 淡黄褐色砂質土 泥岩粒(多)・炭化物(多)を含む

土坑10, P.11・87・88



1. 暗灰色粘質土 炭化物(多)・土器碎片・泥岩(小石大)山砂・焼土を含む
2. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・炭化物・焼土粒を含む
3. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大・多)・炭化物を含む
4. 灰褐色粘質土 泥岩粒・炭化物(微)を含む
5. 灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大・多)・炭化物(多)・焼土・土器碎片(微)を含む
6. 暗灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大)・炭化物・鉄分・土器碎片(少)を含む
7. 破碎泥岩層
8. 灰茶色粘質土 泥岩(粒~小石大)炭化物・鉄分(やや多)を含む、しまりよい
9. 破碎泥岩地行
10. 暗灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大・少)・炭化物を含む
11. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒・炭化物を含む、10より少量
12. 灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大・多)・炭化物・山砂(微)を含む
13. 暗灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大・少)・炭化物(やや多)・土器碎片を含む
14. 暗茶灰褐色粘質土 泥岩粒(多)・炭化物(少)・焼土ブロック(少)を含む
15. 炭層
16. 灰茶褐色粘質土 泥岩(1~5cm大・多)・土器碎片・炭化物を含む



土坑13

図15 土坑7・8・10・13・P.11・87・88、同出土遺物

### 土坑 13 炭層内出土遺物 (図 16)

出土遺物：土師器皿 T 種小型 (1～3)・土師器皿 T 種大型 (4～7)・土師器皿 R 種小型 (8・9)・土師器皿 R 種大型 (10～12)・須恵器甕 (13) 特記事項：土師器皿は 13 世紀前半までのもの。

### 土坑 13 炭層下出土遺物 (図 16)

出土遺物：土師器皿 T 種小型 (14～16)・竜泉窯青磁 I 類碗 (17) 特記事項：土師器皿は 13 世紀前葉までのもの。

### 土坑 14 (図 16)

位置：X - 75 015.06 ～ - 75 016.14 Y - 24 586.31 ～ (- 24 587.25) 平面形：円形 断面形：深鉢形  
規模：長径 1.14 m × 短径 (0.76 m) × 深さ 0.36 m 主軸方位：N-33° -E 重複関係：P.120・121 他ピット 2 穴を切る。P.129 に切られる。 出土遺物：土師器皿 T 種大型 (18)・楠葉型瓦器輪花碗 (19) 特記事項：土師器皿は 13 世紀前葉までのもの。

### 土坑 15 (図 16)

位置：X (- 75 018.18) ～ - 75 018.94 Y (- 24 582.72) ～ - 24 583.39 平面形：楕円形 断面形：浅皿形 規模：長径 0.90 m × 短径 (0.34 m) × 深さ 0.09 m 主軸方位：N-39° -W 重複関係：ピット 1 穴を切る。P.34・136 他ピット 2 穴に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

### 土坑 16 (図 16)

位置：X - 75 018.19 ～ (- 75 020.19) Y - 24 584.54 ～ (- 24 586.39) 平面形：隅丸方形 断面形：深鉢形 規模：長軸 (1.97 m) × 短軸 (1.76 m) × 深さ 0.20 m 主軸方位：N-2° -W 重複関係：P.113・122・123・140・152 他ピット 4 穴に切られる。 炭土直下出土遺物：土師器皿 T 種大型 (20・21)・土師器皿 R 種小型 (22・23) 最下層出土遺物：土師器皿 T 種小型 (24)・土師器皿 T 種大型 (25)・土師器皿 R 種大型 (26)・竜泉窯青磁 I 類皿 (27) 特記事項：土師器皿は 13 世紀前半までのもの。

### P.11 (図 15)

位置：X - 75 018.24 ～ - 75 018.60 Y - 24 581.40 ～ (- 24 581.76) 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径 0.37 m × 短径 0.27 m × 深さ 0.31 m 主軸方位：N-8° -W 重複関係：ピット 1 穴を切る。土坑 10 に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

### P.87 (図 15)

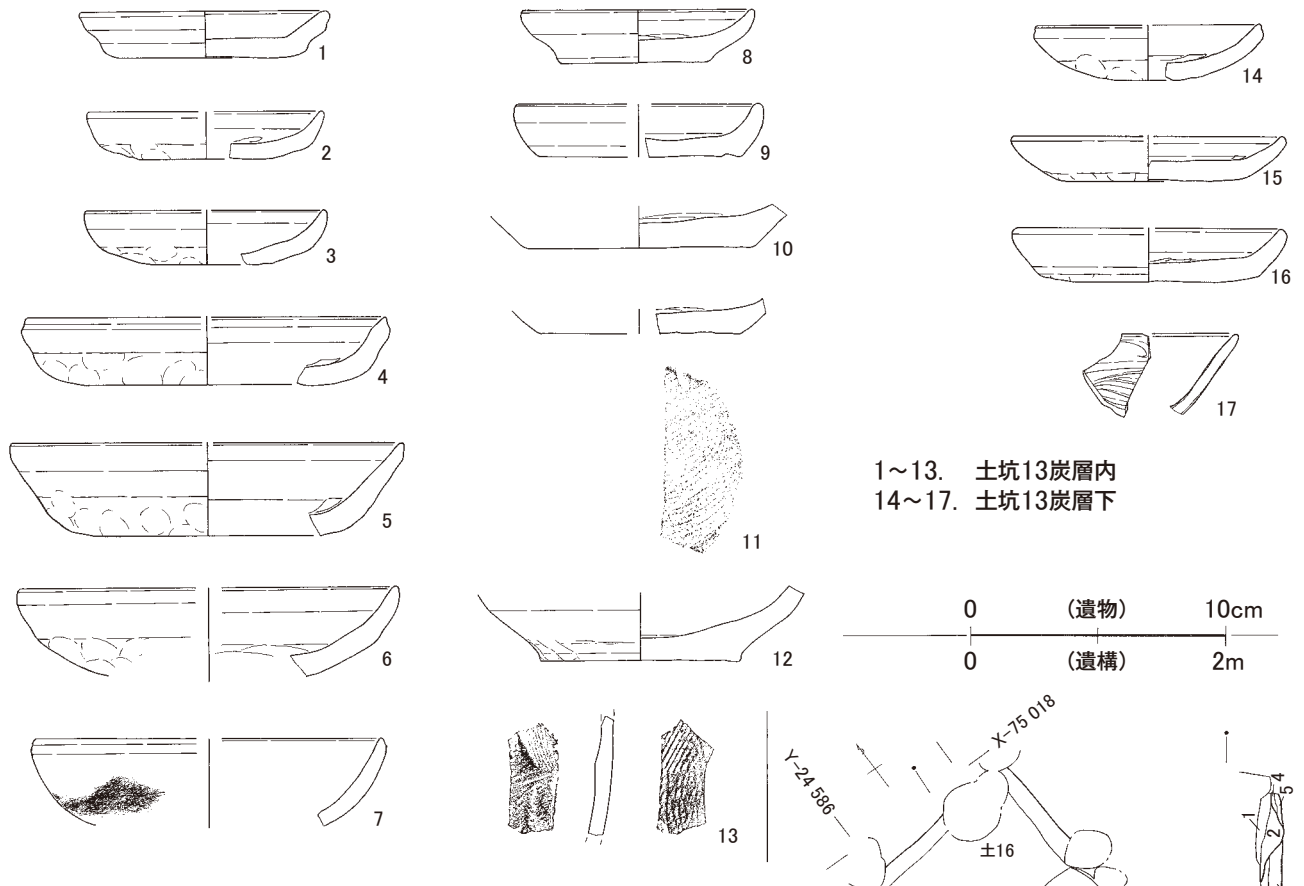
位置：X - 75 018.60 ～ - 75 018.90 Y (- 24 581.67) ～ - 24 582.07 平面形：不整形 断面形：深鉢形 規模：長径 (0.31 m) × 短径 0.38 m × 深さ 0.25 m 主軸方位：N-24° -W 重複関係：土坑 10 を切る。P.27 に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

### P.88 (図 15)

位置：X - 75 018.87 ～ - 75 019.16 Y - 24 582.23 ～ - 24 582.50 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径 0.31 m × 短径 0.26 m × 深さ 0.31 m 主軸方位：N-20° -E 重複関係：土坑 10・P.36 を切る。P.34 に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

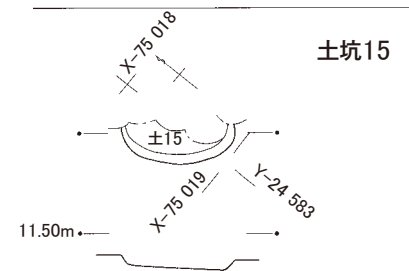
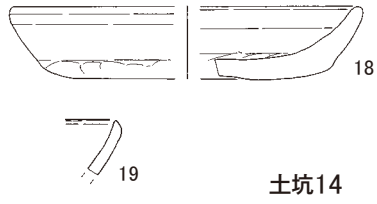
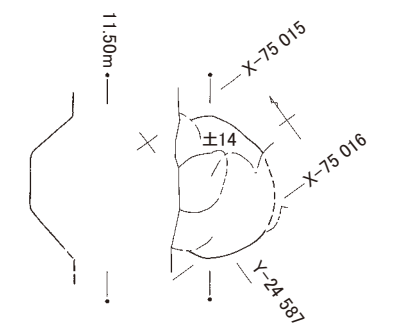
### P.40 (図 17)

位置：X - 75 020.20 ～ (- 75 020.62) Y - 24 583.80 ～ (- 24 584.18) 平面形：円形 断面形：深鉢形 規模：長径 0.40 m × 短径 0.32 m × 深さ 0.37 m 主軸方位：N-71° -E 重複関係：P.41・112 他ピット 1 穴を切る。 出土遺物：図化可能遺物なし

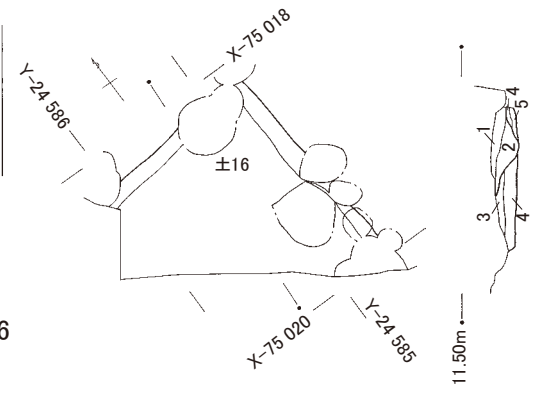


1~13. 土坑13炭層内  
14~17. 土坑13炭層下

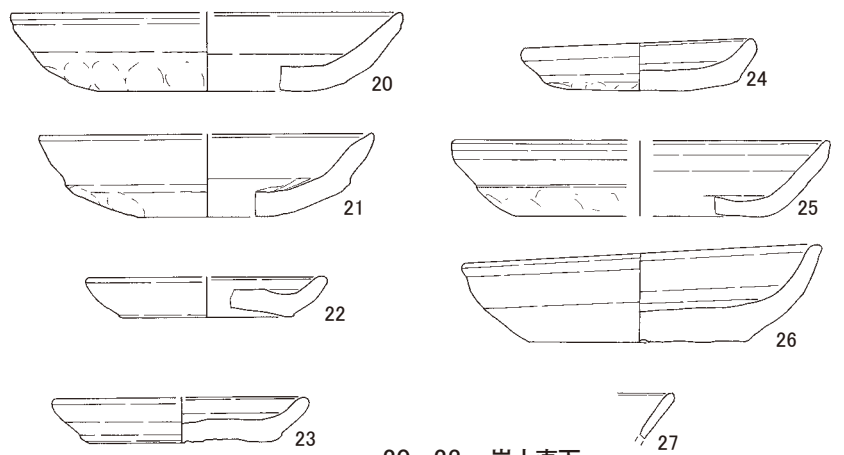
0 (遺物) 10cm  
0 (遺構) 2m



土坑16



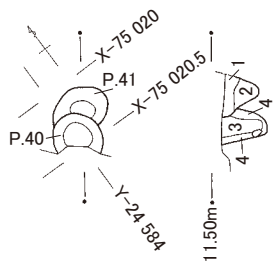
1. 暗灰色粘質土 泥岩（粒～拳大・多）・土器碎片・炭化物を含む
2. 黒褐色粘質土 炭化物（多）・山砂・泥岩（小石大・少）・焼土粒（少）を含む
3. 灰褐色粘質土 泥岩（拳大・多）土器碎片（少）・炭化物（少）を含む
4. 暗灰色粘質土 炭化物（やや多）・焼土・鉄分・泥岩（粒～小石大・少）を含む
5. 黄褐色粘質土 破碎泥岩つまる



20~23. 炭土直下  
24~27. 最下層

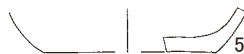
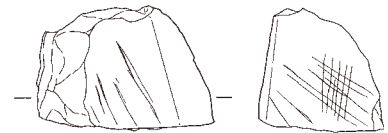
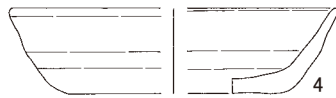
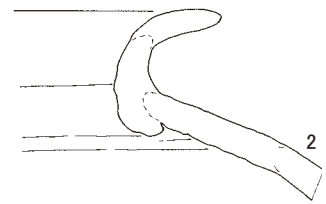
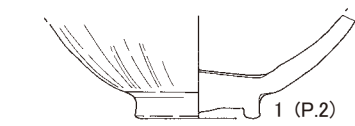
図16 土坑13炭層内・炭層下出土遺物、土坑14・15・16、同出土遺物





P.40・P.41

1. 灰褐色弱粘質土 泥岩粒を含む
2. 灰黄色粘質土 泥岩粒を含む
3. 灰黄色粘質土 混入物をあまり含まない
4. 灰黄色粘質土 泥岩(拳大)を含む



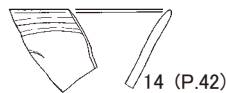
4~6 (P.12)



2・3 (P.3)



7~9 (P.27)



14 (P.42)



17



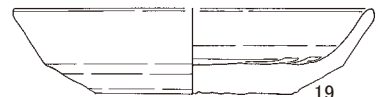
18



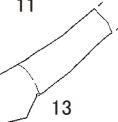
10



15 (P.58)



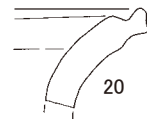
19



10~13 (P.34)



16 (P.109)



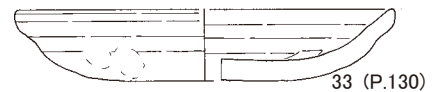
17~20 (P.110)



21



23



33 (P.130)



22

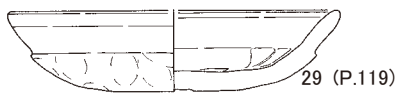
21~22 (P.117)



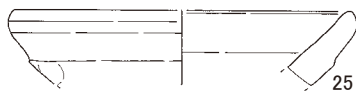
24



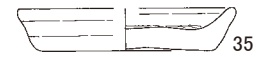
34



29 (P.119)



25



35

34・35 (P.131)



30 (P.122)



27

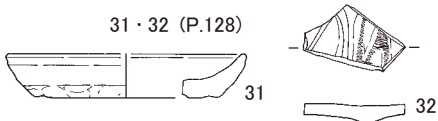


36



37

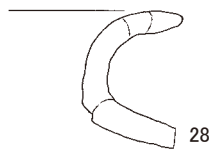
36・37 (P.148)



31・32 (P.128)



32



28

23~28 (P.118)

図17 P.40・41・2面遺構群ピット出土遺物

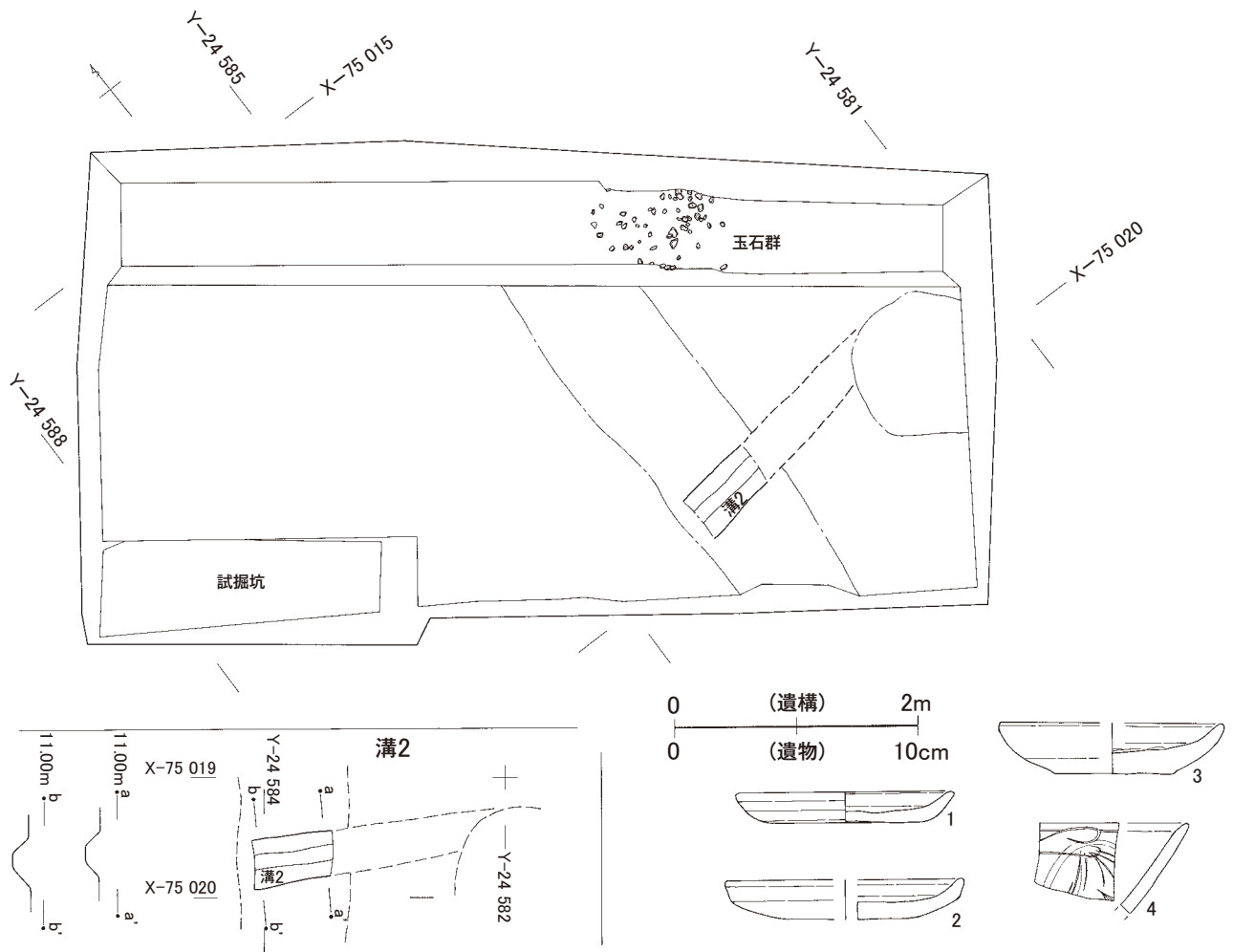


図18 3面遺構全図・溝2、同出土遺物

#### P.41 (図17)

位置：X - 75 020.06 ~ - 75 020.43 Y - 24 583.38 ~ (- 24 584.09) 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.45 m × 短径0.35 m × 深さ0.27 m 主軸方位：N-83° -W 重複関係：ピット4穴を切る。P.40に切られる。 出土遺物：凶化可能遺物なし

#### 2面遺構群ピット出土遺物 (図17)

出土遺物：(P.2) 竜泉窯青磁Ⅱ類碗 (1)・(P.3) 渥美甕 (2)・安山岩 (3)・(P.12) 土師器皿R種大型 (4・5)・土師器皿R種小型 (6)・(P.27) 常滑片口鉢Ⅱ類 (7)・渥美甕 (8)・常滑甕 (9)・(P.34) 土師器皿T種大型 (10)・土師器皿R種小型 (11)・常滑甕 (12・13)・(P.42) 竜泉窯青磁Ⅰ類碗 (14)・(P.58) 渥美・湖西型山茶碗 (15)・(P.109) 土師器皿T種小型 (16)・(P.110) 土師器皿T種小型 (17)・土師器皿R種小型 (18)・土師器皿R種大型 (19)・常滑甕 (20)・(P.117) 土師器皿T種小型 (21・22)・(P.118) 土師器皿T種小型 (23・24)・土師器皿T種大型 (25・26)・白色系土師器皿T種大型 (27)・渥美甕 (28)・(P.119) 土師器皿T種大型 (29)・(P.122) 土師器皿T種小型 (30)・(P.128) 土師器皿T種小型 (31)・同安窯系青磁皿 (32)・(P.130) 土師器皿T種大型 (33)・(P.131) 土師器皿T種小型 (34)・土師器皿R種小型 (35)・(P.148) 土師器皿R種小型 (36・37) 特記事項：土師器皿は13世紀前半までのもの。7の常滑鉢は中野編年6a～7型式のもの。9・12・20の常滑甕は中野編年5型式か。15の渥美・湖西型山茶碗は安井編年3aか。28の渥美甕は安井編年2b。

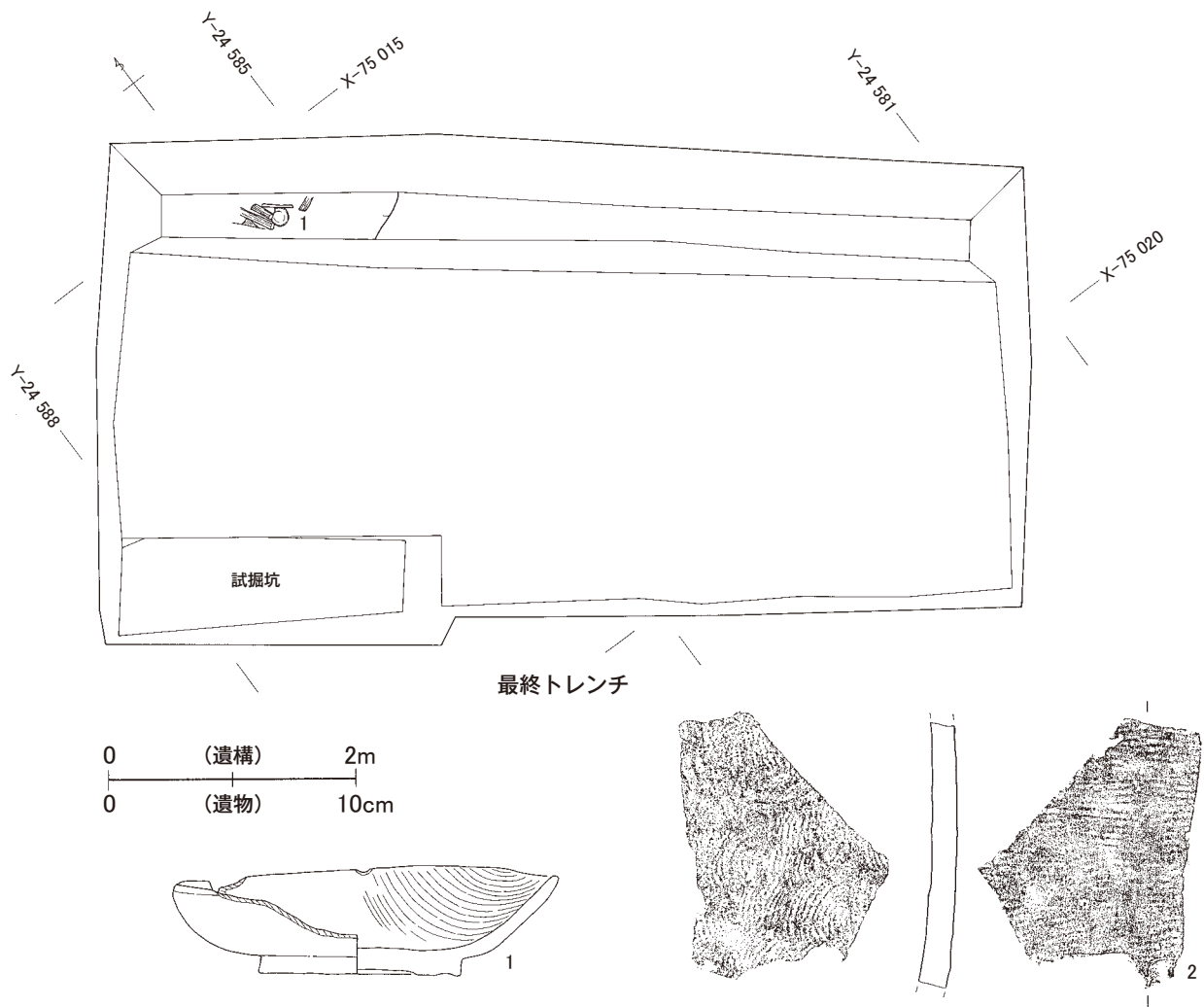


図19 最終トレンチ、同出土遺物

### 3. 3面

#### 面の概要 (図18)

検出高：10.86 m～10.89 m 面構成土：茶灰色弱砂質土・茶灰色粘質土 検出遺構：溝1条・玉石群  
 出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿R種小型(3)・竜泉窯青磁I類碗(4) 特記事項：深度規制のためトレンチ内での検出のみ。また上層遺構底面と上層遺構壁から溝を1条検出。玉石群は検出レベルからみて、37層内の礫を検出したか。検出範囲内における軸方位は上層の溝1と同様である。土師器皿は13世紀前葉まで、4の青磁は大宰府分類では12世紀後半～13世紀前葉。

### 4. 最終トレンチ

#### 概要 (図19)

深度規制のため調査は2面遺構群までとなっており、下層の状況は調査区北壁際のトレンチで把握することとなった。トレンチ最下層において、溝の掘り込みを検出し土層断面でも確認できたが、出土遺物も乏しく、検出範囲も狭小なため詳細は定かではない。

検出高：10.20 m～10.55 m 検出遺構：溝1条 出土遺物：木器椀(1)・須恵器甕(2) 特記事項：1の木器椀は漆が施されていない。

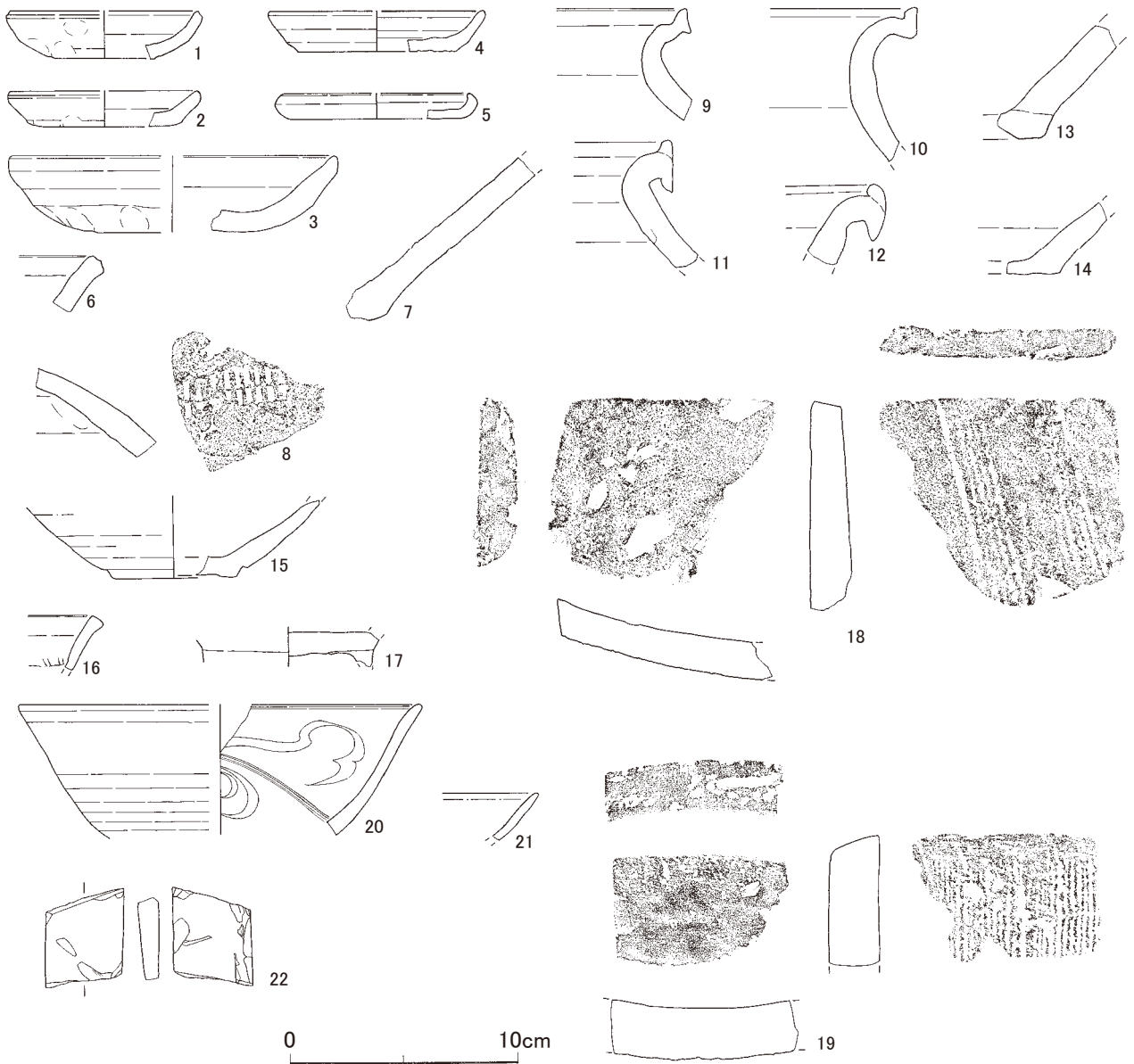


図20 表採・攪乱坑出土遺物

## 5. 表採・攪乱坑出土遺物

(図20)

出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3)・土師器皿R種小型(4)・白色系土師器皿T種小型(5)・常滑片口鉢Ⅱ類(6・7)・常滑甕(8～14)・瀬戸碗(15)・瀬戸卸皿(16)・瀬戸瓶類(17)・平瓦(18・19)・竜泉窯青磁Ⅰ類碗(20)・白磁口はげ皿(21)・砥石仕上げ砥(22)

(沖元)



表1 出土遺物観察表(1)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図5-1	攪乱B	瓦器質 火鉢脚	胎土は明赤灰色、胎芯は灰白色で黒色光沢粒子(多)・赤色粒子・白色粒子(微)を含む 貼付け部位で剥離
2	攪乱B	常滑 甕	胴部下位片 輪積み成形 叩き目あり 器表面は暗赤褐色で残存部内面全面にオリブ灰色の自然釉 胎土は灰色で白色粒子・透明光沢粒子・長石・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
3	攪乱B	青白磁 梅瓶	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は明青灰色で半透明
4	1面	土師器皿 T種小型	口径(9.5)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子(少)・黒色粒子(少)・白色粒子(少)・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	1面	土師器皿 T種小型	口径(11.5)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(少)・赤色粒子(少)・泥岩粒・海綿骨針を含む 全体に 焼きムラあり
6	1面	土師器皿 T種大型	口径(12.6)cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	1面	土師器皿 R種小型	口径(9.2)cm 底径(6.4)cm 器高2.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	1面	土師器皿 R種小型	口径(9.1)cm 底径(6.3)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
図6-1	1面 遺構群上層	土師器皿 T種小型	口径(8.2)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・透明光沢粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
2	1面 遺構群上層	土師器皿 T種小型	口径(8.9)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	1面 遺構群上層	土師器皿 T種大型	口径(14.4)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	1面 遺構群上層	土師器皿 R種大型	口径(13.6)cm 底径(8.8)cm 器高3.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 内底部煤ける
5	1面 遺構群上層	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 叩き目あり 器表面は灰黄褐色 胎土は褐灰色で白色粒子(少)を含む
6	1面 遺構群上層	白磁 Ⅷ類碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む 釉薬は灰白色で透明 高台露胎
7	1面 遺構群直上	土師器皿 T種大型	口径(14.0)cm 器高2.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子を含む 焼成良好
8	1面 遺構群直上	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	1面 遺構群直上	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	1面 遺構群直上	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む
11	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面に降灰あり
12	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面に降灰あり
13	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は灰褐色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
14	1面 遺構群直上	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は緑灰色で透明 内面に片切り彫りと串状工具による界線
15	1面 遺構群直上	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は緑灰色で透明 内面に片切り彫りで施文
16	1面 遺構群直上	青白磁 碗	残存長2.5cm 残存幅3.7cm 内面型押し後、外面回転ヘラ削り 素地は灰白色 釉薬は明青灰色透明 内面の雷文は凸文
17	1面 構築土	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
18	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.4)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
19	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・白色粒子・赤色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
20	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.2)cm 器高2.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
21	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(14.7)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
22	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(14.6)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
23	1面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・白色粒子(少)・海綿骨針を含む
24	1面 構築土	土師器皿 R種小型	口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	1面 構築土	白色系土師器皿 T種小型	口径(7.6)cm 器高1.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片(微)を含む 粉質土

表2 出土遺物観察表(2)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
26	1面構築土	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 外面下位回転ヘラ削り 付高台 胎土は灰色で白色粒子(多)・長石・礫片を含む 内面剥離するほど摩耗
27	1面構築土	渥美甕	口縁部片 輪積み成形 灰オリーブ色の灰釉ハケ塗り 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 器表面に鉄分の吹き出し
28	1面構築土	渥美甕	口縁部片 輪積み成形 灰オリーブ色の灰釉ハケ塗り 器表面は暗灰色 胎土は灰色
29	1面構築土	渥美甕	胴部片 輪積み成形 内面に灰オリーブ色の自然釉 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 器表面に鉄分の吹き出し
30	1面構築土	同安窯系青磁Ⅰ類碗	胴部片 ロクロ成形 外面回転ヘラ削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明 外面は櫛歯状工具の掻き揚げにより施文 内面は櫛歯状工具と片切り彫りにより施文
31	1面構築土	竜泉窯系青磁Ⅰ類碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りで施文
32	1面構築土	黒曜石火打石	最大長3.0cm 最大幅2.4cm 最大厚2.1cm 深い素痕が多く見られ後世ついた痕跡か
図7-1	土坑1	土師器皿T種小型	口径(10.9)cm 器高2.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	土坑1	土師器皿R種小型	口径(8.3)cm 底径(6.4)cm 器高1.1cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	土坑1	土師器皿R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.1)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	土坑1	土師器皿R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.7)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
5	土坑1	土師器皿R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
6	土坑1	土師器皿R種小型	口径7.9cm 底径5.9cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	土坑1	土師器皿R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	土坑1	土師器皿R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.9)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	土坑1	土師器皿R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.1)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	土坑1	土師器皿R種小型	口径(8.8)cm 底径(6.7)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
11	土坑1	土師器皿R種大型	口径(11.8)cm 底径(8.8)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、枝状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
12	土坑1	土師器皿R種大型	口径(13.1)cm 底径(9.2)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、枝状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	土坑1	土師器皿R種大型	口径(12.2)cm 底径(8.5)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
14	土坑1	土師器皿R種大型	口径(10.9)cm 底径(5.2)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑1	土師器皿R種大型	口径(11.9)cm 底径(6.4)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
16	土坑1	土師器皿R種大型	口径(11.5)cm 底径(8.0)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
17	土坑1	土師器皿R種大型	口径12.1cm 底径7.9cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	土坑1	土師器皿R種大型	口径(13.0)cm 底径(7.9)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑1	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
20	土坑1	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む 内面に降灰あり
21	土坑1	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に降灰あり 器表面は黒褐色 胎土は黄橙色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
22	土坑1	平瓦	残存長11.0cm 残存幅10.1cm 残存厚2.3cm 凹面に布目痕、凹面端部にナデ 凸面糸切痕の上に離れ砂 側面削り 表面は灰色 胎土は灰白色で混入物少ない 粉質均質土 永福寺Ⅰ期
23	土坑3	土師器皿T種小型	口径(8.6)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
24	土坑3	土師器皿T種小型	口径(8.9)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子(微)を含む 焼成良好
25	土坑3	土師器皿R種小型	口径(9.2)cm 底径7.2cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
26	土坑3	土師器皿R種小型	口径(8.9)cm 底径(7.4)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好

表3 出土遺物観察表(3)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
27	土坑3	土師器皿 R種小型	口径(9.3)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成温度が高いため少し歪む
28	土坑3	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.7)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成温度が高いため少し歪む
図8-1	攪乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.2)cm 底径(4.5)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子(微)を含む 二次被焼のため黒ずんでいる
2	攪乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で白色粒子を含む 二次被焼のため黒ずんでいる
3	攪乱A	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(4.8)cm 器高2.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(少)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	攪乱A	土師器皿 R種大型	口径(11.0)cm 底径(6.6)cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
5	攪乱A	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径7.3cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・赤色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
6	攪乱A	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に降灰あり 器表面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
7	土坑2	土師器 甕	胴部片 外面は縦位のハケ目 内面は横位のハケ目 胎土は明赤褐色で黒色光沢粒子(多)を含む
8	土坑2	土師器皿 T種大型	口径(14.0)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子を含む
9	土坑2	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(4.0)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
10	土坑2	土師器皿 R種小型	口径7.0cm 底径4.4cm 器高2.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(少)・白色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
11	土坑2	土師器皿 R種小型	口径7.3cm 底径4.6cm 器高2.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 口縁部に油煤附着
12	土坑2	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径4.1cm 器高2.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(少)・白色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑2	土師器皿 R種小型	口径(6.8)cm 底径(4.4)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(少)・海綿骨針を含む
14	土坑2	土師器皿 R種大型	口径(12.1)cm 底径6.7cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑2	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(7.5)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
16	土坑2	土師器皿 R種大型	口径11.6cm 底径7.0cm 器高3.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
17	土坑2	土師器皿 R種大型	口径(14.8)cm 底径(9.0)cm 器高3.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
18	土坑2	土師器皿 R種大型	口径13.7cm 底径9.1cm 器高3.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
19	土坑2	土師器皿 R種大型打ち欠き	底径7.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	土坑2	伊勢系 鏝鍋	口縁部片 外面に櫛歯状工具による横位ナデ 鏝貼付け 胎土は灰白色で長石を含む 胎芯部は灰色
21	土坑2	伊勢系 鏝鍋	口縁部片 外面に櫛歯状工具による横位ナデ 鏝貼付け 胎土は灰黄色で白色粒子を含む 胎芯部は灰色
22	土坑2	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による掻き上げ 器表面は明赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
23	土坑2	常滑 甕 転用摩耗陶片	胴部片を転用 輪積み成形 内面に降灰 器表面は明赤褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む 破断面1面を使用
24	土坑2	瀬戸 平碗か	口縁部片 胎土は淡黄色で混入物なし 粉質均質土 浅黄色の灰釉漬け掛け
25	土坑2	青白磁 蓋	ロクロ成形後、型押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は明青灰色で半透明
26	土坑2	青白磁 梅瓶	ロクロ成形後、型押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は明青灰色で半透明
27	土坑2	砥石 中砥	残存長5.1cm 残存最大幅1.9cm 残存最大厚1.6cm オリーブ黄色 4面使用 上野砥
28	土坑2	玄武岩質 凝灰岩	残存長9.6cm 残存最大幅7.1cm 残存最大厚6.7cm 灰色 残存面は摩耗しており礎石の一部の可能性も
図9-1	土坑9	渥美・湖西型 山茶碗	底径(6.0)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 付高台 高台端部初殻痕 内底部渦状ナデか 胎土は灰色で白色粒子を含む 均質土
2	P.66	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.55cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
3	土坑11	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む



表4 出土遺物観察表(4)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
4	土坑11	土師器皿 T種大型	口径(15.2)cm 器高3.25cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・海綿骨針を含む
5	土坑11	土師器皿 R種小型	口径(8.4)cm 底径(6.7)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
6	土坑11	土師器皿 R種大型	口径(14.0)cm 底径(8.6)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
7	土坑11	渥美 甕	肩部片 輪積み成形 灰釉ハケ塗りか 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子(少)・礫片(微)を含む
8	土坑11	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 外面に片切り彫りによる蓮弁文
9	土坑11	青白磁 水注把手	残存長3.1cm 残存幅1.3cm 残存厚0.6cm 胎土は灰白色 釉薬は明青灰色で透明
10	土坑11	白磁 皿	底部片 ロクロ成形後回転ヘラ削りか 外底部回転ヘラ削り 内面型押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は透明
11	P.30	土師器皿 R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
12	P.13	土師器皿 T種大型	口径(14.5)cm 器高2.45cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	P.13	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 器表面に叩き目 器表面は褐灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む
14	P.13	常滑 甕	口径(22.2)cm 輪積み成形 器表面は暗赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 長石の吹き出しあり
15	P.13	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口径(16.2)cm ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
16	P.13	竜泉窯青磁 Ⅰ類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明
図10-1	P.44	土師器皿 R種小型	口径8.9cm 底径6.8cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	P.44	土師器皿 R種小型	口径9.0cm 底径6.8cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
3	P.44	土師器皿 R種小型	口径8.4cm 底径6.6cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	P.44	土師器皿 R種大型	口径13.0cm 底径8.6cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.4	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリーブ黒色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
6	P.5	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
7	P.14	土師器皿 R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	P.14	白色系土師器皿 R種大型	口縁部片 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片(微)を含む 粉質土
9	P.14	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 外面縦位の板状工具によるナデ後、口縁部に一条の横位ナデ 器表面はオリーブ黒色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面に降灰あり
10	P.15	白磁 皿	口縁部片 ロクロ成形後回転ヘラ削りか 口縁部釉面取り 内面型押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は透明
11	P.15	須恵器 蓋か	口縁部片 胎土は灰色とにぶい橙色で白色粒子・礫片を含む 生焼けのため土師器の可能性もあるが、須恵器とした
12	P.20	土師器皿 R種小型	口径(8.4)cm 底径(6.9)cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	P.20	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 外面に叩き目 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む
14	P.21	土師器皿 R種小型	口径9.2cm 底径6.8cm 器高1.75cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
15	P.27	丸瓦	残存長14.5cm 残存幅12.0cm 残存厚2.2cm 凹面に布目痕、凹面端部削り 凸面縦位ヘラナデ 側面削り 表面は灰色 胎土は灰色で混入物少ない 均質土 永福寺Ⅰ期
16	P.35	土師器皿 T種大型	口径(13.1)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で白色粒子を含む 混入物少ない 焼成良好
17	P.37	土師器皿 T種大型	口径(13.1)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
18	P.38	土師器皿 R種極小型	口径(5.2)cm 底径(4.2)cm 器高0.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	P.38	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径6.5cm 器高1.65cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	P.38	土師器皿 R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.0)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む



表5 出土遺物観察表(5)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
21	P.38	土師器皿 R種大型	口径(12.2)cm 底径(6.5)cm 器高3.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
22	P.38	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリブ黒色 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
23	P.38	瀬戸 入子	口径(7.0)cm 底径(4.8)cm 器高1.85cm 外底部回転糸切り 胎土は灰白色で白色粒子を含む 混入物少ない
24	P.39	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径6.2cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	P.39	土師器皿 R種小型	口径(8.0)cm 底径(5.8)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明赤褐色で白色粒子・海綿骨針を含む
26	P.39	渥美 甕	肩部片 輪積み成形 外面に叩き目 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
27	P.39	丸瓦	残存長4.8cm 残存幅7.0cm 残存厚1.7cm 凹面に布目痕 凸面縄目叩き後縦位ナデ 側面削り 表面は暗灰色 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 永福寺I期
28	P.51	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
29	P.52	土師器皿 R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.6)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
30	P.52	同安窯系青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 外面回転ヘラ削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリブ色で半透明 外面は櫛歯状工具の掻き揚げにより施文
31	P.52	軽石	長径6.3cm 短径5.0cm 最大厚3.8cm 灰色 前面上部に溝状の彫り込み、彫り込みの平らにした箇所あり
32	P.56	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径(7.6)cm 器高1.25cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
33	P.56	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径(6.5)cm 器高1.75cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む
34	P.56	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
35	P.56	土師器皿 T種大型	口径(12.3)cm 器高2.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
36	P.56	土師器皿 T種大型	口径(13.3)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 板状圧痕 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
37	P.56	白色系土師器皿 T種小型	口径(8.4)cm 器高0.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色 粉質均質土
図11-38	P.63	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
39	P.63	土師器皿 R種小型	口径(8.8)cm 底径(7.2)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
40	P.77	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径(6.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(微)・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む
41	P.77	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に降灰あり 器表面は橙色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
42	P.80	白色系土師器皿 T種小型	口径(7.3)cm 器高1.25cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色 粉質均質土
43	P.85	土師器皿 T種大型	口径(12.8)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好 口縁部油煤付着
44	P.86	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部と肩部に降灰あり 器表面は赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
45	P.86	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 器表面は黄灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
46	P.89	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
47	P.97	渥美・湖西 片口鉢	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 付高台 胎土は灰白色で白色粒子を含む 均質土
48	P.97	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部と肩部に降灰あり 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
49	P.98	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
50	P.98	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径(9.4)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
51	P.98	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は明褐色で白色粒子・長石・礫片を含む
52	P.99	土師器皿 T種小型	口径(9.15)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
53	P.99	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 残存部下端内面調整が確認できないほど摩耗

表6 出土遺物観察表(6)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
54	P.99	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 器表面は赤褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
55	P.100	土製円盤	残存最大径3.6cm 厚さ0.5cm 手づくね成形 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む
56	P.104	土師器皿 T種大型	口径(13.8)cm 器高2.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
57	P.108	土師器皿 T種小型	口径(8.5)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
図12-1	2面 遺構群	土師器皿 T種大型	口径13.3cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
2	2面 遺構群	土師器皿 T種小型	口径(10.0)cm 器高1.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 混入物少ない 焼成良好
3	2面 遺構群	土師器皿 R種小型	口径(9.1)cm 底径(7.5)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
4	2面 遺構群	渥美 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁内面と肩部に灰胡ハケ塗り 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
5	2面 遺構群	丸瓦	残存長8.9cm 残存幅5.0cm 残存厚2.0cm 凹面に布目痕 凸面縄目叩き後縦位ナデ 表面は暗灰色 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 永福寺I期
図13-1	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(8.0)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
2	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(8.1)cm 器高2.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成良好
3	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子を含む
4	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
5	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.3)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	2面遺構群 炭層直上	軒丸瓦	残存長7.5cm 残存幅8.5cm 残存厚3.2cm 蓮華文の瓦当 表面は暗灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 永福寺I期
7	2面遺構群 炭層直上	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は灰オリーブ色で透明 内面に片切り彫りによる施文
8	2面遺構群 炭層直上	白磁 把手	残存長2.2cm 残存幅2.4cm 残存厚0.7cm 串状工具により沈線施文 胎土は灰色 釉薬は灰白色で透明
9	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	残存長6.5cm 幅0.6cm 厚0.6cm 重さ5.3g
10	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.0cm 幅0.5cm 厚0.5cm 重さ3.8g
11	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.5cm 幅0.7cm 厚0.6cm 重さ8.3g
12	2面遺構群 炭層内	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 外面全面に降灰 器表面は暗赤褐色 胎土はにぶい橙色で白色粒子・透明光沢粒子・長石・礫片を含む
13	2面遺構群 炭層内	平瓦	残存長12.3cm 残存幅13.7cm 残存厚2.25cm 凹面に離れ砂 凸面縄目叩き後縦位ナデ 表面は灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 永福寺I期
14	2面遺構群 炭層内	竜泉窯青磁 I類碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は明青灰色で透明 高台内露胎
15	2面遺構群 構築土	土師器皿 T種大型	口径(12.8)cm 器高2.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
図14-1	溝1 上層	土師器皿 T種小型	口径(9.1)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色粒子(少)・白色粒子・海綿骨針を含む
2	溝1 上層	土師器皿 T種小型	口径9.3cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	溝1 上層	土師器皿 T種大型	口径13.2cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	溝1 上層	土師器皿 T種大型	口径15.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
5	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径9.1cm 底径7.0cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径(8.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
7	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径(8.9)cm 底径(7.0)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	溝1 上層	常滑 片口鉢I類	底径14.6cm 輪積み成形後、ロクロ整形 外面下位回転ヘラ削り 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む 内面調整が確認できないほど摩耗
9	溝1 上層	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む

表7 出土遺物観察表(7)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
10	溝1 上層	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む
11	溝1 上層	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面はにぶい黄橙色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む
12	溝1 上層	瀬戸 柄付片口	片口部 片口は貼付け後ヘラナデで整形 器表面は褐灰色 胎土は灰色で混入物なし 内面に灰オリブ色の灰釉 まだらに黒褐色の部分あり
13	溝1 上層	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
14	溝1 上層	鉄釘	長さ6.5cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ4.4g
15	溝1 下層	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高1.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
16	溝1 下層	土師器皿 T種小型	口径(9.7)cm 器高1.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
17	溝1 下層	土師器皿 T種大型	口径(13.4)cm 器高2.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子を含む
18	溝1 下層	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
図15-1	土坑7・8	渥美 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は黄灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
2	土坑7・8	滑石製 石鍋	口縁部片 鋸部に工具痕のようなものがあり、削り取った可能性も 灰白色 外面炭化し黒色に変色 内面も暗灰色
3	土坑10	白磁 VIII類碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色で不透明 高台及び内底部露胎
4	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(9.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は暗灰色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む 二次被焼により全面黒く変色 口縁部油煤付着
5	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(9.1)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
7	土坑13	土師器皿 T種小型	口径8.7cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
8	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(8.6)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐灰色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
11	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
12	土坑13	土師器皿 T種小型	口径(9.4)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑13	土師器皿 T種大型	口径(12.3)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
14	土坑13	土師器皿 T種大型	口径(14.6)cm 器高2.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
15	土坑13	土師器皿 T種大型	口径(14.0)cm 器高2.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
16	土坑13	土師器皿 T種大型	口径(14.3)cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
17	土坑13	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
18	土坑13	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.3)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑13	渥美・湖西型 山皿	口縁部片 外底部回転糸切り 胎土は灰色で白色粒子を含む
20	土坑13	渥美 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部内外面に灰釉ハケ塗り 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む
21	土坑13	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部内面に降灰 器表面に黒褐色 胎土は灰色で白色粒子(微)を含む
22	土坑13	渥美 甕	胴部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面に黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む
23	土坑13	竜泉窯青磁 I類浅形碗	口径(15.6)cm ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は明緑灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
24	土坑13	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は明オリブ灰色で透明 無文



表8 出土遺物観察表(8)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
	土坑13	安山岩	残存長7.5cm 残存幅5.5cm 残存厚4.3cm 灰色 残存部一部に摩耗した箇所あり
図16-1	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(9.5)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(9.4)cm 器高2.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(14.2)cm 器高2.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
5	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(15.4)cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
6	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(14.8)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 粉質均質土
7	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(13.6)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 外面に黒色に変色した部位あり 焼成良好
8	土坑13 炭層内	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径5.8cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13 炭層内	土師器皿 R種小型	口径(9.5)cm 底径(8.1)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径9.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
11	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径7.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
12	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径(7.8cm) 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 底部脇指おさえ 糸切り痕はナデ消したのか不明瞭 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑13 炭層内	須恵器 甕	残存長4.9cm 残存幅2.0cm 厚さ0.7cm 胎土は灰色で白色粒子を含む
14	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高2.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針(微)を含む
15	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(10.6)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
16	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(10.4)cm 器高2.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
17	土坑13 炭層下	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は明緑灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
18	土坑14	土師器皿 T種大型	口径(13.7)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
19	土坑14	楠葉型瓦器 輪花碗	口縁部片 内面にミガキ(暗文) 器表面は炭素吸着により暗灰色 胎土は灰白色
20	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(15.4)cm 器高3.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
21	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒色光沢粒子(少)・黒色粒子(少)・赤色粒子・海綿骨針を含む 内面に暗灰色に変色した部位あり 焼成良好
22	土坑16	土師器皿 R種小型	口径(9.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
23	土坑16	土師器皿 R種小型	口径(10.0)cm 底径(7.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子を含む
24	土坑16	土師器皿 T種小型	口径9.0cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 内底部は同心円状ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
25	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(14.6)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
26	土坑16	土師器皿 R種大型	口径13.9cm 底径8.8cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
27	土坑16	竜泉窯青磁 I類皿	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は明オリブ灰色で透明 同安窯系皿の可能性もあり
図17-1	P.2	竜泉窯青磁 II類碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 外底部露胎 胎土は灰色 釉薬はオリブ灰色で透明 外面に片切り彫りによる蓮弁文
2	P.3	渥美 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
3	P.3	安山岩	残存長4.95cm 残存幅6.85cm 残存厚4.2cm 灰色、表面は暗灰色 残存面2面のうち1面が摩耗 残存面2面に索痕あり
4	P.12	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径(8.6)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.12	土師器皿 R種大型	底径(6.8)cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む



表9 出土遺物観察表(9)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
6	P.12	土師器皿 R種小型	口径(7.1)cm 底径(5.4)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
7	P.27	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 外面口縁下に二条の横位ナデ 外面は灰赤色、内面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む 内面に降灰あり
8	P.27	渥美 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内外面に灰釉ハケ塗り
9	P.27	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗赤灰色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む
10	P.34	土師器皿 T種大型	口径(13.2)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む 焼成良好
11	P.34	土師器皿 R種小型	口径(10.2)cm 底径(6.4)cm 器高2.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
12	P.34	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐灰色 胎土はにぶい黄橙色で白色粒子・礫片を含む
13	P.34	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は褐灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
14	P.42	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明
15	P.58	渥美・湖西型 山茶碗	底部片 輪積み成形後ロクロ整形 付け高台 高台及び内底部に粗殻痕 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
16	P.109	土師器皿 T種小型	口径(9.7)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
17	P.110	土師器皿 T種小型	口径(9.2)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
18	P.110	土師器皿 R種小型	口径(8.6)cm 底径(7.3)cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
19	P.110	土師器皿 R種大型	口径(14.0)cm 底径(7.8)cm 器高3.45cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む
20	P.110	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
21	P.117	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
22	P.117	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・赤色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
23	P.118	土師器皿 T種小型	口径(9.2)cm 器高1.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・透明光沢粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
24	P.118	土師器皿 T種小型	口径(9.2)cm 器高1.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
25	P.118	土師器皿 T種大型	口径(13.2)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
26	P.118	土師器皿 T種大型	口径(12.9)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
27	P.118	白色系土師器皿 T種大型	口径(10.8)cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む 焼成良好
28	P.118	渥美 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面頸部まで、外面肩部まで灰釉ハケ塗り
29	P.119	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
30	P.122	土師器皿 T種小型	口径(7.6)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
31	P.128	土師器皿 T種小型	口径(9.4)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
32	P.128	同安窯系青磁 I類皿	口縁部片 ロクロ成形 外面回転ヘラ削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で半透明 内面に櫛歯状工具により施文
33	P.130	土師器皿 T種大型	口径(14.7)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
34	P.131	土師器皿 T種小型	口径(9.7)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
35	P.131	土師器皿 R種小型	口径(8.4)cm 底径(7.2)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部同心円状ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
36	P.148	土師器皿 R種小型	口径9.0cm 底径6.7cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
37	P.148	土師器皿 R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.3)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
図18-1	3面	土師器皿 T種小型	口径(8.9)cm 器高1.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好

表10 出土遺物観察表(10)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
2	3面	土師器皿 T種小型	口径(9.7)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	3面	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径5.0cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	3面	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ黄色で透明 内面に片切り彫りによる施文
図19-1	最終トレンチ	木器 椀	底径8.2cm 高台内側に円形に溝が削り込まれており、これにより削り出し高台を形成 椀目材
2	最終トレンチ	須恵器 甕	胴部片 輪積み成形 内面に青海波状の当て具痕 器表面は暗灰色 胎土は暗赤褐色で白色粒子を含む
図20-1	表採・攪乱	土師器皿 T種小型	口径(8.4)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・海綿骨針を含む 焼成良好
2	表採・攪乱	土師器皿 T種小型	口径(8.3)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	表採・攪乱	土師器皿 T種大型	口径(14.2)cm 器高3.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	表採・攪乱	土師器皿 R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.0)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	表採・攪乱	白色系土師器皿 T種小型	口径(8.2)cm 器高1.15cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子(微)・赤色粒子(微)を含む 焼成良好
6	表採・攪乱	常滑 片口鉢II類	口縁部片 輪積み成形 口縁部横位ナデ 外面は暗赤褐色、内面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
7	表採・攪乱	常滑 片口鉢II類	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は橙色 胎土は橙色で白色粒子・長石・礫片を含む 内底部全面剥離するほど使用
8	表採・攪乱	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 叩き目あり 外面は暗赤褐色、内面は明黄褐色 胎土はにぶい赤褐色で白色粒子・礫片・小石粒を含む
9	表採・攪乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ成形 外面は暗赤褐色、内面は赤黒色 胎土はにぶい黄色で白色粒子・礫片を含む
10	表採・攪乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 外面は暗赤灰色、内面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む 灰オリーブ色の自然釉
11	表採・攪乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 内面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・長石を含む 外面に淡黄色の自然釉
12	表採・攪乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 器表面は黒褐色 胎土はオリーブ黒色で白色粒子・長石・礫片・小石粒を含む 外面に淡黄色の自然釉
13	表採・攪乱	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇と内面に板状工具による縦位ナデ 外面は赤褐色、内面は橙色 胎土は橙色で白色粒子・礫片・小石粒を含む 内面調整が確認できないほど摩耗 常滑片口鉢II類底部の可能性もあり
14	表採・攪乱	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 内面に横位ナデ 外面はにぶい赤褐色、内面は極暗赤褐色 胎土は橙色で白色粒子・礫片・小石粒を含む 鉄分の吹き出しあり 内面調整確認できるが摩耗 常滑片口鉢II類底部の可能性もあり
15	表採・攪乱	瀬戸 碗	底径(5.0)cm ロクロ成形 削り出し高台 内面に目跡か 胎土は灰黄色で白色粒子(微)を含む 灰オリーブ色の灰釉を漬け掛け
16	表採・攪乱	瀬戸 卸皿	口縁部片 胎土はにぶい黄橙色 明オリーブ灰色の灰釉ハケ塗り
17	表採・攪乱	瀬戸 瓶類	残存部底径(7.5)cm 付け高台 底部は2枚の板を貼付け 胎土は灰黄色で混入物なし
18	表採・攪乱	平瓦	残存長9.3cm 残存幅11.0cm 厚さ1.55cm 凹面に黒色光沢粒子の離れ砂 凸面に縄目痕と黒色光沢粒子の離れ砂 側面へラ削り 凸面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む 硬質
19	表採・攪乱	平瓦	残存長5.8cm 残存幅8.2cm 厚さ2.25cm 凹面に横位ナデ 凸面に縄目痕と離れ砂 端面へラ削り 胎土は灰白色で白色粒子・礫片を含む 硬質
20	表採・攪乱	竜泉窯青磁 I類碗	口径(17.6)cm ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ黄色で透明 内面に片切り彫りによる施文
21	表採・攪乱	白磁 口はげ皿	口縁部片 ロクロ成形 口縁部面取り 口縁部に重ね焼き痕 胎土は灰白色 釉薬は灰白色と透明
22	表採・攪乱	砥石 仕上げ砥	残存長4.4cm 幅3.4cm 残存最大厚0.9cm 残存最少厚0.55cm 側面に切出し痕 黄灰色 使用面1面 鳴滝
写真図版 13	表採・攪乱	高麗青磁 瓶子	ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ黄色で透明 外面に片切り彫りによる施文

表11 出土遺物計量表

			1面遺構群		2面遺構群		3面まで		総計		
中世以前	黒曜石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	縄文土器		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%	
	弥生土器		0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	2	0.05%	
	土師器		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	鬼高式土師器		0	0.00%	3	0.17%	3	2.44%	6	0.14%	
	古代土師器		1	0.05%	2	0.11%	3	2.44%	6	0.14%	
	須恵器		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%	
	須恵器甕		1	0.05%	1	0.06%	1	0.81%	3	0.07%	
	南比企産須恵器		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%	
	土器	土師器皿	T種	大	714	36.19%	1029	58.23%	79	64.23%	1945
燈明皿				1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
小				87	4.41%	166	9.39%	16	13.01%	283	6.79%
燈明皿				0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
極小				3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
R種			小型特殊	0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%
			大	677	34.31%	333	18.85%	9	7.32%	1065	25.56%
			中	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			小	202	10.24%	86	4.87%	5	4.07%	306	7.35%
			燈明皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
T種白色系		極小	2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%	
		転用円盤	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		特大	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
R種白色系		大	4	0.20%	1	0.06%	0	0.00%	5	0.12%	
		小	3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.10%	
土器質		火鉢	大	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
			鏝鍋	2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		伊勢系	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
			瓦器質土器	0	0.00%	2	0.11%	0	0.00%	2	0.05%
		瓦器	楠葉	輪花碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2
土製品	円盤		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
国産陶器	常滑	壺	壺	3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%
			甕	147	7.45%	44	2.49%	0	0.00%	246	5.90%
		片口鉢	I類片口鉢	15	0.76%	5	0.28%	0	0.00%	22	0.53%
			II類片口鉢	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	6	0.14%
		山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	瀬戸	瓶子	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%	
		平碗	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		卸皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		柄付片口	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
		入子	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		壺類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		器種不明	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%	
	渥美・湖西	甕	34	1.72%	36	2.04%	1	0.81%	78	1.87%	
		片口鉢	3	0.15%	1	0.06%	0	0.00%	4	0.10%	
		山茶碗	2	0.10%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%	
		山皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
	瓦	永福寺I期平瓦		2	0.10%	3	0.17%	0	0.00%	7	0.17%
		永福寺I期丸瓦		2	0.10%	3	0.17%	0	0.00%	5	0.12%
		永福寺I期軒丸瓦		0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
永福寺II期平瓦		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%		
永福寺II期丸瓦		0	0.00%	2	0.11%	0	0.00%	2	0.05%		
永福寺II期以降平瓦		4	0.20%	1	0.06%	1	0.81%	9	0.22%		
永福寺II期以降丸瓦		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.12%		
不明		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
舶載陶磁器	青磁同安窯系	碗	2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%	
		皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
	青磁 竜泉窯系	大宰府I類	画花文碗	9	0.46%	12	0.68%	1	0.81%	24	0.58%
			無文碗	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
			皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
		大宰府II類	浅形碗	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
			蓮弁文碗	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	3	0.07%
	大宰府III類	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%	
	青白磁	梅瓶	折縁鉢	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
			梅瓶	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		水注	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		碗	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		皿	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
	白磁	蓋	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		端反	碗	3	0.15%	1	0.06%	0	0.00%	4	0.10%
		口はげ	皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
		四耳壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		水注	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
	褐釉	皿	皿	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%
			不明	1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%
壺		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%		
泉州窯		緑釉	盤	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%
高麗青磁		瓶子	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
産地不明		器種不明陶器	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%	
金属製品		鉄	釘	1	0.05%	5	0.28%	0	0.00%	6	0.14%
石製品		滑石	鍋	0	0.00%	1	0.06%	0	0.00%	1	0.02%
	砥石	鳴滝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
		上野	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
石材・石	搬入石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.12%	
	砂岩		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.10%	
	安山岩		2	0.10%	7	0.40%	0	0.00%	9	0.22%	
	凝灰岩		3	0.15%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.07%	
	焼泥岩		1	0.05%	1	0.06%	0	0.00%	2	0.05%	
	軽石		1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
	搬入石材(頁岩)		2	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.05%	
木製品	漆器以外	椀	0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%	
自然遺物	骨	鳥獣骨	2	0.10%	2	0.11%	0	0.00%	4	0.10%	
	貝	夜光貝	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.02%	
その他	不明搬入土器		0	0.00%	0	0.00%	1	0.81%	1	0.02%	
合計			1973	100%	1767	100%	123	100%	4166	100%	

## 第四章 まとめと考察

### 1. 遺構の変遷と年代

#### 1期

北壁際トレンチ内での検出のみ。土層断面から溝であることは確認できるが、底部まで掘削していないため、全容は不明。土層堆積から浚渫ないし掘り直しの可能性を考えて、1-1期と1-2期の2期に分けた。出土遺物が乏しいため年代は不明だが、13世紀前半までに収まるか。

#### 2期

北壁土層断面で確認した。溝を埋めた後に、ほぼその真上に土塁状遺構が構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに収まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 3期

北壁土層断面で確認した。2期の土塁状遺構を覆うように東寄りに構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに収まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 4期

北壁際トレンチ内での検出と上層遺構の底面で溝2の一部を検出したのみ。土層断面から土塁状遺構を確認できる。この土塁状遺構は2面遺構群造成の際に上部を削平されている。出土遺物は13世紀前半のもの。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 5期-2面遺構群

二階堂大路と思しき道路と若干軸方位をずらしながらも、ほぼ直交する軸方位で交差する溝1を検出している。出土遺物は13世紀中葉までのものが主だが、溝1上層から古瀬戸中期以降の柄付片口が出土しているため、13世紀後葉まで存続していた可能性はある。

#### 6期-1面遺構群

上層を大きく削平されており、遺構や面上遺物の年代は混在する。5期に存在した溝1のような、区画を分ける機能を有している可能性のある遺構は検出していない。土坑1が13世紀後葉を上限、土坑2が15世紀代と言える以外は、出土遺物は13世紀中葉までのものとなっている。また、構築土内の出土遺物も13世紀中葉までで収まる。下層の年代と勘案すると13世紀中頃が上限となり、13世紀後半以降とすることが妥当と考える。

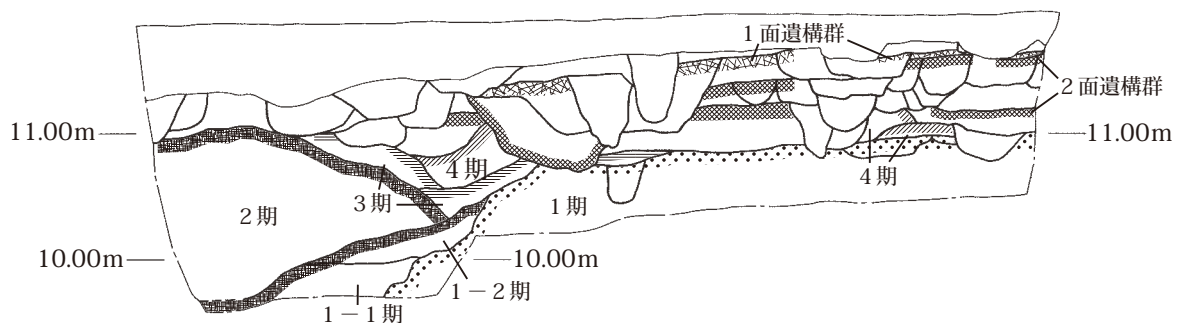


図21 北壁土層概念図



## 2. 本調査地点と周辺の調査成果より

本調査地点と周辺の調査から、本調査地点周辺の軸方位を推定できる遺構の検出事例が蓄積されたため、図22に提示した。あくまで軸方位を推定できる遺構の提示を目的としたため、遺構面や年代には差異がある。また調査年次の古い地点に関しては、正確に地図上に落とし込めたとは言えないことを付記しておく。

図1-5(馬淵1993)・30地点(馬淵1990)では東御門川の旧河道とおぼしき流路、図1-11(馬淵2004)・12地点(馬淵2014)では滑川の旧河道とおぼしき流路が検出されている。

図1-30地点(馬淵1990)は中近世遺構面の全測図を提示したが、下層では古墳後期の土器を埋土に含むより古い時期の旧流路がさらに広がった状況で検出されている。

図1-5地点(馬淵1993)では中世基盤層が大きく削平を受けている状況で遺構検出が行われている。調査区西端で検出されている旧流路埋土内には15世紀代の出土遺物も含まれており、埋没年代はそれ以降となる。調査区南端では二階堂大路の側溝とおぼしき大溝が検出されているが、土層断面からは何度も掘り直され位置が現道側へ移動していることがわかる。出土遺物には15世紀代のももの含まれるため、かなり後世まで存続していたことが確認できる。この大溝と異なる軸方位を持つのが柱穴1であるが、出土遺物からみて13世紀前葉までにおさまる。12世紀末から13世紀前葉にかけて軸方位がずれた可能性を指摘できるに留まる。以上、図1-5・30地点の成果から、旧東御門川の川幅が鎌倉時代には現在より広がったことが推定でき、現道(旧二階堂大路か)と軸方位を異にする遺構を確認できるが、時期差の有無までは確認できない。

図1-11地点(馬淵2004)は13世紀前半までの土器が埋土に含まれるもっとも新しい河道を提示した。これより新しい時期の土器が確認されていないため、この地点の河道は13世紀前半代で埋没したことが推定できる。

図1-12地点(馬淵2014)はもっとも新しい第1河床面を提示した。これより下層は調査区全体が流路堆積層と流路埋土で構成されている。安全性に基づく掘削規制のため最下層まで検出したわけではないが、検出最下層において15世紀代の土器が出土していることから埋没時期が15世紀以降まで下ることが確認できる。図1-11・12地点の成果から、旧滑川の川幅が現在よりも広く、さらに現在の川幅と同程度まで埋められた時期が15世紀以降まで下ることが推定できる。

図1-10地点(菊川泉2001)は最下層の地山の落込ラインを提示した。調査区内では対岸が検出されておらず、東御門川の流路とも大きく軸がずれていないことから、東御門川によって削平された段丘崖面を検出した可能性もある。この落込埋土からは13世紀前葉の土器が出土していることから、埋没時期が13世紀前半以降であることが推定できる。

図1-8地点(菊川英1991)に関しては、西側調査区(トレンチⅠ)は最下層の地山面(第3面)、東側調査区(トレンチⅡ)は第1面上に盛土された土塁状遺構を提示した。土塁状遺構は現在の荏柄天神社参道にほぼ平行することがわかるが、西側調査区の地山面検出の溝2は中位に段を有する二段箱掘り様の形状をなしており、東側調査区で検出された土塁状遺構とは軸方位が異なる。西側調査区の第2面では土塁状遺構にほぼ直交する溝1が検出されており、第2面と第3面で軸方位が変化したことが推定できる。第3面上包含層からは13世紀前葉の遺物、第2面上包含層からは13世紀前半代の遺物が出土しており、13世紀中葉を下限とする時期に軸方位が変化したことが推定できる。

図1-72地点(原2003)は中世基盤層(5B面)、図1-73地点(福田2000)の北側調査区(B区)は中世基盤層(5面)、南側調査区(A区)は検出面最下層の2面(北側調査区4面相当か)、図1-74地点(菊



図22 本調査地点と周辺の調査成果

川英1990)は第1面が大きく削平されており、検出最下層面(第1・2面)を提示した。

図1-72地点(原2003)では5A面と5B面で軸方位を同一とする箱薬研掘様の溝と柱穴列を検出しており、4面で検出された柱穴列も下層の溝にほぼ直交する軸方位を示している。3面より上層では軸方位を推定できる遺構を検出していないため詳細は不明だが、少なくとも4面までは軸方位が変化していない可能性がある。4面の出土遺物は13世紀中葉までのものがほとんどとなっており、13世紀中葉まで軸方位が変化していない可能性を指摘できる

図1-73地点(福田2000)は北側調査区の中世基盤層(5面)で薬研掘の溝を検出している。1層上層の4面のピットの検出状況は5面の溝と直交するように配置されているようにも見えるが、定かではない。中世基盤層の2層上層の3面以降で検出されている溝は現道(県道金沢鎌倉線・204号)とほぼ平行する軸方位となっている。南側調査区の検出面最下層の下層堆積は地山土によって盛土された土層となっているようである。この盛土層は標高11.80mほどまで調査されているが、地山は検出されていない。

北側調査区の出土遺物は3面で13世紀第3四半期以降のものを含みつつも13世紀中葉までのものが主となっていることから、13世紀前半から中葉にかけて軸方位の変化が起こった可能性を指摘できる。南側調査区の2面までの出土遺物には13世紀中頃以降のものが含まれ、盛土が行われたのが13世紀中葉以降である可能性を指摘できる。

図1-74地点(菊川英1990)では調査区南端で現道(県道金沢鎌倉線・204号)の下に潜り込む溝1が検出されている。この他に溝1に直交する軸方位を持つ溝3、調査区北端で北側現道とほぼ平行する溝4が検出されている。出土遺物からみて、溝1は13世紀後半まで、溝3は13世紀中葉まで、溝4は13世紀中頃までを下限として存続していたと考えられる。先行調査で得られた調査区南側の地山面の標高は11.80mほどとなっている。

図1-8・72・73・74地点の調査では現況とは大きく異なる軸方位をもつ遺構が検出されており、この軸方位は13世紀中葉を中心とする時期まで存続している可能性を指摘できる。この現況と異なる軸方位に関して、むしろ図1-74地点北側道路と軸方位がほぼ同一となっていることは着目すべき事象と指摘できる。また、図1-11・12地点で検出された旧滑川河道とおぼしき流路や、図1-74地点で検出された現道(県道金沢鎌倉線・204号)の下に潜り込む溝の存在は現況と中世のとある時期までは土地利用・地割に大きな違いがあることを示唆していよう。翻って本調査地点の成果をみると、深度規制に伴い最下層までの調査は行われなかったが、軸方位が確認できる13世紀中葉を上限とする溝を検出している。この軸方位は図1-10地点で検出された地山の落込ラインとほぼ平行していることが確認できる。これが自然地形に合わせた土地利用のあり方を示しているか即断はできないが、狭小な調査範囲といえども事例を積み重ねることにより、自然地形に応じた土地利用、自然地形を改変した土地利用、といったものが明らかになり、現在の町のありようがどのように出来上がってきたかが少しずつ明瞭になっていくであろう。

(沖元)



## 引用・参考文献（本報全体に共通）

赤星直忠1959『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館

蘆田伊人編1998『大日本地誌大系22 新編相模国風土記稿』雄山閣

上本進二2000「第4節 鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子棧敷戸遺跡（逗子市No.100）』（仮称）医療保健センター建設地内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所

神奈川県史編纂室編1971『神奈川県史 資料編1 古代・中世（1）』神奈川県史編纂室

神奈川県史編纂室編1975『神奈川県史 資料編3 古代・中世（3上）』神奈川県史編纂室

河野真知郎ほか1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

菊川英政1990「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会

菊川英政1991「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会

菊川泉2001「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

國平健三・長谷川厚1990『宮久保遺跡Ⅲ』（神奈川県立埋蔵文化財センター15）神奈川県立埋蔵文化財センター

齋木秀雄ほか2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉遺跡調査会報告書第47集』鎌倉遺跡調査会

鈴木茂1996「宇津宮辻子幕府跡の花粉化石」（「宇津宮辻子幕府跡」附編）『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12（第1分冊）』鎌倉市教育委員会

鈴木棠三・鈴木良一監修1984『神奈川県地名』平凡社

貫達人1971「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第8号 神奈川県立金沢文庫

野口実1993「頼朝以前の鎌倉」『古代文化45』（財）古代学協会

原廣志2003「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会

福田誠・菊川泉2000「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1990『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団

馬淵和雄1993「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1994「武士の都 鎌倉—その成立と構想をめぐって—」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』（『中世の風景を読む』

### 2）新人物往来社

馬淵和雄1998「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄1999『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目620番5地点』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団

馬淵和雄2004「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄2014「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30（第1分冊）』鎌倉市教育委員会



図版 1



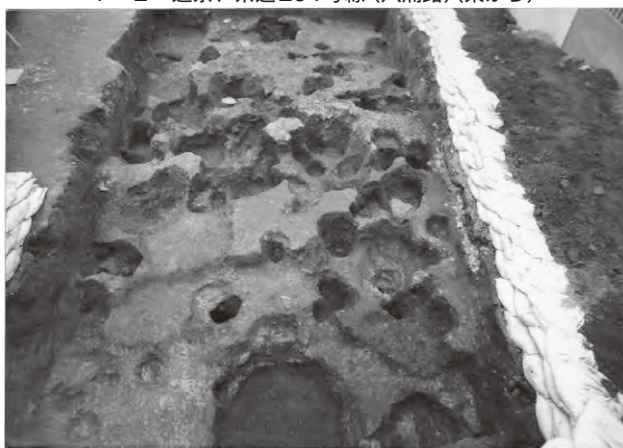
1-1 県道204号線(六浦路)調査地点入口より西を臨む



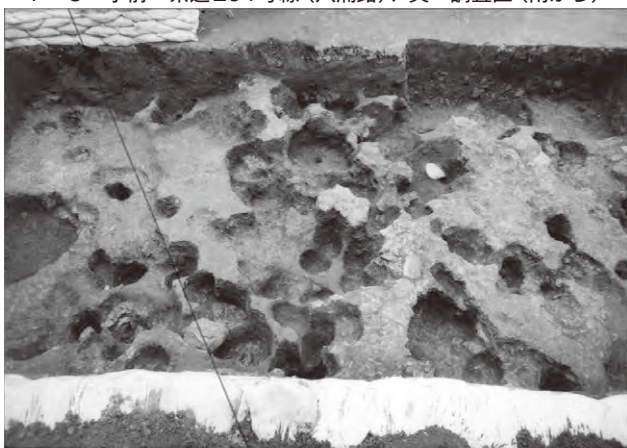
1-2 近景、県道204号線(六浦路)(東から)



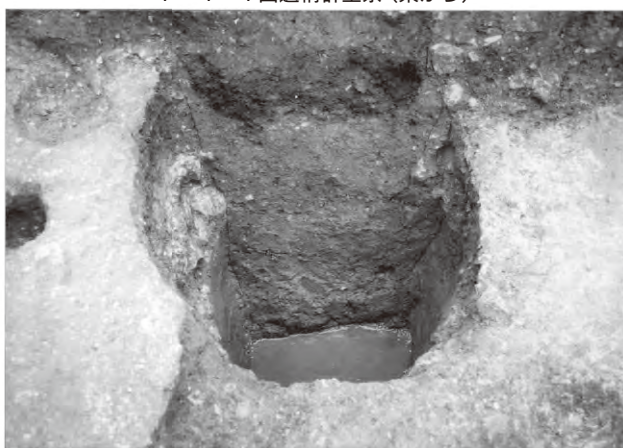
1-3 手前・県道204号線(六浦路)、奥・調査区(南から)



1-4 1面遺構群全景(東から)



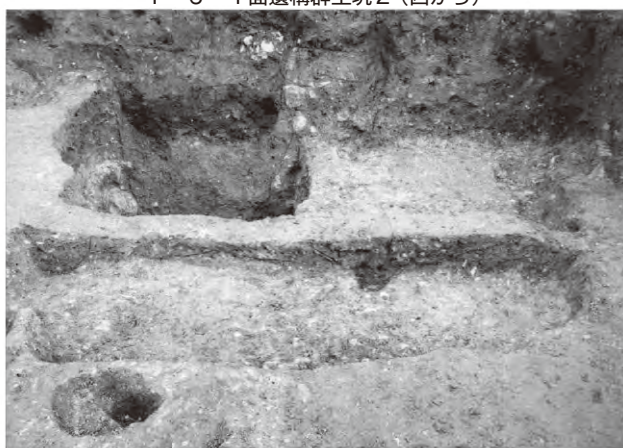
1-5 1面遺構群全景(北から)



1-6 1面遺構群土坑2(西から)



1-7 1面遺構群土坑2・3(西から)

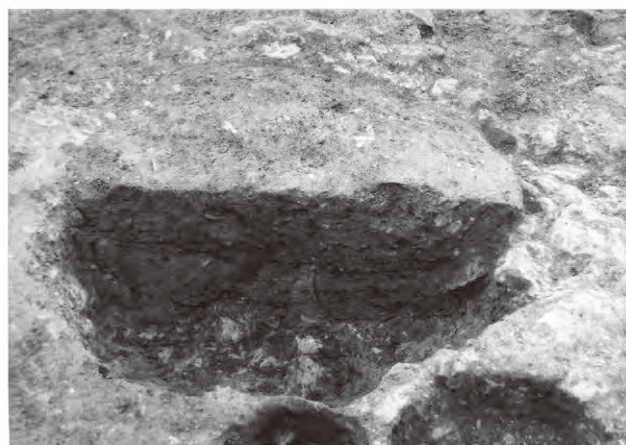


1-8 1面遺構群土坑3南北ベルト(西から)

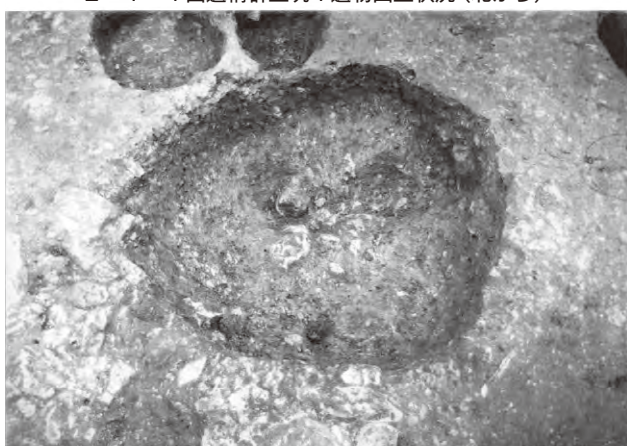




2-1 1面遺構群土坑1遺物出土状況(北から)



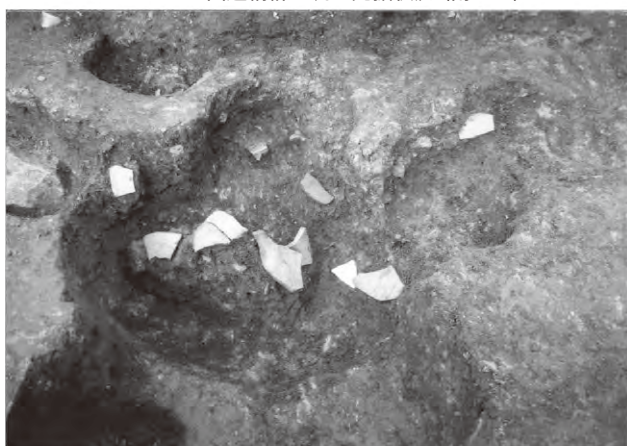
2-2 1面遺構群土坑1東西土層断面(北から)



2-3 1面遺構群土坑1完掘状況(南から)



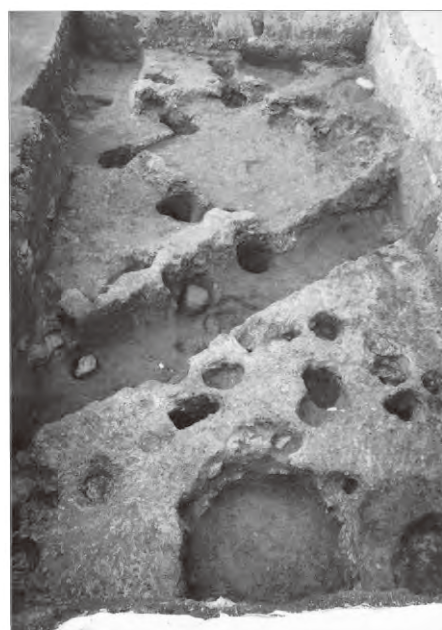
2-4 1面遺構群P.44(北から)



2-5 1面遺構群P.13内遺物出土状況(南から)



2-7 2面遺構群全景(北から)



2-6 2面遺構群全景(東から)



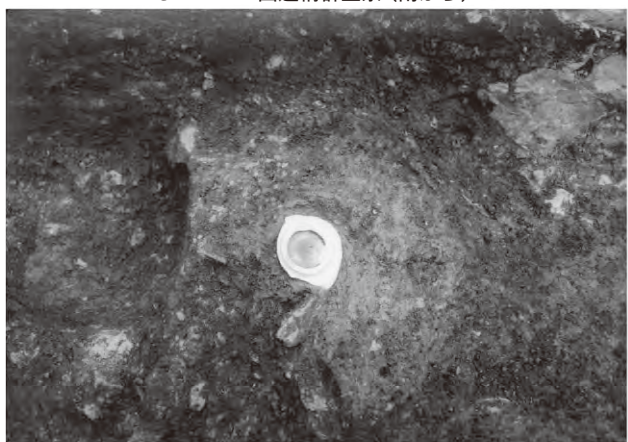
図版3



3-1 2面遺構群全景(南から)



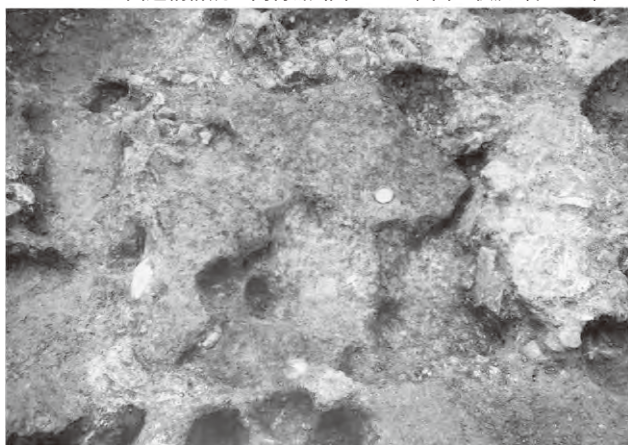
3-2 2面遺構群溝1上層(北から)



3-4 2面遺構群焼土内青磁(図13-14)出土状況(北から)



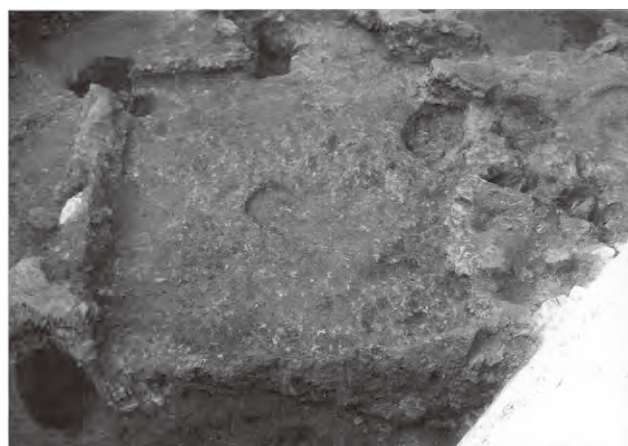
3-3 2面遺構群溝1上層(南から)



3-5 2面遺構群土坑13上層炭層(東から、遺物は図15-5)



3-6 2面遺構群土坑13完掘状況(北から)



3-7 2面遺構群土坑13完掘状況(北東から)

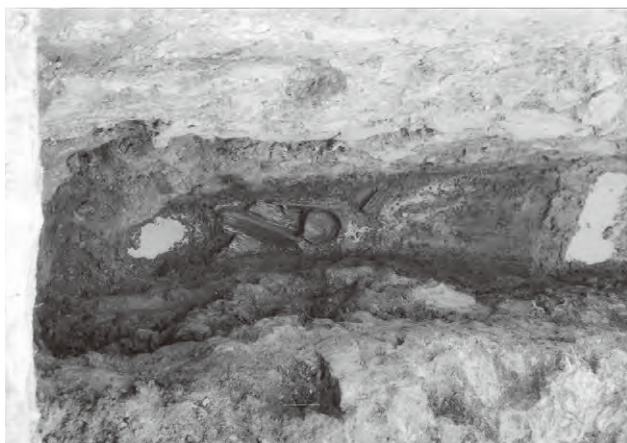




4-1 北壁際最終トレンチ内集石(3面)出土状況(南から)



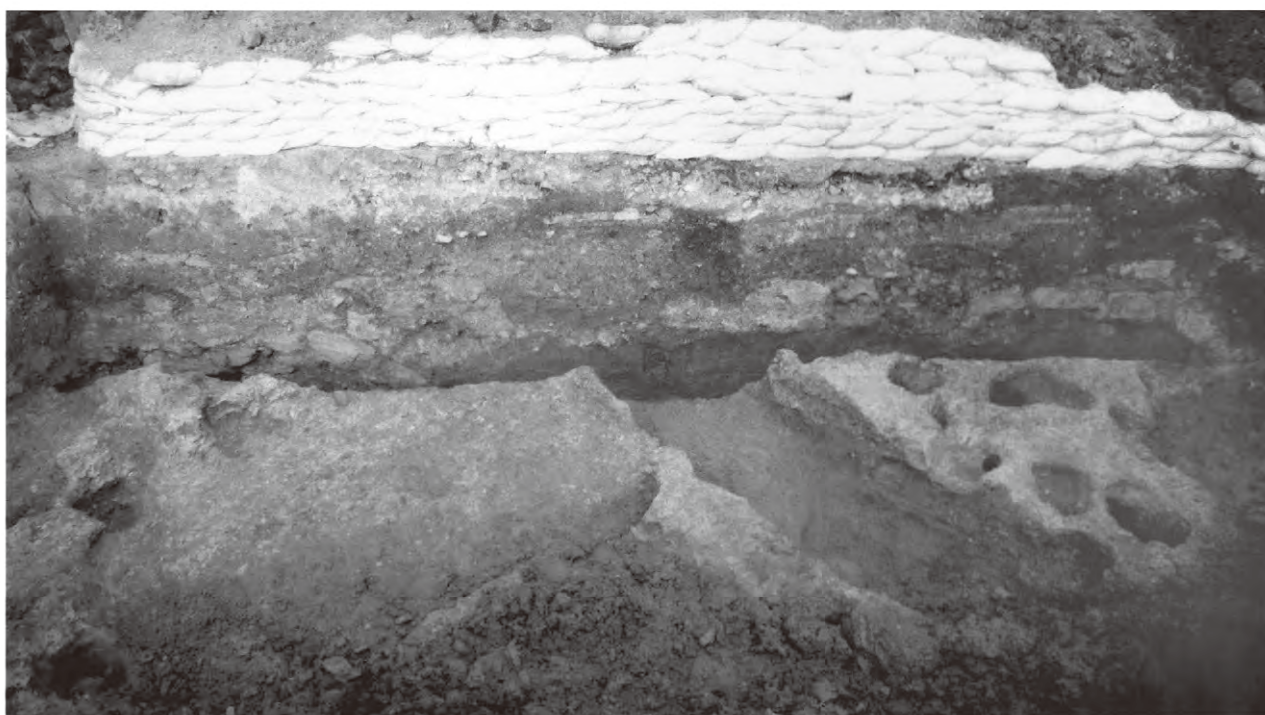
4-2 北壁際最終トレンチ(東から)



4-3 北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況(南から)



4-4 北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況(南から・拡大)



4-5 北壁土層断面





5-1 北壁土层断面(中央)

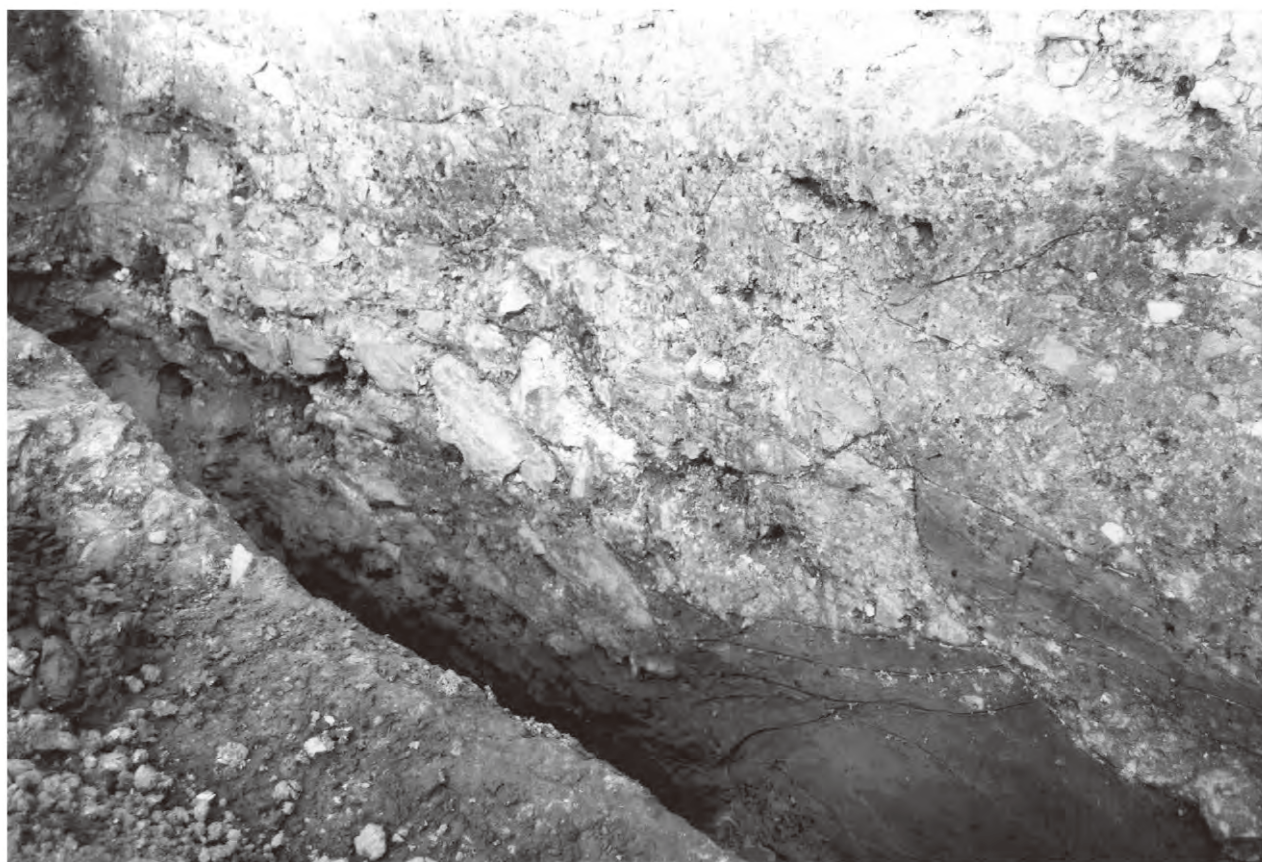


5-2 北壁土层断面(东侧)





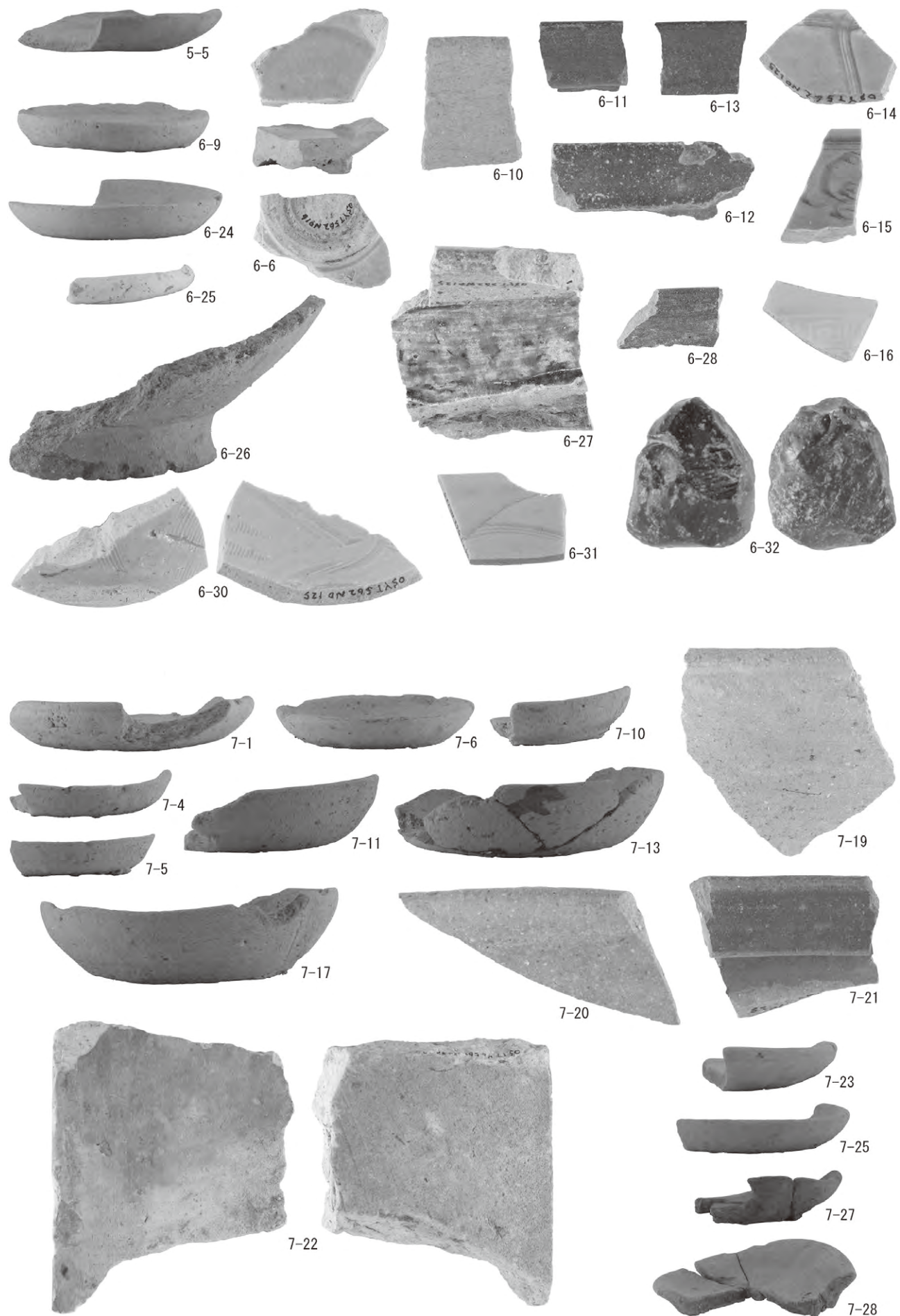
6-1 北壁土層断面(土壘状遺構と大溝)①



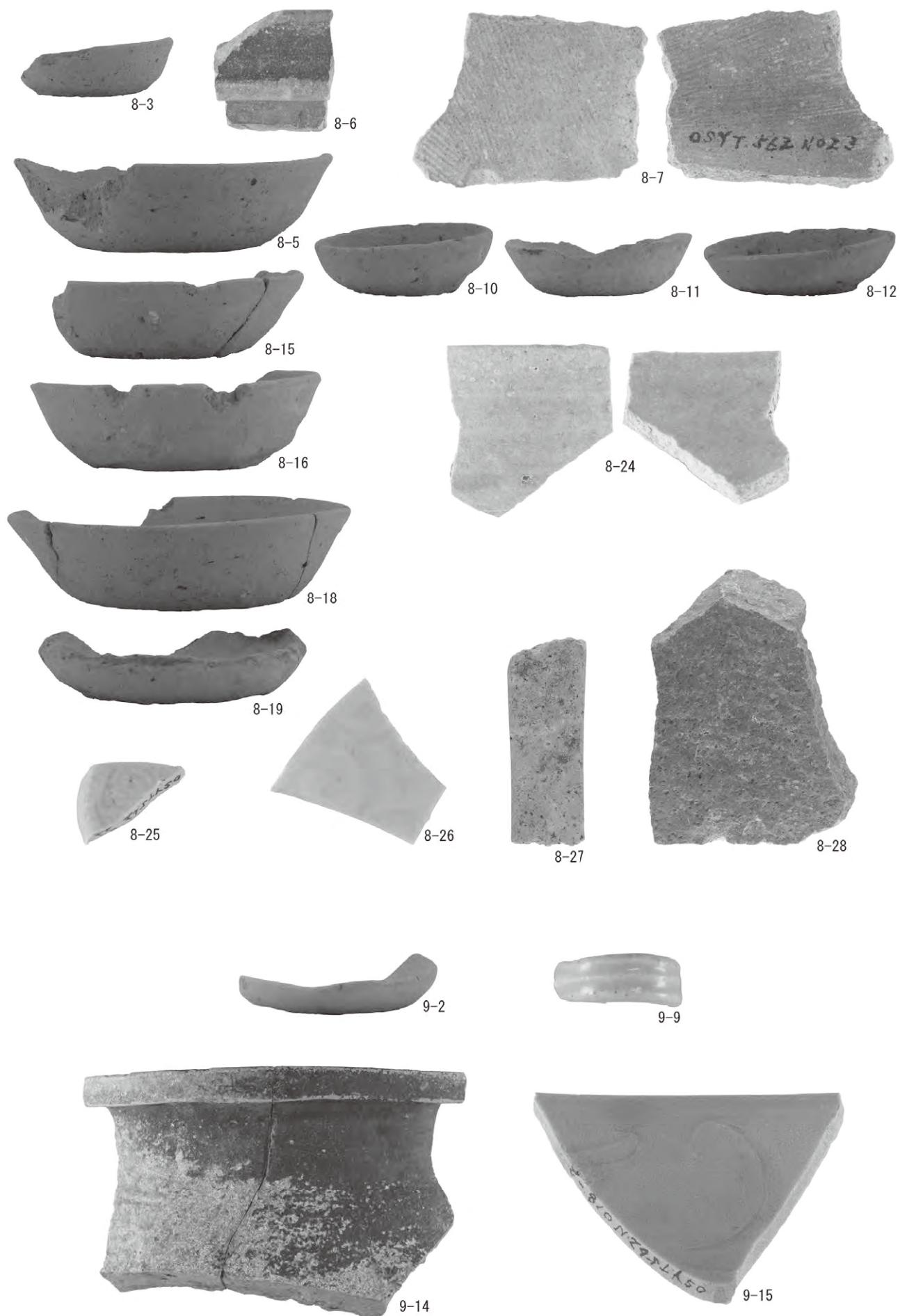
6-2 北壁土層断面(土壘状遺構と大溝)②



图版 7



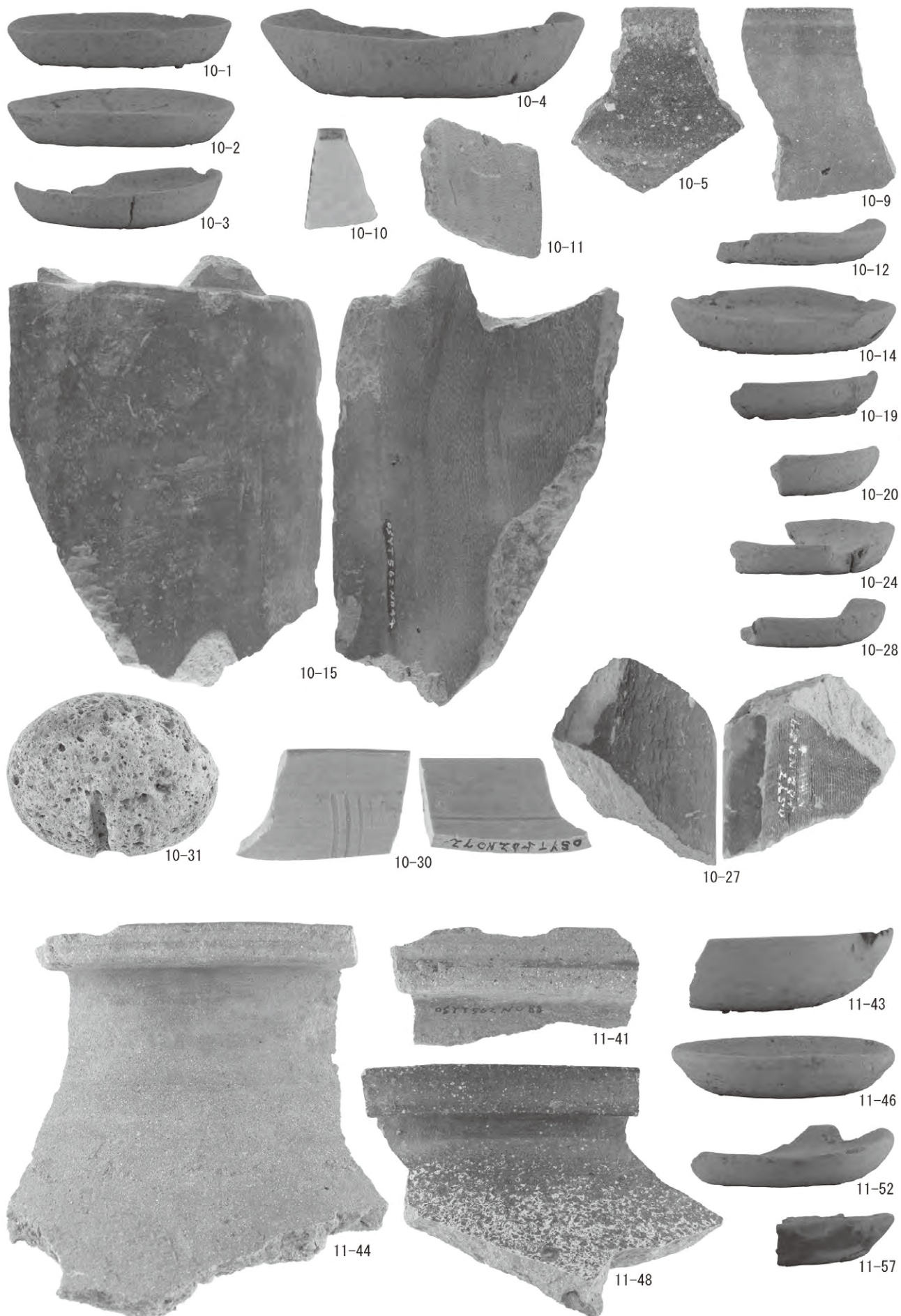
出土遺物 1



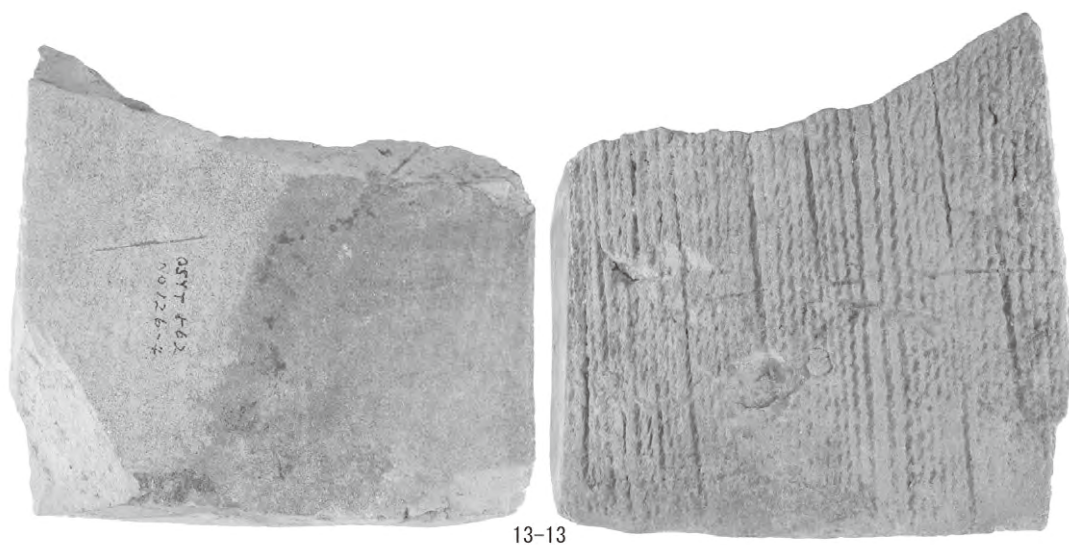
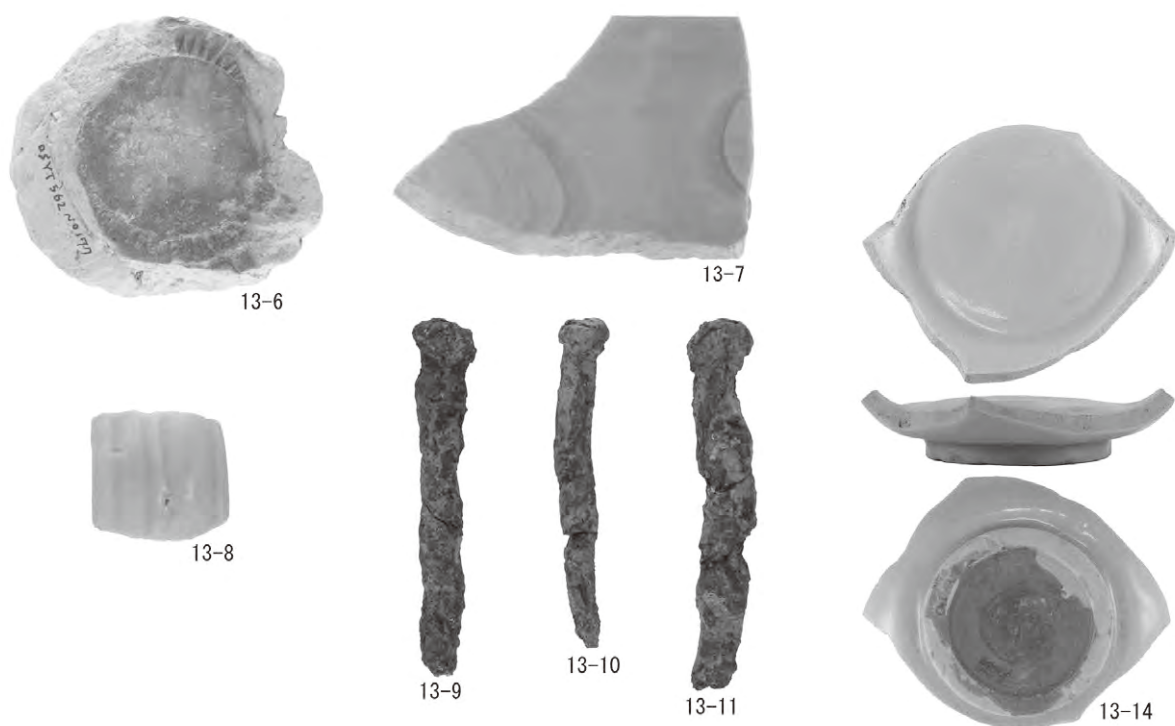
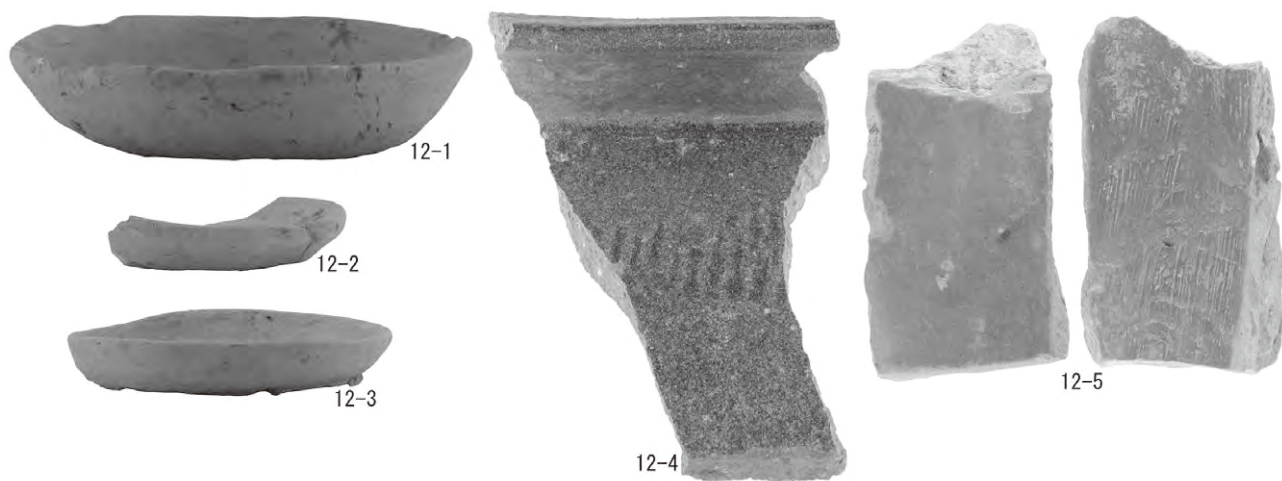
出土遺物2



图版9



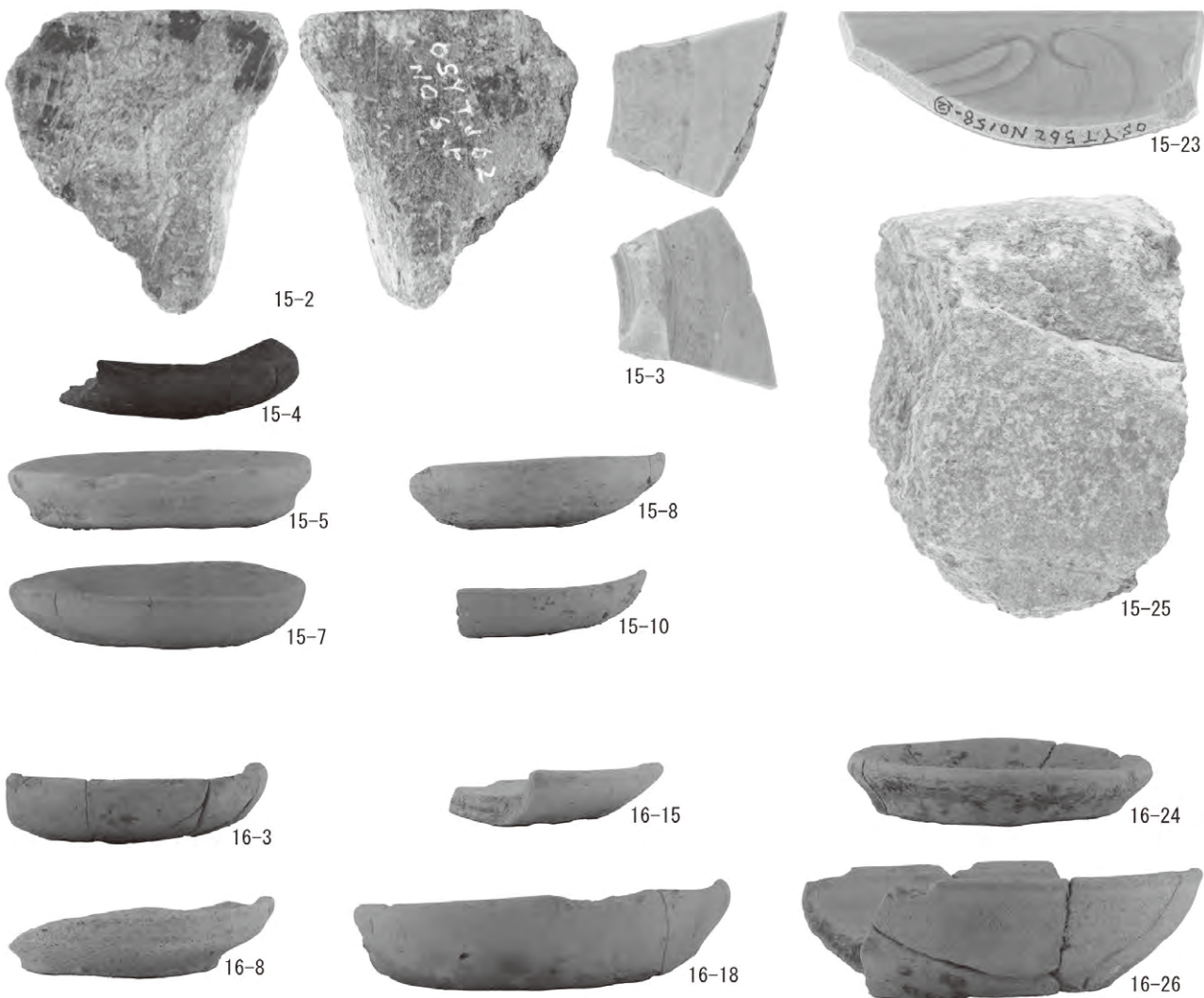
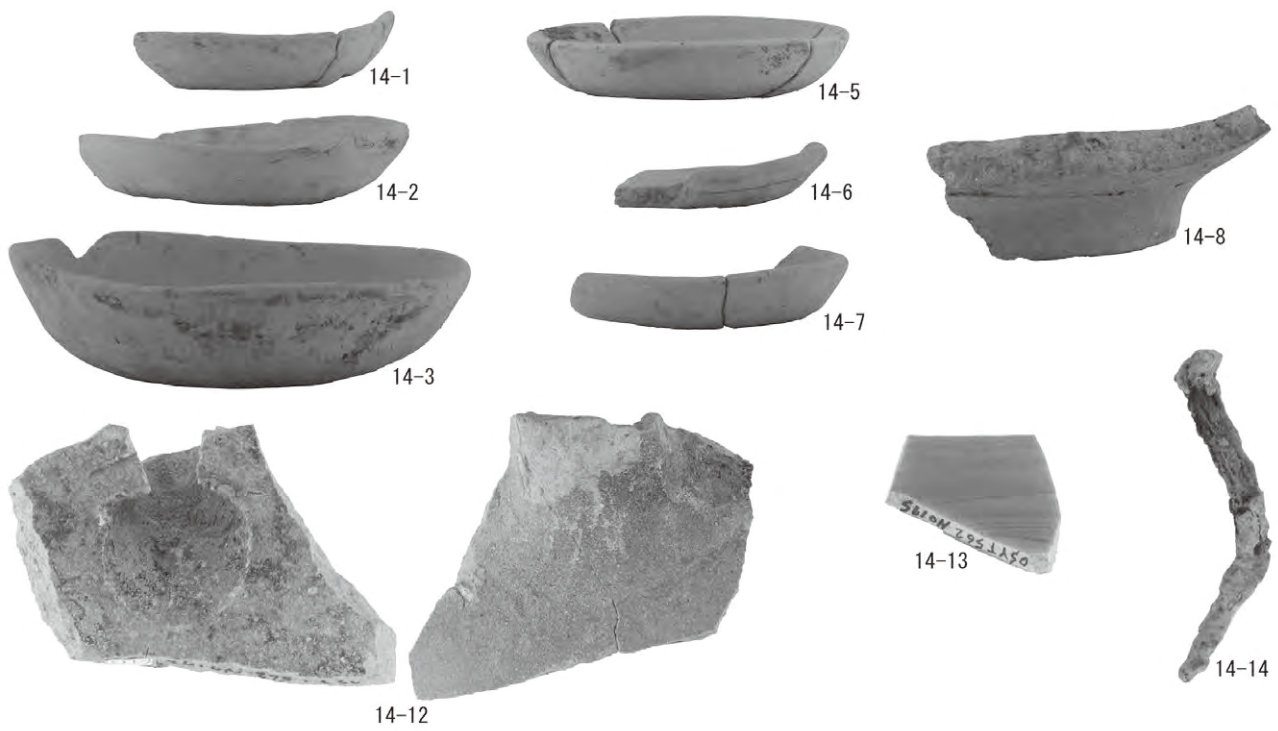
出土遺物3



出土遺物 4



图版 11



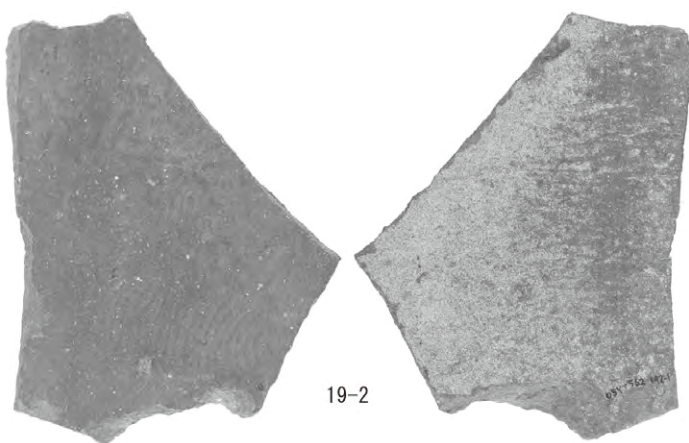
出土遺物 5



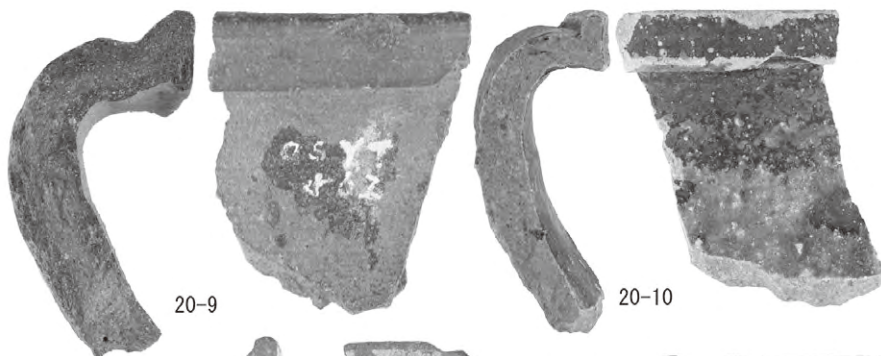
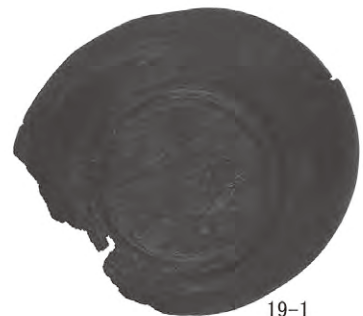




19-1

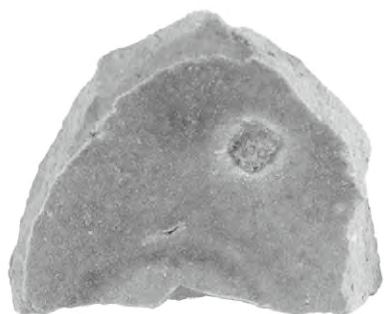


19-2



20-9

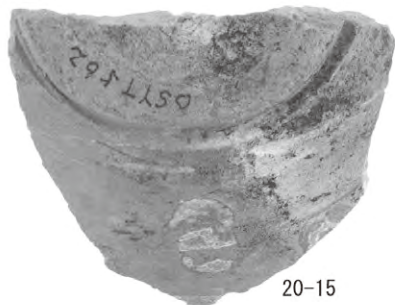
20-10



20-11



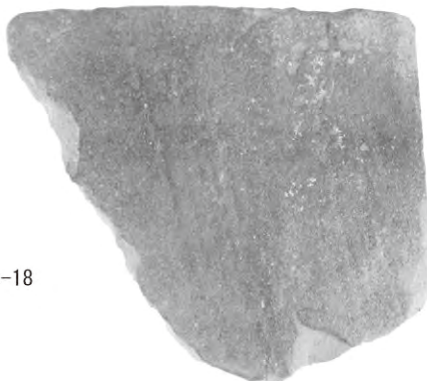
20-12



20-15



20-18



20-19



表採・高麗青磁



20-20

出土遺物 7